

元 総 社 蒼 海 遺 跡 群 (85)・(88)～(90)・(96)～(98)

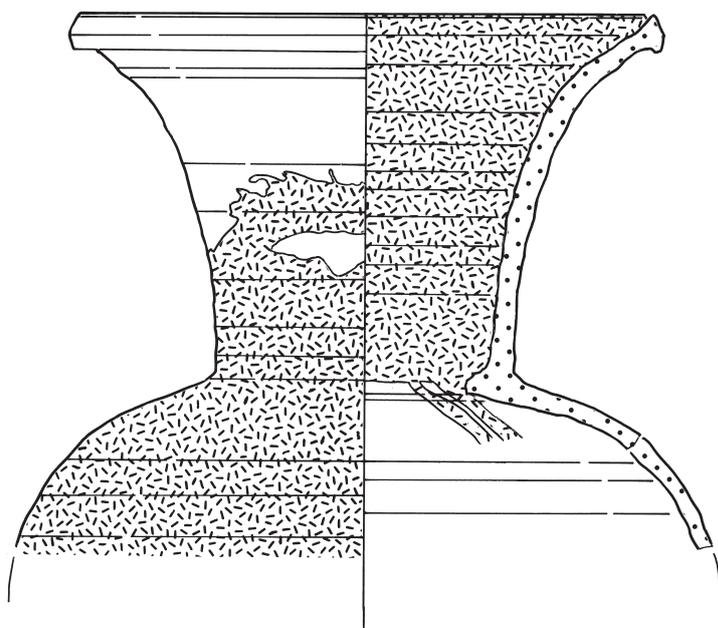
前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 5 . 3

前 橋 市 教 育 委 員 会

元総社蒼海遺跡群 (85)・(88)～(90)・(96)～(98)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群(97)H-2号住居出土
灰釉陶器(細口瓶)

2015.3

前橋市教育委員会



1. 元総社蒼海遺跡群（97）から東（市街地方面）を望む



2. 元総社蒼海遺跡群（97）全景 西から



3. 元総社蒼海遺跡群（85）から西（榛名山方面）を望む



4. 元総社蒼海遺跡群（85）全景 南から



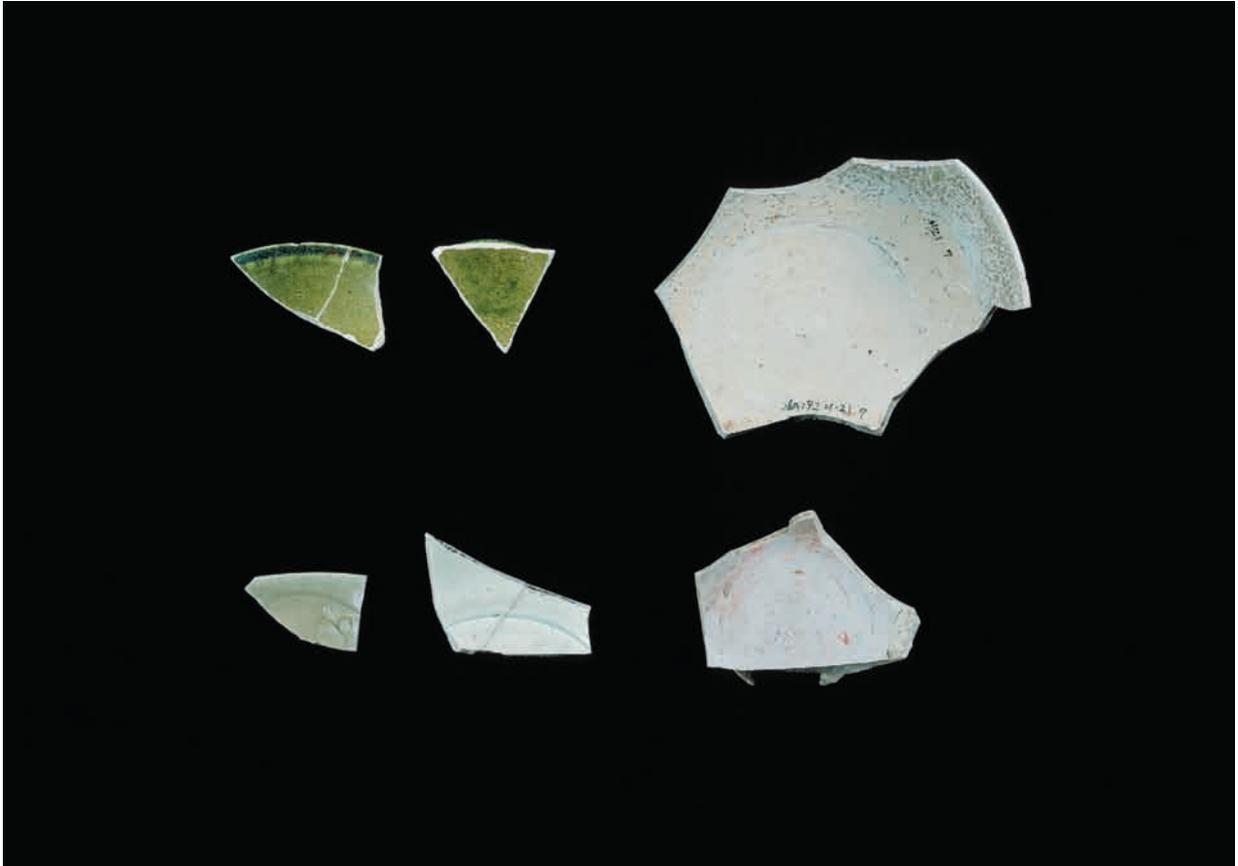
5. 元総社蒼海遺跡群 (97) H-1号住居跡竈 西から



6. 元総社蒼海遺跡群 (97) H-3号住居跡出土遺物



7. 元総社蒼海遺跡群 (89)・(97) 出土灰釉陶器



8. 元総社蒼海遺跡群 (85)・(97) 出土灰釉陶器片、緑釉陶器片、青磁器片

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群(85)、(88)、(89)、(90)、(96)、(97)、(98)は古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに迫る遺構の検出には至りませんでした。平安時代後期の竪穴住居跡を中心とする集落跡などが検出されました。住居跡からは当時を忍ばせる食器類が出土し、人々の暮らしの一端を垣間見ることができました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、極暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 27 年 3 月

前橋市教育委員会

教育長 佐藤博之

例 言

1. 本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群 (85)、(88)、(89)、(90)、(96)、(97)、(98) 発掘調査報告書である。
2. 調査主体は、前橋市教育委員会である。
3. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調 査 場 所	群馬県前橋市総社町総社 3107 ほか
発 掘 調 査 期 間	平成 26 年 5 月 20 日～平成 26 年 11 月 13 日
整理・報告書作成期間	平成 26 年 11 月 14 日～平成 27 年 3 月 20 日
発掘・整理担当者	小峰 篤・渡辺 亮介 (埋蔵文化財係)
4. 本書の原稿執筆・編集は小峰・渡辺が行った。
5. 発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

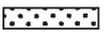
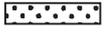
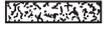
片山武一・小池敏弘・高木勝美・多田ひさ子・戸丸澄江・町田妙子・峰岸あや子・湯浅たま江・湯浅道子
6. 発掘調査で出土した遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡 例

1. 挿図中に使用した北は、座標北である。
2. 挿図に国土交通省国土地理院発行の 1 : 200,000 地形図 (宇都宮、長野)、1 : 25,000 地形図 (前橋)、1 : 6,000 前橋市現形図を使用した。
3. 遺跡の略称は、26A182、26A185、26A186、26A187、26A191、26A192、26A193 である。
4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡 J…縄文時代の住居跡 T…竪穴状遺構 D…土坑
I…井戸跡 O…風倒木跡 B…掘立柱建物跡 W…溝跡 A…道路状遺構 J D…縄文土坑
P…ピット・貯蔵穴
5. 遺構・遺物の実測図の縮尺は、原則的に次のとおりである。その他、各図スケールを参照されたい。

遺構 全体図…1/200、住居跡・竪穴状遺構・溝跡・土坑・ピット…1/60、竈・炉断面図…1/30
遺物 土器…1/3、1/4、石器・石製品・土製品…2/3、1/3、鉄器・鉄製品…1/2、瓦…1/6
6. 計測値については、() は現存値、[] は復元値を表す。
7. セクション注記と遺物観察表の色調について新版標準土色帳 (小山・竹原 1967) を基準とした。
8. 遺構平面図の ----- は推定線を表す。
9. スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図	焼 土… 	粘土… 	
遺構断面図	構築面… 		
遺物実測図	須恵器断面… 	灰釉陶器断面… 	灰釉陶器表面… 
	緑釉陶器断面… 	内黒… 	粘土、たたき… 
	いぶし焼成… 	煤、炭化物付着… 	石；煤、被熱痕… 
10. 主な火山降下物等の略称と年代は次のとおりである。

As-B (浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108 年)
Hr-FP (榛名ニッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、6 世紀中葉)
Hr-FA (榛名ニッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、6 世紀初頭)
As-C (浅間C軽石：供給火山・浅間山、4 世紀前半～中葉)

目 次

はじめに	i
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	
1 遺跡の立地	1
2 歴史的環境	1
III 調査の方針と経過	
1 調査方針	7
2 調査経過	7
IV 基本層序	19
V 遺構と遺物	20
VI まとめ	40

図 版

- 口絵 1 元総社蒼海遺跡群 (97) 遠景
 2 元総社蒼海遺跡群 (97) 全景
 3 元総社蒼海遺跡群 (85) 遠景
 4 元総社蒼海遺跡群 (85) 全景
 5 元総社蒼海遺跡群 (97) H-1 号住居跡竈全景
 6 元総社蒼海遺跡群 (97) H-3 号住居跡出土遺物
 7 元総社蒼海遺跡群 (89)・(97) 出土灰釉陶器
 8 元総社蒼海遺跡群 (85)・(97) 出土灰釉陶器片、緑釉陶器片、青磁器片
- PL. 1 (85) 全景、(85) H-1・5・6 号住居跡
 2 (85) H-7~8、11~13 号住居跡、W-1・3 号溝跡
 3 (85) W-3 号溝跡、D-2・3 号土坑、(88) 耕作痕
 4 (88) 耕作痕、(89) 全景、(89) W-2 号溝跡、(89) W-2 号溝跡出土遺物、(90) 全景
 5 (90) T-1 号竪穴状遺構、(96) 全景、(98) 全景、(98) P-1 号ピット出土遺物、(98) I-1・2 号井戸跡
 6 (98) I-2 号井戸跡、(97) 全景、(97) H-1 号住居跡
 7 (97) H-1~4 号住居跡、(97) H-1~3 号住居跡出土遺物
 8 (97) H-6~10 号住居跡
 9 (97) H-11~16 号住居跡
 10 (97) H-16~20 号住居跡、(97) H-19 号住居跡出土遺物
 11 (97) H-21・22 号住居跡、(97) H-21 号住居跡出土遺物、(97) W-1 号溝跡、
 12 (97) D-1~3、6~8 号土坑、(97) 調査風景
 13 出土遺物 (1)
 14 出土遺物 (2)
 15 出土遺物 (3)
 16 出土遺物 (4)
 17 出土遺物 (5)

挿 図

- Fig.1 元総社蒼海遺跡群位置図
 2 周辺遺跡図
 3 グリッド設定図
 4 元総社蒼海遺跡群 (85) 調査区全体図
 5 元総社蒼海遺跡群 (88) 調査区全体図
 6 元総社蒼海遺跡群 (89) 調査区全体図
 7 元総社蒼海遺跡群 (90) 調査区全体図
 8 元総社蒼海遺跡群 (96) 調査区全体図

- Fig.9 元総社蒼海遺跡群 (97) 調査区全体図
 10 元総社蒼海遺跡群 (98) 調査区全体図
 11 基本層序
 12 (85) H-1・5・6~8 号住居跡
 13 (85) H-8・9・11~13 号住居跡、D-2 号土坑
 14 (85) D-1・3・4 号土坑、W-1~4・6・7 号溝跡
 15 (89) T-1 号竪穴状遺構、W-1・2 号溝跡、(90) T-1 号竪穴状遺構、(97) H-1 号住居跡
 16 (97) H-2~5 号住居跡
 17 (97) H-6~11 号住居跡
 18 (97) H-12~14 号住居跡
 19 (97) H-15~17 号住居跡
 20 (97) H-18~20 号住居跡
 21 (97) H-21・22 号住居跡、W-1 号溝跡
 22 (97) W-1 号溝跡、D-1~9 号土坑
 23 (98) B-1・2 号掘立柱建物跡、I-1・2 号井戸跡、P-20・21 号ピット
 24 (98) P-1~19、22~40 号ピット
 25 (85) H-6・8・12・13 号住居跡、W-2・3・6 号溝跡、グリッド出土遺物、(89) W-2 号溝跡、表採出土遺物
 26 (97) H-1~3 号住居跡出土遺物
 27 (97) H-3・6~8・12・14 号住居跡出土遺物
 28 (97) H-15~22 号住居跡出土遺物
 29 (97) H-22 号住居跡、グリッド、表採出土遺物、(98) P-1 号ピット、I-2 号井戸跡出土遺物
 30 (98) グリッド出土遺物、(85)・(97)・(98) 土製品、石製品、古銭、瓦、鉄製品

表

- Tab.1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
 2 竪穴住居跡・竪穴状遺構計測一覧表
 3 掘立柱建物跡計測一覧表
 4 溝跡計測一覧表
 5 土坑・井戸跡・ピット計測一覧表
 6 元総社蒼海遺跡群 (85) 出土土器観察表
 7 元総社蒼海遺跡群 (89) 出土土器観察表
 8 元総社蒼海遺跡群 (97) 出土土器観察表
 9 元総社蒼海遺跡群 (98) 出土土器観察表
 10 石器・石製品観察表
 11 鉄器・鉄製品観察表
 12 土製品観察表
 13 瓦観察表
 14 銭貨観察表

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、16年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成26年5月2日付けで、前橋市長 山本 龍より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では実施について協議を行い、これを受諾し、平成26年5月7日付けで、調査依頼者である前橋市長 山本 龍に対し前橋市教育委員会による発掘調査を実施する旨の回答を行った。これを受け平成26年5月20日から現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(85)」(遺跡コード:26A182)、「元総社蒼海遺跡群(88)」(遺跡コード:26A185)、「元総社蒼海遺跡群(89)」(遺跡コード:26A186)、「元総社蒼海遺跡群(90)」(遺跡コード:26A187)、「元総社蒼海遺跡群(96)」(遺跡コード:26A191)、「元総社蒼海遺跡群(97)」(遺跡コード:26A192)、「元総社蒼海遺跡群(98)」(遺跡コード:26A193)の「元総社蒼海遺跡群」は区画整理事業名を採用し、数字の「(85)・(88)～(90)・(96)～(98)」は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するために付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯という4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山噴火によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層(水成)から成り立っている。台地の東部は、広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市総社町総社、元総社町地内に所在している。南東へ約1kmの所に上野国総社神社があり、すぐ西には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号線、県道足門・前橋線が東西に、東側には主要地方道前橋・安中・富岡線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2 歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割を利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連続と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地

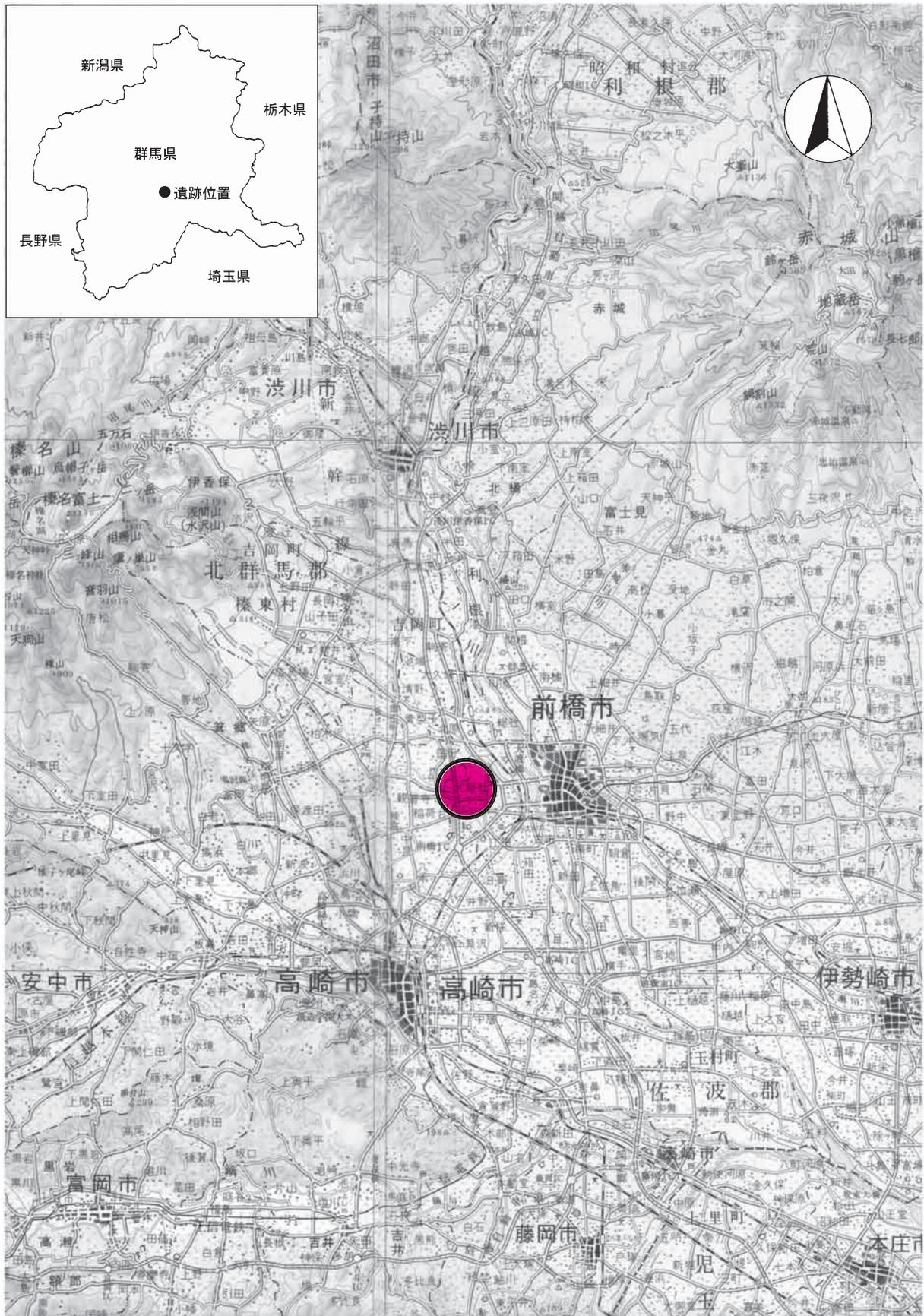


Fig.1 元総社蒼海遺跡群位置図

域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の北東に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ横穴式両袖型の石室が築造された前方後円墳の総社二子山古墳、両袖型横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内古墳最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳があり、この地域と中央との関係を考えるうえで重要な意味をもつ古墳群といえる。また、宝塔山古墳の南西 500 m には白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。なお、平成 18 年度から 5 カ年計画で「山王廃寺範囲内容確認調査」が実施され、平成 18 年度では「講堂」の版築基壇や「回廊」の北東根石、平成 19 年度では「金堂」の版築基壇や「回廊」の西側根石が、平成 20 年度では「塔」の基壇とその周辺部が確認された。平成 21 年度では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が確認された。

奈良・平安時代になると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や「国厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡などがある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡や元総社蒼海遺跡群（7）（9）（10）と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東北外郭線が想定されるに至った。さらに、周辺遺跡からは、官人が用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）、緑釉陶器も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正 15 年に国指定史跡となり、昭和 40 年代から部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和 55 年 12 月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、塀等が確認されている。さらに、国分尼寺の調査では、昭和 44・45 年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成 12 年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と南西隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺、国分尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺、尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物群が検出されている。

また、群馬町（現高崎市）の調査等により、本遺跡から約 1.5km 南の地点に N - 64° - E 方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約 4.5 m の道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年（1429）、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って造られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成 11 年より継続的に本地域の発掘調査が行われている。今後、これら調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されることを期待する。

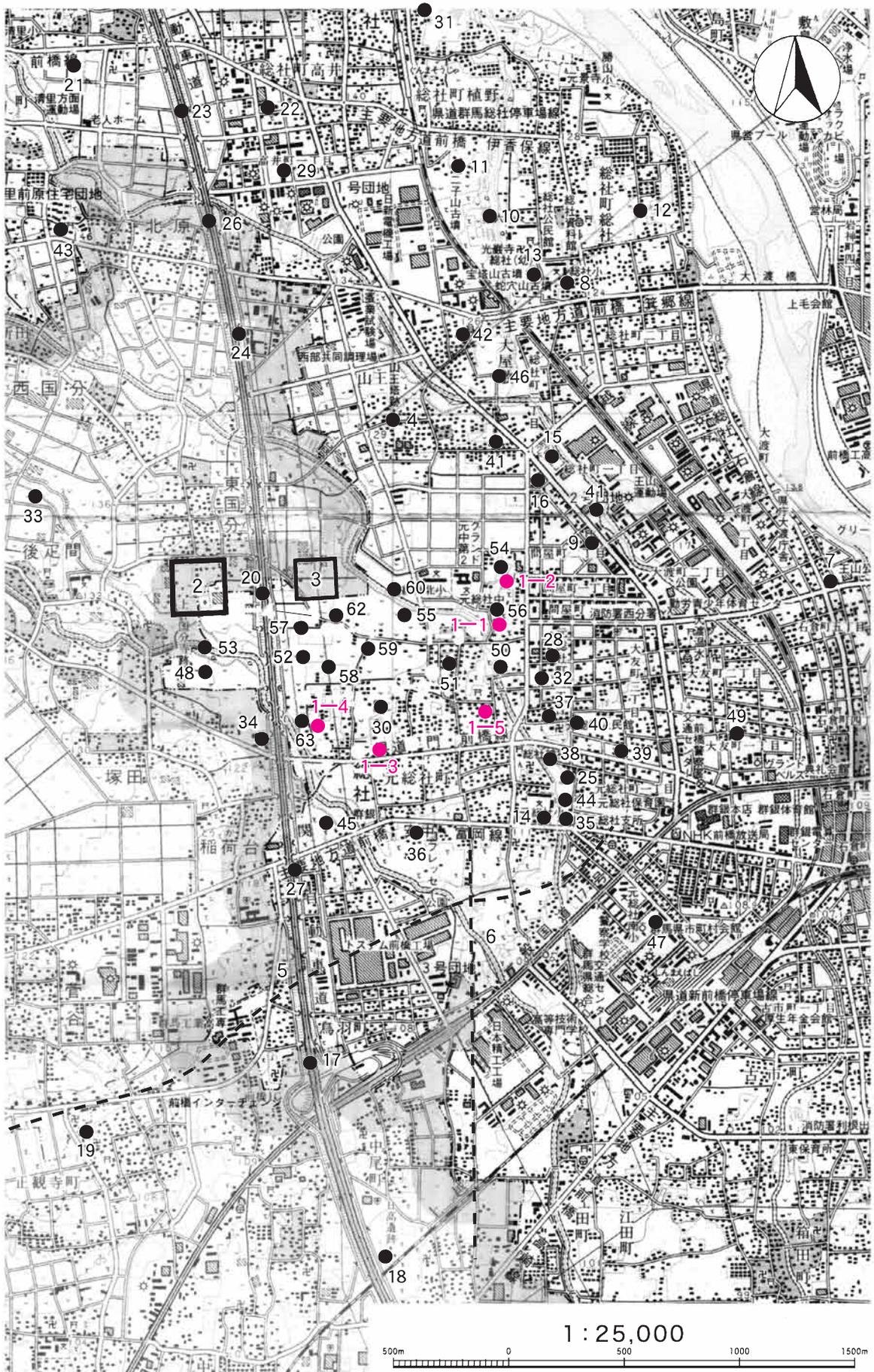


Fig.2 周辺遺跡図

Tab. 1 元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代: 主な遺構・出土遺物
1-1	元総社蒼海遺跡群 (85)・(97)	2014	本遺跡
1-2	元総社蒼海遺跡群 (88)	2014	本遺跡
1-3	元総社蒼海遺跡群 (89)	2014	本遺跡
1-4	元総社蒼海遺跡群 (90)	2014	本遺跡
1-5	元総社蒼海遺跡群 (96)・(98)	2014	本遺跡
2	上野国分寺跡 (県教委)	1980～88	奈良: 金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈良: 西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古墳: 塔心礎・根巻石
5	東山道 (推定)		
6	日高道 (推定)		
7	王山古墳	1972	古墳: 前方後円墳 (6C 中)
8	蛇穴山古墳	1975	古墳: 方墳 (8C 初)
9	稲荷山古墳	1988	古墳: 円墳 (6C 後半)
10	愛宕山古墳	1996	古墳: 円墳 (7C 初)
11	総社二子山古墳	未調査	古墳: 前方後円墳 (6C 末～7C 初)
12	遠見山古墳	未調査	古墳: 前方後円墳 (5C 後半)
13	宝塔山古墳	未調査	古墳: 方墳 (7C 末)
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安: 掘立柱建物跡・柱穴群・周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄文: 住居跡
16	産業道路西遺跡		縄文: 住居跡
17	中尾遺跡 (事業団)	1976	奈良・平安: 住居跡
18	日高遺跡 (事業団)	1977	弥生: 水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農耕具、平安: 条里制水田跡
19	正観寺遺跡 I～IV (高崎市)	1979～81	弥生: 住居跡、古墳: 住居跡、奈良・平安: 住居跡、中世: 溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域 (事業団)	1980～83	縄文: 住居跡・配石遺構、弥生: 住居跡・方形周溝墓、古墳: 住居跡、奈良・平安: 住居跡・掘立柱建物跡、中世: 掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
21	清里南部遺跡群・Ⅲ	1980	縄文: ビット、奈良・平安: 住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安: 住居跡
23	下東西遺跡 (事業団)	1980～84	縄文: 屋外埋壘、弥生: 住居跡、古墳: 住居跡、奈良・平安: 住居跡・掘立柱建物跡・柵列、中世: 住居跡・溝跡
24	国分境遺跡 (事業団)	1990	古墳: 住居跡、奈良・平安: 住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古墳: 住居跡、奈良・平安: 住居跡
	国分境Ⅲ遺跡 (群馬町)	1991	古墳: 住居跡、奈良・平安: 住居跡・畠跡、中世: 土壘墓
25	元総社明神遺跡 I～XⅢ	1982～96	古墳: 住居跡・水田跡・堀跡、奈良・平安: 住居跡・溝跡・大形人形、中世: 住居跡・溝跡・天目茶碗
26	北原遺跡 (群馬町)	1982	縄文: 土坑・集石遺構、古墳: 水田跡、奈良・平安: 住居跡・掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡 (事業団)	1978～83	古墳: 住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安: 住居跡・掘立柱建物跡 (神殿跡)
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安: 溝跡 (上幅 6.5～7m、下幅 3.24m、深さ 2m)
29	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983,88	奈良・平安: 住居跡・溝跡
30	草作遺跡	1984	古墳: 住居跡、平安: 住居跡、中世: 井戸跡
31	桜ヶ丘遺跡		弥生: 住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡・Ⅱ遺跡	1985,87	奈良・平安: 住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古墳: 住居跡、奈良・平安: 溝跡
33	後疋間遺跡 I～Ⅲ (群馬町)	1985～87	古墳: 住居跡、奈良・平安: 住居跡、中世: 道路状遺構
34	塚田村東遺跡 (群馬町)	1985	平安: 住居跡
35	寺田遺跡	1986	平安: 溝跡・木製品
36	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986,88	奈良・平安: 住居跡
37	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986,95	古墳: 住居跡、平安: 住居跡、中世: 堀跡・石敷遺構

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
40	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡
43	熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1989	平安：住居跡
44	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ (事業団)	1988～91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・人形・斎串・墨書土器、中世：溝跡
45	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989,95	古墳：住居跡、平安：住居跡
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992～2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡
	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(7)	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群(9)・(10)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡
51	元総社宅地遺跡Ⅰ～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡・五輪塔・埴類
52	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
53	元総社西川遺跡(事業団)	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、近世：溝跡
55	元総社小見Ⅲ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡、溝跡
	元総社小見Ⅵ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
	元総社蒼海遺跡群(12)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
56	総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡
	総社閑泉明神北Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	古墳：畠跡、中世：畠跡
57	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社小見Ⅳ・Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
	元総社小見Ⅵ・Ⅶ遺跡	2004	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
	元総社蒼海遺跡群(4)	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
58	元総社小見Ⅲ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構
	元総社草作Ⅴ遺跡	2002	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
59	元総社小見Ⅳ遺跡	2002	奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土壙墓・掘立柱建物跡・溝跡
	元総社小見Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：竪穴状遺構
	元総社小見Ⅸ・Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑・金片・金片、中世：溝跡・土壙墓
	元総社蒼海遺跡群(2)(6)	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、井戸跡、中世：溝跡
	元総社蒼海遺跡群(11)	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社北川遺跡(事業団)	2002～04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中・近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構・出土遺物
61	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡・竈構築材採掘痕・井戸跡
62	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
	元総社蒼海遺跡群（1）（5）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
63	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	奈良・平安：住居跡、緑釉陶器

※ 調査年度の欄の（ ）は調査開始年度を表す。

※ 遺跡名の欄の（事業団）は（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団を表す。

Ⅲ 調査方針と経過

1 調査方針

発掘調査を依頼された箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い新設される道路用地等である。調査面積は、元総社蒼海遺跡群（85）483㎡、元総社蒼海遺跡群（88）50㎡、元総社蒼海遺跡群（89）73㎡、元総社蒼海遺跡群（90）69㎡、元総社蒼海遺跡群（96）47㎡、元総社蒼海遺跡群（97）927㎡、元総社蒼海遺跡群（98）286㎡、総調査面積は、1,935㎡である。遺構番号は、遺跡ごとに個別に付番することとし、85-H-1号住居跡、97-H-1号住居跡のように、遺構の前に必ず遺跡番号を付すこととした。

グリッド座標については国家座標（日本測地系） $X = + 44000$ ・ $Y = - 72200$ を基点（ $X 0$ ・ $Y 0$ ）とする4mピッチのものを使用し、元総社蒼海遺跡群（85）においては、西から東へX 255、256、257…、北から南へY 102、103、104…と付番し、グリッド呼称は北西杭の名称を使用した。

元総社蒼海遺跡群（85）のX 260・Y 105の公共座標は以下のとおりである。

日本測地系	X = + 43,580.000		Y = - 71,160.000
緯度	36° 23' 24".6886	経度	139° 02' 24".0357
子午線収差角	28' 14"	増大率	0.999962

調査方法については、表土掘削・遺構確認・方眼杭等設置・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真の手順で行うこととした。このうちの遺構確認については、基本的にAs-C軽石、Hr-FP軽石、As-B軽石が混入する土層を手がかりとした。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録を記載しながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2 調査経過

現地調査は平成26年5月20日から11月13日まで行った。調査経過は下記のとおりである。

元総社蒼海遺跡群（85）… 6月2日～4日に重機による表土掘削を行った。遺構確認面まで比較的浅く遺構の残存状況は良好ではなかった。検出された遺構は竪穴住居跡が9軒、溝跡6条、土坑4基である。8月5日に高所作業車による調査区全景の撮影を行い、調査を終了した。

元総社蒼海遺跡群（88）… 5月20日に重機による表土掘削を行った。過去に実施した隣接する遺跡では、古墳時代や平安時代の畠跡が検出されていたことから、同様の遺構検出が想定された。しかしながら、後世の掘削などにより遺構の大半が壊されていた。残存する遺構部分の記録等を行い、5月22日に埋め戻し調査終了となった。

元総社蒼海遺跡群（89）… 5月27日に重機による表土掘削を行った。遺構確認面の総社砂層まで浅く、検出された遺構は溝跡が2条、竪穴状遺構1軒である。溝跡のうち1条は蒼海城関連の堀と思われる。6月4日をもって調査終了となった。

元総社蒼海遺跡群（90）… 5月23日に重機による表土掘削を行った。掘削時には遺物がほとんど見受けられず、総社砂層まで掘り下げ、竪穴状遺構1軒が検出されたのみである。5月29日に埋め戻しを行い調査終了となった。

元総社蒼海遺跡群（96）… 7月15日から重機による表土掘削を行った。調査面積は僅かであったが民家の庭先であることから出入口の確保や、排土置場の都合から切り返しによる表土掘削となっ

た。総社砂層までの掘削深度は極めて浅くほとんど表土がない状況であった。後世の攪乱が激しく遺構の検出には至らなかった。7月17日に埋め戻しを行い調査終了となった。

元総社蒼海遺跡群(97) … 調査区の東側半分については、7月23日～25日に重機による表土掘削を行った。西側半分については9月26日～30日に表土掘削を行った。本年度に調査した遺跡の中で最大の面積を持つ。検出した遺構は、竪穴住居跡が22軒、溝跡1条、土坑9基などである。11月13日に高所作業車による調査区全景の空撮を行い、調査終了となった。

元総社蒼海遺跡群(98) … 9月3日、4日の2日間をかけ表土掘削を行った。遺構面まで浅かったことと元来調査地が住宅地であったことなどから、攪乱を受けている箇所が見受けられた。検出した遺構としては、多数のピットが中心で、その中からやや規則性を持った配列から掘立柱建物跡2棟、井戸跡2基、土坑4基などである。9月25日に調査区全景写真を撮影し、翌26日に埋め戻しを行い調査終了となった。

現地での発掘調査は11月13日に全て終了の運びとなり、その後、11月14日から現場プレハブにおいて、遺物洗浄、注記作業等の整理作業に着手した。12月15日から文化財保護課庁舎での本格的な整理作業を開始した。出土遺物の接合・復元・実測、図面・写真等の整理、遺構計測及び報告書作成に伴う諸作業を行い、翌年3月20日までに全ての作業を終了した。

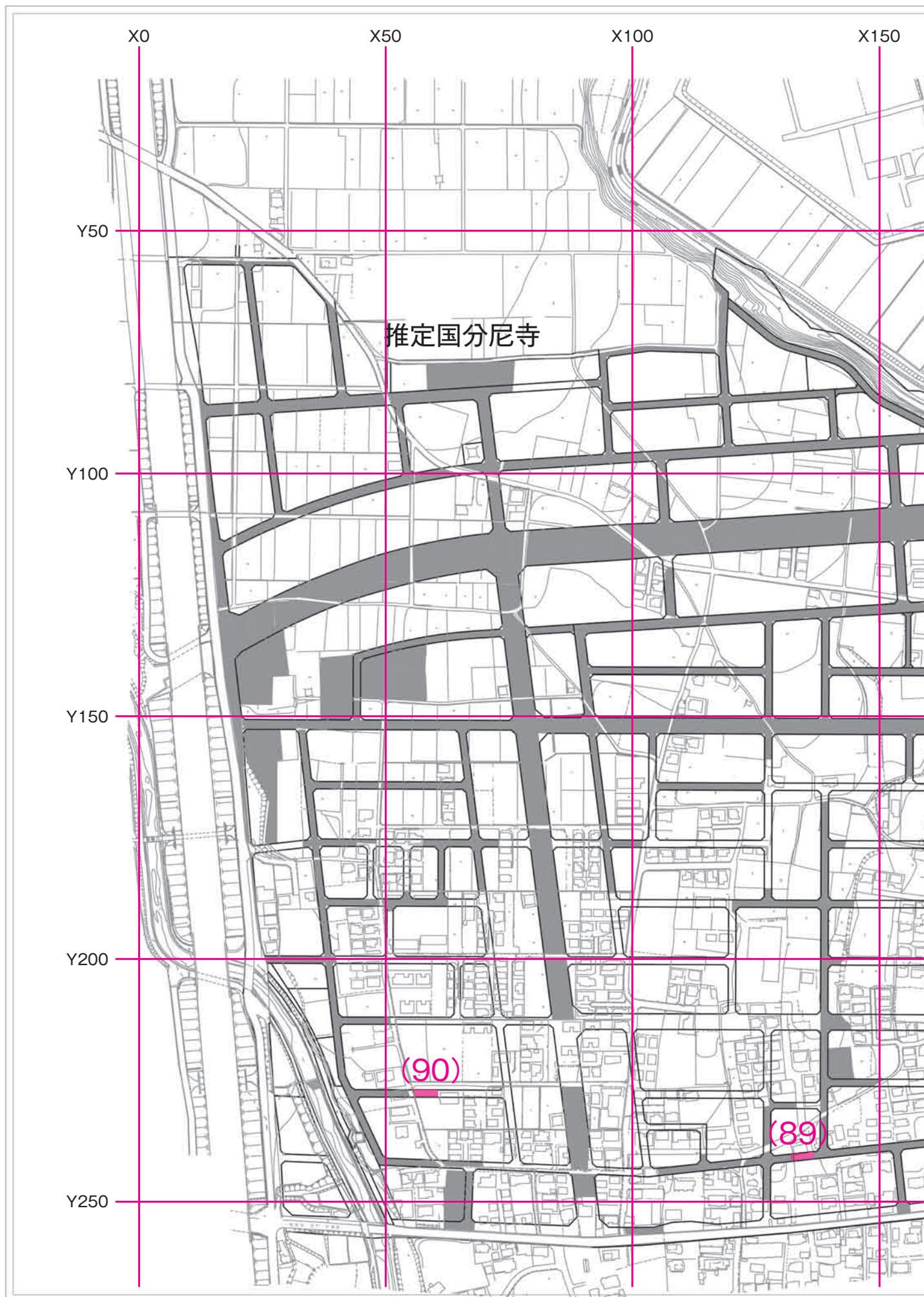
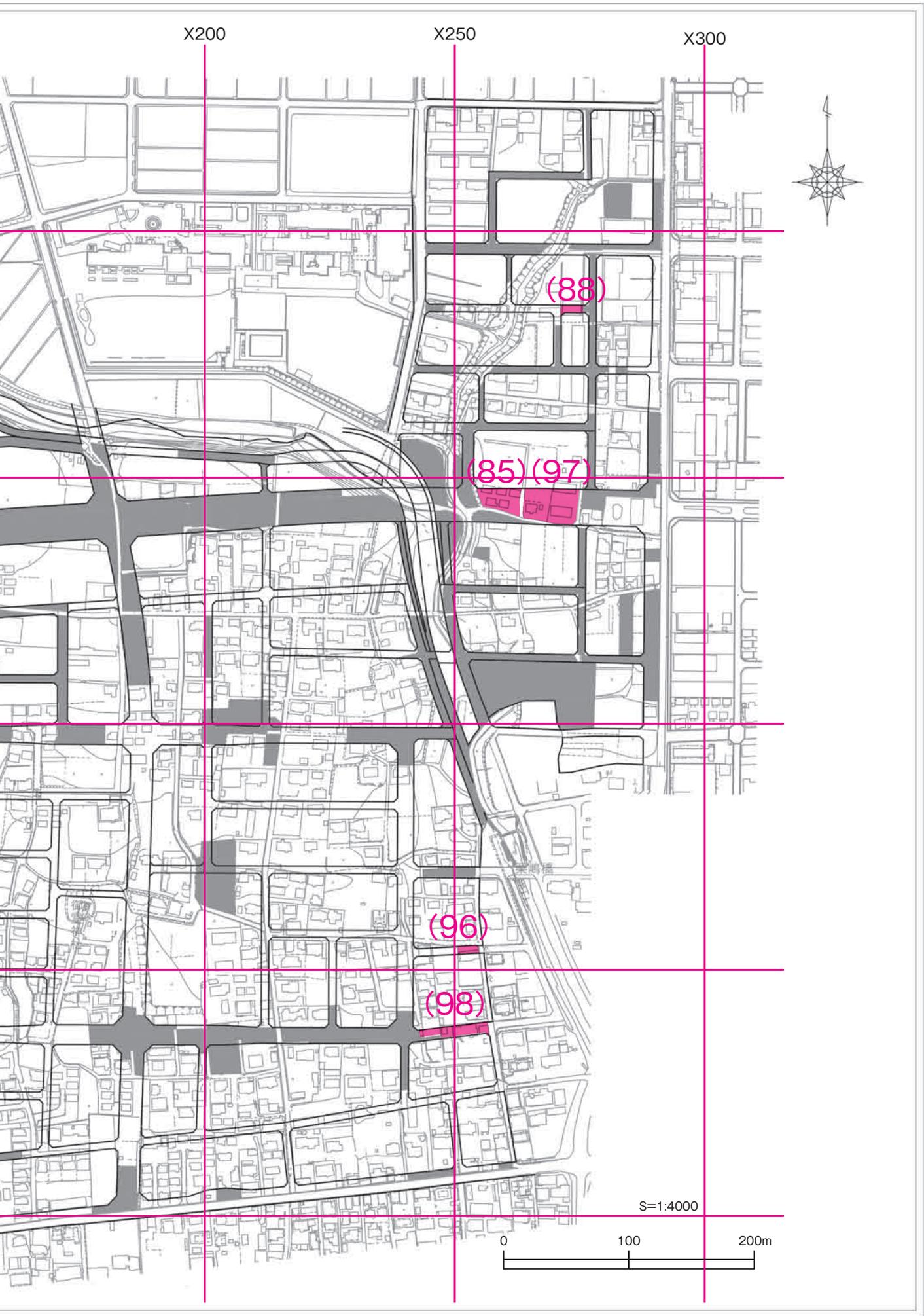


Fig.3 グリッド設定図



元総社蒼海遺跡群 (85)

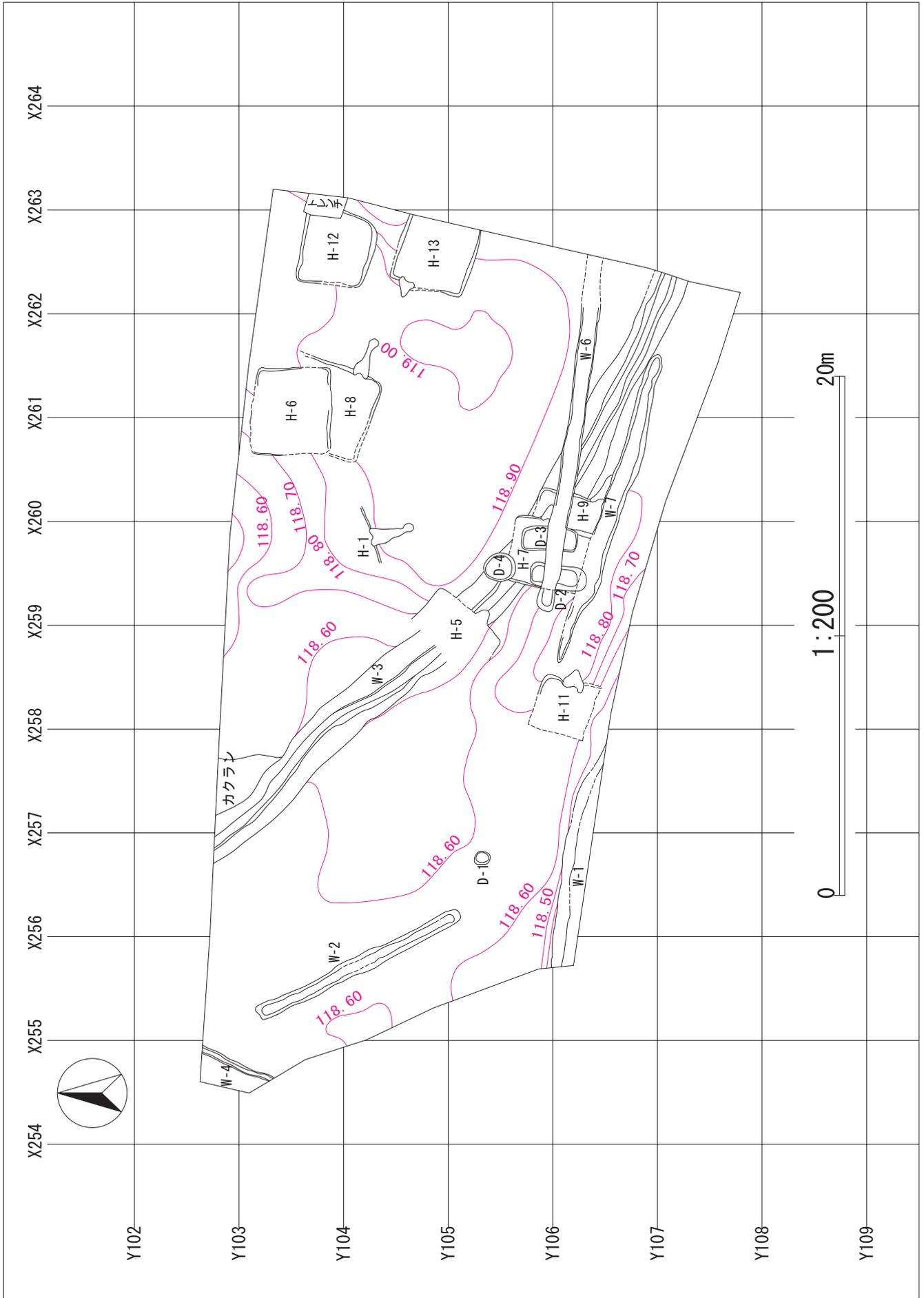
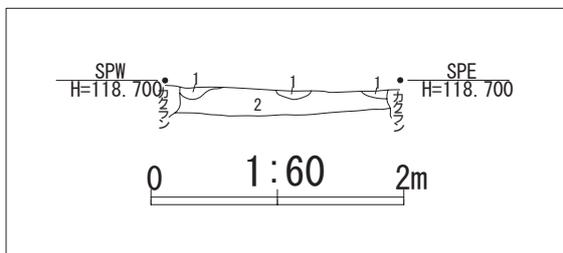
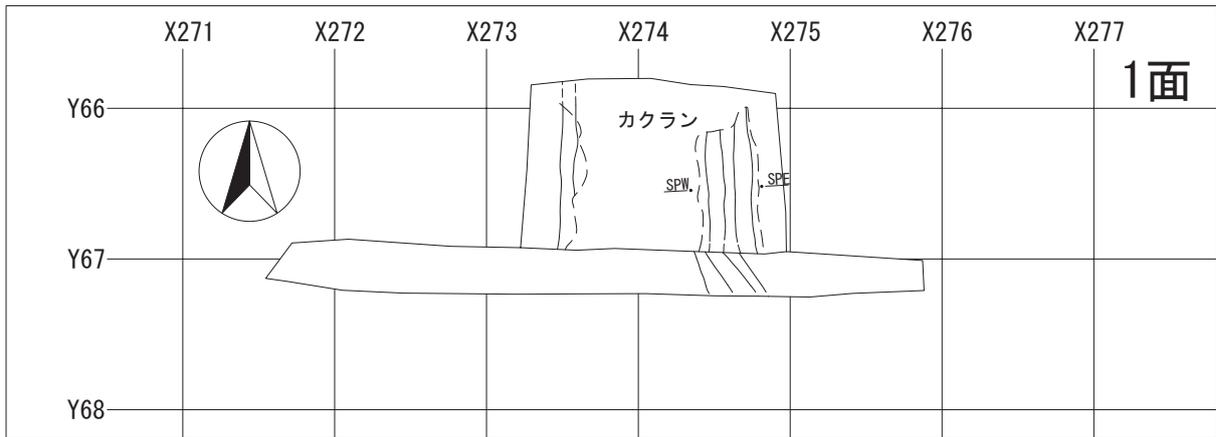
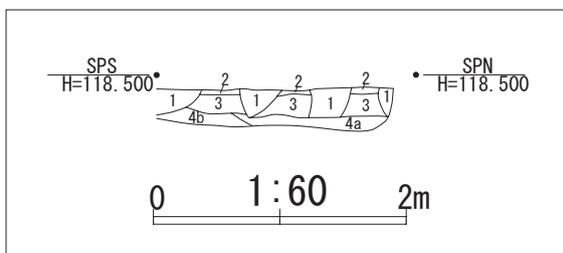
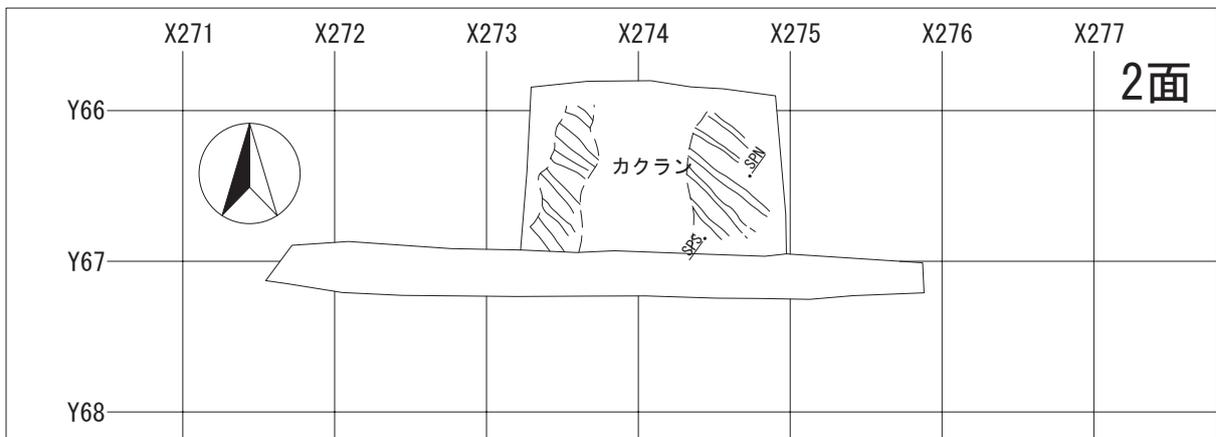


Fig.4 元総社蒼海遺跡群 (85) 調査区全体図

元総社蒼海遺跡群 (88)



- 1層 As-B 軽石純層
- 2層 灰褐色細砂層 粘性あり、締まりあり、As-C5%



- 1層 黒褐色細砂層 粘性ややあり、締まりあり、Hr-FA 極少量
- 2層 暗褐色細砂層 粘性なし、締まりあり、Hr-FA5%
- 3層 黒色細砂層 粘性あり、締まりあり、As-C 極少量
- 4a層 黒褐色細砂層 粘性強い、締まりあり
- 4b層 黒褐色細砂層 粘性あり、締まりあり

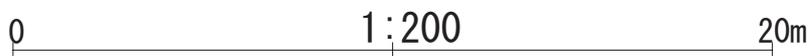


Fig.5 元総社蒼海遺跡群 (88) 調査区全体図

元総社蒼海遺跡群(89)

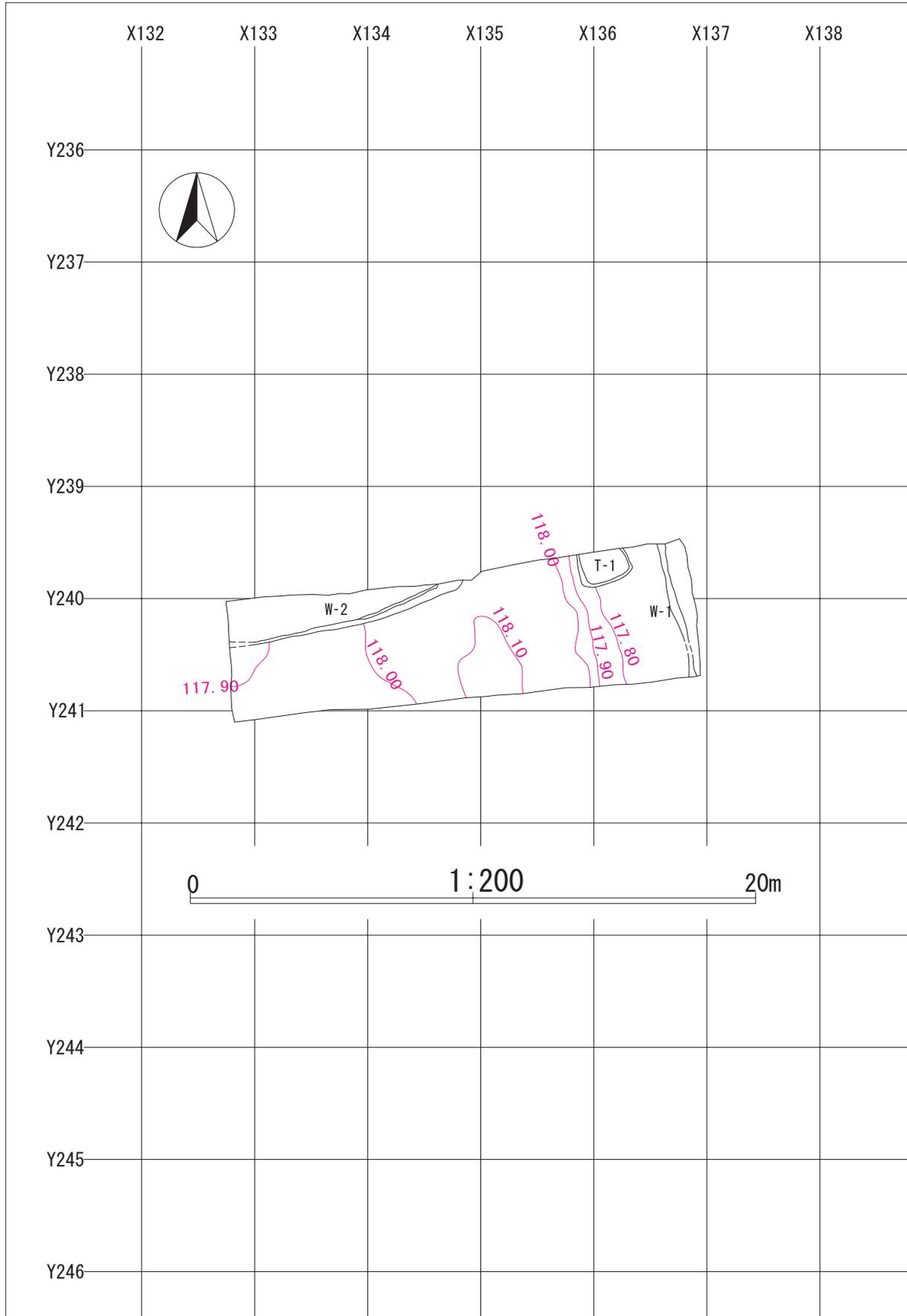


Fig.6 元総社蒼海遺跡群(89) 調査区全体図

元総社蒼海遺跡群 (90)

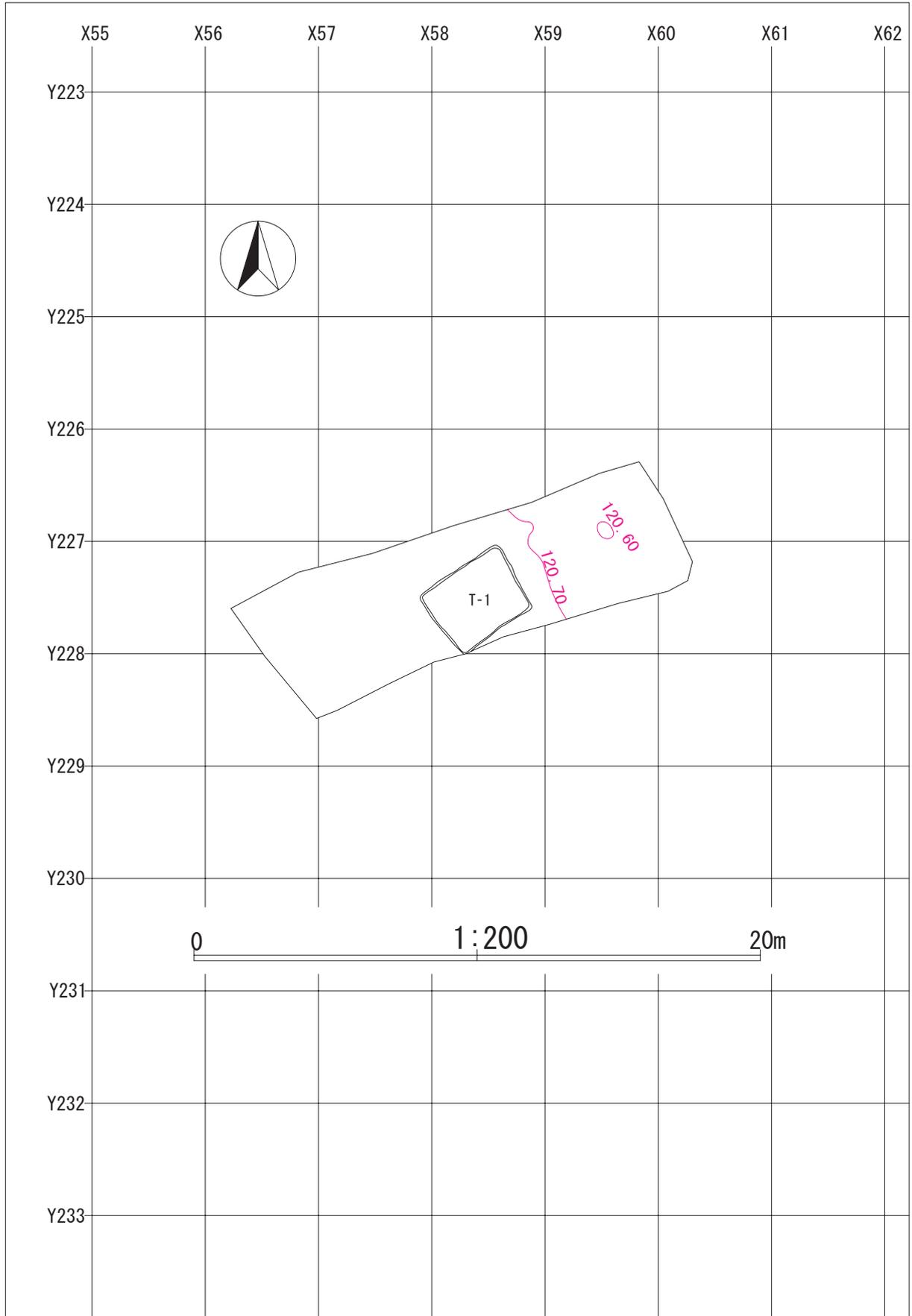


Fig.7 元総社蒼海遺跡群 (90) 調査区全体図

元総社蒼海遺跡群 (96)

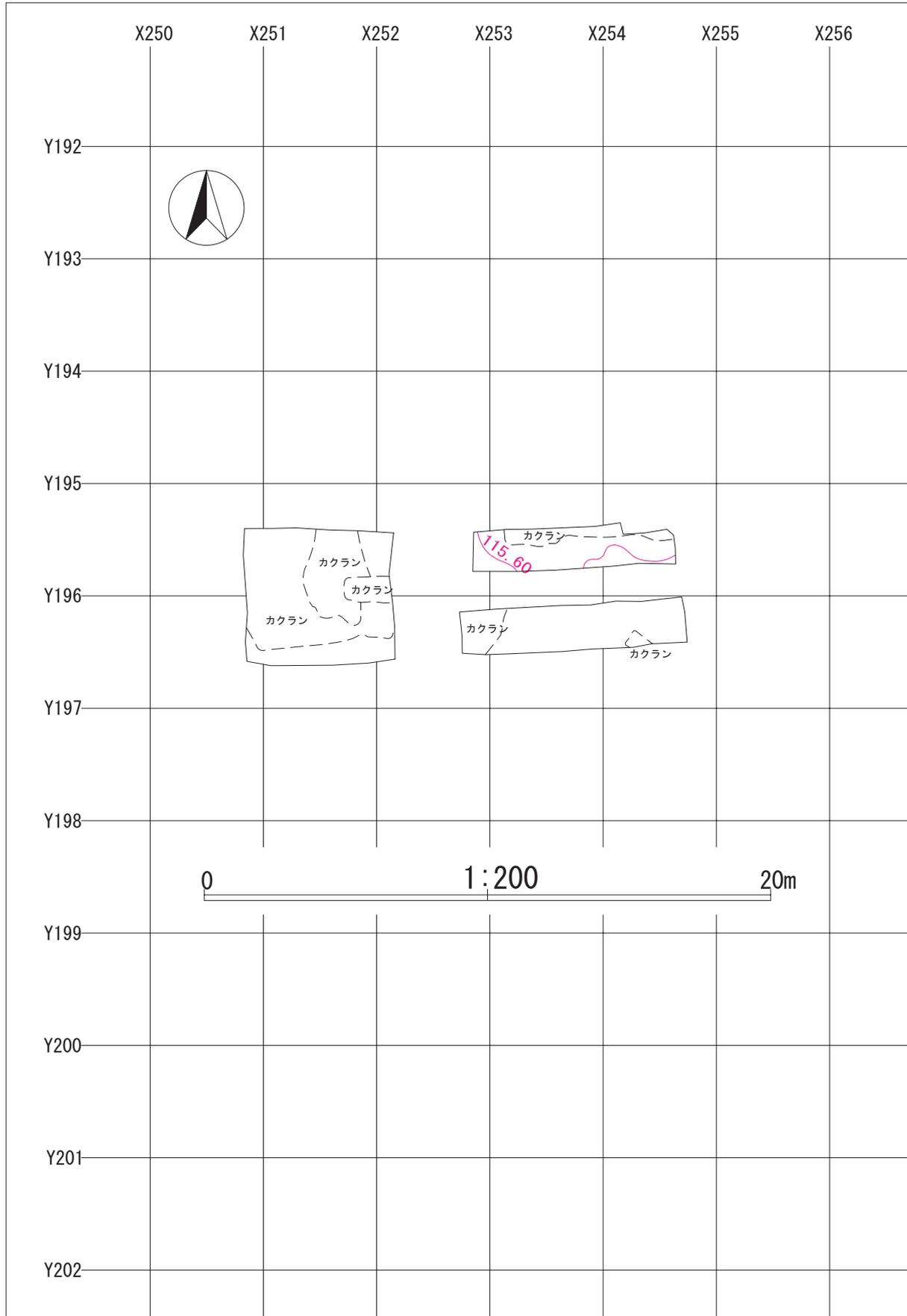


Fig.8 元総社蒼海遺跡群 (96) 調査区全体図

元総社蒼海遺跡群 (97)



Fig.9 元総社蒼海遺跡群 (97) 調査区全体図

元総社蒼海遺跡群 (98)

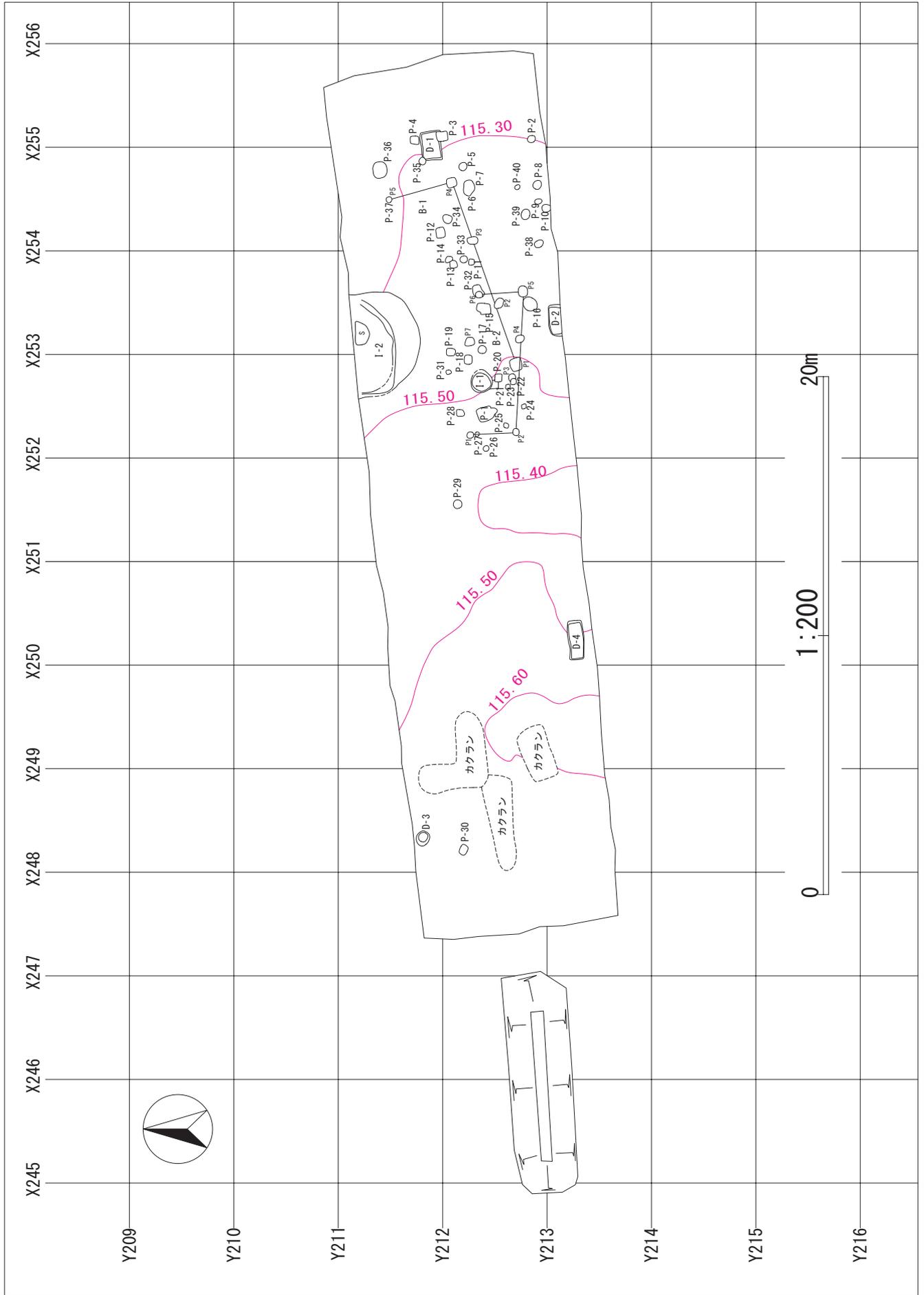


Fig.10 元総社蒼海遺跡群 (98) 調査区全体図

IV 基本層序

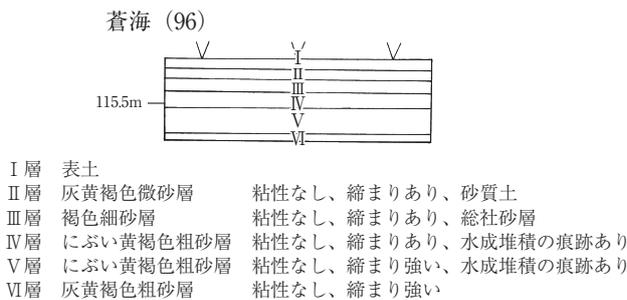
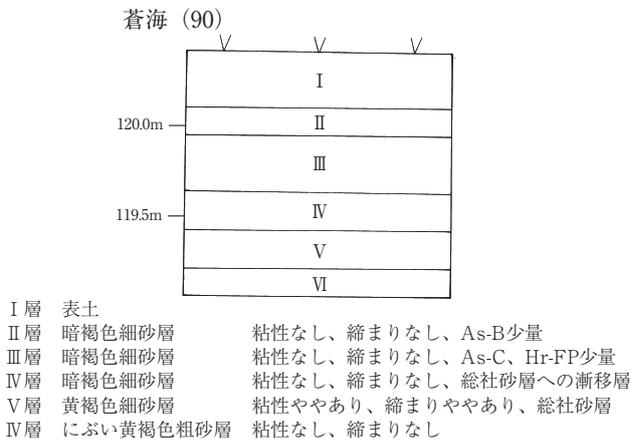
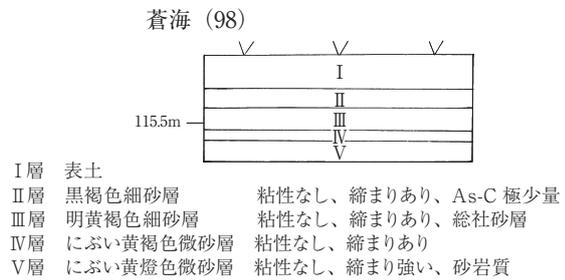
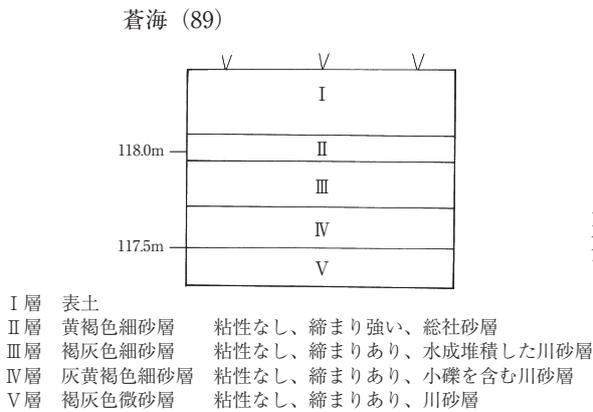
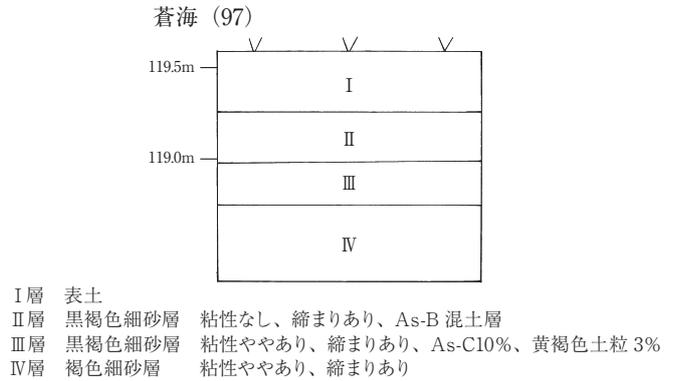
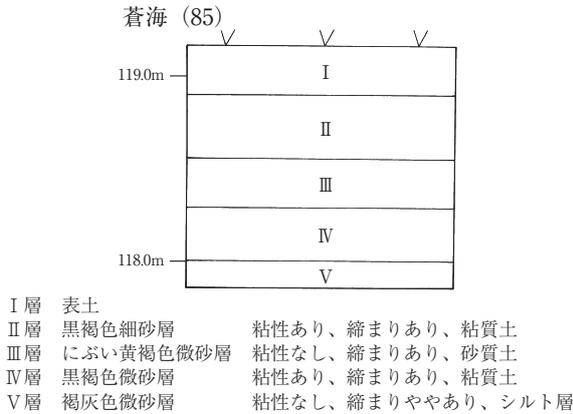


Fig.11 基本層序

V 遺構と遺物

元総社蒼海遺跡群 (85)

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 12 PL. 1)

位置 X 259・260、Y 104 グリッド 主軸方向 N-62°-E 規模 短軸 (1.07) m 長軸 (1.98) m 壁現高 (24.5) cm 面積 (1.8) m² 床面 やや堅緻な面であるが、床面の大半は後世の攪乱などにより確認できない。竈 南壁に位置する。構築材である凝灰岩が両袖部に配置され、南に向かって細く煙道が大きく張り出す。主軸方向N-165°-E。全長166cm。最大幅64cm。焚口部幅42cm。重複 なし。出土遺物 土師器7点、酸化焰焼成須恵器3点。時期 覆土や出土遺物から11世紀の遺構と考えられる。

H-2号住居跡 欠番

H-3号住居跡 欠番

H-4号住居跡 欠番

H-5号住居跡 (Fig. 12 PL. 1)

位置 X 258、Y 105 グリッド 竈 竈のみ確認。大半は破壊されているが、支柱と思われる石材、その東側に火床面を確認した。主軸方向 N-134°-E。全長、最大幅、焚口部幅は不明。重複 W-3と重複。本遺構が新しい。出土遺物 酸化焰焼成須恵器3点。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig. 12 PL. 1)

位置 X 260・261、Y 103 グリッド 主軸方向 N-3°-E 規模 短軸3.12 m 長軸3.36 m 壁現高 (17.0) cm。面積 (9.9) m² 床面 平坦な床面。炭化物が中央に分布する。西壁及び東壁の一部が攪乱によって壊されている。竈 不明 重複 H-8と重複。本遺構が新しい。出土遺物 土師器58点、須恵器4点、酸化焰焼成須恵器48点、瓦1点、灰釉陶器2点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半から中葉と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig. 12 PL. 2)

位置 X 259・260、Y 105・106 グリッド 主軸方向 N-103°-E 規模 短軸 (2.64) m 長軸 (3.32) m 壁現高 (18.0) cm。面積 (8.3) m² 床面 平坦な床面。炭化物が北側に分布する。竈 東壁中央やや北寄りに位置する。竈南半分が溝W-6号溝跡により壊されている。主軸方向 N-103°-E。全長 (91) cm 最大幅 (96) cm 焚口部幅 (26) cm。重複 H-9、D-2、D-3、W-3、W-6、W-7と重複。W-3、H-9より新しく、W-6、W-7、D-2、D-3より先行する。出土遺物 土師器41点、須恵器6点、酸化焰焼成須恵器30点、石製品2点。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig. 12・13 PL. 2)

位置 X 260・261、Y 103・104 グリッド 主軸方向 N-110°-E 規模 短軸 (1.66) m 長軸 (3.40) m 壁現高 (16.5) cm。面積 (5.8) m² 床面 平坦な床面。南西部分の壁面は不明瞭。竈 東壁中央やや南寄りに位置する。東に向っ

て煙道が細長く延びる。主軸方向 N-115°-E。全長164cm。最大幅74cm。焚口部幅26cm。重複 H-6と重複。本遺構が先行する。出土遺物 土師器13点、酸化焰焼成須恵器20点、瓦1点、灰釉陶器1点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig. 13)

位置 X 260・261、Y 105・106 グリッド 主軸方向 N-105°-E 規模 短軸(2.50)m 長軸(3.06)m 壁現高(19.0)cm。面積(4.7)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁に位置するが、南半分はW-7号溝あとによって壊されている。主軸方向 N-108°-E。全長(126)cm。最大幅(114)cm。焚口部幅(55)cm。重複 H-7、W-3、W-6、W-7と重複。W-3より新しくその他の遺構に対しては先行する。出土遺物 土師器10点、須恵器10点、酸化焰焼成須恵器17点、陶器1点、鉄器1点、石製品2点。時期 覆土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H-10号住居跡 欠番

H-11号住居跡 (Fig. 13)

位置 X 257・258、Y 105・106 グリッド 主軸方向 N-106°-E 規模 短軸(2.14)m 長軸(2.20)m 壁現高(11.0)cm。面積(4.6)m² 床面 部分的に堅緻面を確認できるが、住居床面としての全容は不明。竈 東壁に位置する。主軸方向 N-103°-E。全長84cm 最大幅90cm 焚口部幅34cm。重複 なし。出土遺物 土師器13点。時期 覆土や出土遺物から7世紀末と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig. 13 PL. 2)

位置 X 262、Y 103・104 グリッド 主軸方向 N-10°-E 規模 短軸2.79m 長軸2.95m 壁現高36.0cm。面積(7.2)m² 床面 平坦な床面であるが、西側が攪乱により壊されている。竈 不明。重複 なし。出土遺物 土師器22点、須恵器6点、酸化焰焼成須恵器59点、瓦1点、灰釉陶器2点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig. 13 PL. 2)

位置 X 262、Y 104・105 グリッド 主軸方向 N-71°-W 規模 短軸(2.75)m 長軸2.95m 壁現高32.0cm。面積(8.0)m² 床面 平坦な床面。竈 西壁北寄りに位置する。主軸方向 N-72°-W。全長72cm 最大幅70cm 焚口部幅36cm。重複 なし。出土遺物 土師器17点、須恵器6点、酸化焰焼成須恵器84点、瓦2点、灰釉陶器1点。うち3点を図示。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig. 14 PL. 2)

位置 X 255~257、Y 105・106 グリッド 主軸方向 N-101°-E 規模 延長8.88m 最大幅 上幅1.02m 下幅0.60m 深さ0.51m 形状等 V字形 重複 なし。出土遺物 土師器8点、須恵器4点、酸化焰焼成須恵器37点、陶器1点、鉄器2点。時期 覆土や出土遺物などから中世蒼海城関連の堀跡と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig. 14)

位置 X 255・256、Y 103~105 グリッド 主軸方向 N-150°-E 規模 延長8.64m 最大幅 上幅0.74m 下幅0.20m 深さ0.13m 形状等 U字形 重複 なし。出土遺物 土師器4点、須恵器4点、酸化焰焼成須恵器5点、

瓦1点、石製品2点。うち1点を図示。 時期 覆土にAs-B軽石が混入することから、中世の遺構と考えられる。

W-3号溝跡 (Fig. 14 PL. 3)

位置 X 256 ~ 262、Y 102 ~ 107 グリッド 主軸方向 N-138°-W 規模 延長 28.44 m 最大幅 上幅 1.73 m 下幅 0.07 m 深さ 0.70 m 形状等 緩いV字形 重複 H-5、H-7、H-9、W-6、W-7と重複。本遺構が最も古い。 出土遺物 土師器 147 点、須恵器 101 点、酸化焰焼成須恵器 85 点、鉄器 2 点、石製品 3 点、緑釉陶器 3 点、羽口 14 点。うち4点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから、8世紀代の遺構と考えられるが、重複する遺構などから8世紀後半には埋まっていたものと推定される。 備考 本遺構は、他の遺構と比較すると現地表面からの深度があり、残存状況も良好であった。しかし、東に隣接する元総社蒼海遺跡群 (97) ではこれに連なる遺構は確認できなかった。

W-4号溝跡 (Fig. 14)

位置 X 254、Y 102・103 グリッド 主軸方向 N-25°-E 規模 延長 2.95 m 最大幅 上幅 0.29 m 下幅 0.12 m 深さ 0.10 m 形状等 U字形 重複 なし。 出土遺物 土師器 1 点、酸化焰焼成須恵器 2 点。 時期 不明。

W-5号遺跡 欠番

W-6号溝跡 (Fig. 14)

位置 X 259 ~ 262、Y 106 グリッド 主軸方向 N-98°-E 規模 延長 9.44 m 最大幅 上幅 0.74 m 下幅 0.49 m 深さ 0.74 m 形状等 U字形 重複 H-7、H-9、D-2、D-3、W-3と重複。本遺構が最も新しい。 出土遺物 土師器 3 点、須恵器 12 点、酸化焰焼成須恵器 18 点、陶器 1 点、灰釉陶器 2 点。うち1点を図示。 時期 覆土や出土遺物などから中世の遺構と考えられる。

W-7号溝跡 (Fig. 14)

位置 X 258 ~ 261、Y 106・107 グリッド 主軸方向 N-108°-W 規模 延長 11.98 m 最大幅 上幅 0.16 m 下幅 0.11 m 深さ 0.66 m 形状等 U字形 重複 H-7、H-9、D-2、W-3と重複。W-3→H-9→H-7→本遺構→D-2の順。 出土遺物 なし。 時期 覆土などから中世の遺構と考えられる。

(3) 土坑

D-1号土坑 (Fig. 14)

位置 X 256、Y 105 グリッド 形状 円形 規模 長軸 0.59 m 短軸 0.50 m 深さ 0.14 m 出土遺物 なし

D-2号土坑 (Fig. 13)

位置 X 259・260、Y 105・106 グリッド 形状 長方形 規模 長軸 2.14 m 短軸 0.98 m 深さ 0.29 m 出土遺物 須恵器 2 点、酸化焰焼成須恵器 5 点、瓦 1 点。

D-3号土坑 (Fig. 14 PL. 3)

位置 X 259、Y 105・106 グリッド 形状 長方形 規模 長軸 2.14 m 短軸 0.98 m 深さ 0.26 m 出土遺物 土師器 27 点、須恵器 3 点、酸化焰焼成須恵器 10 点、鉄器 1 点。

D-4号土坑 (Fig. 14)

位置 X 259、Y 105 グリッド 形状 円形 規模 長軸 0.85 m 短軸 0.74 m 深さ 0.16 m 出土遺物 酸化焰焼成須恵器 3 点、石田川 1 点。

(4) グリッド等出土遺物

土師器 46 点、須恵器 39 点、酸化焰焼成須恵器 116 点、瓦 4 点、鉄器 8 点、石田川 8 点、灰釉陶器 3 点、縄文土器 1 点、羽口 1 点。うち 3 点を図示。

元総社蒼海遺跡群 (88)

(1) グリッド等出土遺物

土師器 1 点、須恵器 1 点。

元総社蒼海遺跡群 (89)

(1) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig. 15)

位置 X 135・136、Y 239 グリッド 主軸方向 N-70°-W 規模 短軸 (1.20) m 長軸 1.84 m 壁現高 28.5cm 面積 (2.0) m² 床面 やや東側に傾斜する。重複 なし。出土遺物 土師器 1 点、瓦 1 点。時期 覆土などから中世の遺構と推察される。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig. 15)

位置 X 136、Y 239・240 グリッド 主軸方向 N-75°-W 規模 延長 (4.95) m 最大幅 上幅 (0.92) m 下幅 (0.24) m 深さ (0.125) m 形状等 V字形 重複 なし。出土遺物 土師器 2 点、須恵器 1 点、瓦 4 点、中世遺物 1 点。時期 覆土や出土遺物などから中世の遺構と考えられる。

W-2号溝跡 (Fig. 15 PL. 4)

位置 X 132～134、Y 239・240 グリッド 主軸方向 N-76°-W 規模 延長 (8.50) m 最大幅 上幅 (1.68) m 下幅 0.23 m 深さ 0.23 m 形状等 U字形 重複 なし。出土遺物 土師器 7 点、須恵器 11 点、酸化焰焼成須恵器 2 点、灰釉陶器 1 点、瓦 3 点、鉄器 1 点。うち 2 点を図示。時期 覆土や出土遺物などから中世の遺構と考えられる。本遺構は、元総社蒼海遺跡群 (36) 4区で検出された蒼海城関連の堀跡である W-3号溝跡に連なるものと考えられる。

(3) グリッド等出土遺物

土師器 1 点、須恵器 1 点、瓦 2 点、中世の遺物 8 点、不明 2 点。うち 1 点を図示。

元総社蒼海遺跡群 (90)

(1) 竪穴状遺構

T-1号竪穴状遺構 (Fig. 15 PL. 5)

位置 X 57・58、Y 227 グリッド 主軸方向 N-145°-E 規模 短軸 2.58 m 長軸 3.28 m 壁現高 11.5cm 面積 8.5 m² 床面 平坦な床面。重複 なし。出土遺物 土師器 22 点、須恵器 3 点、酸化焰焼成須恵器 3 点、石製品 1 点。時期 覆土や出土遺物などから中世の遺構と考えられる。

(2) グリッド等出土遺物

土師器 12 点、須恵器 4 点、酸化焰焼成須恵器 8 点。

元総社蒼海遺跡群 (96)

(1) グリッド等出土遺物

中世遺物 9 点。

元総社蒼海遺跡群 (97)

(1) 竪穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 15 PL. 6・7)

位置 X 271・272、Y 108・109 グリッド 主軸方向 N-113°-E 規模 短軸 2.90 m 長軸 3.34 m 壁現高 24.5cm。面積 9.7m² 床面 平坦な床面。竈 東壁の南寄りに位置する。天井部構築材の凝灰岩、両袖部の石材が確認でき、比較的良好な残存状況である。また、竈焚口周辺に構築材と思われる石材が分布する。主軸方向 N-128°-E 全長 132cm 最大幅 72cm 焚口部幅 42cm。重複 なし。出土遺物 土師器 15 点、須恵器 18 点、酸化焰焼成須恵器 160 点、瓦 4 点、鉄器 1 点、縄文土器 2 点、灰釉陶器 6 点。うち 3 点を図示。時期 覆土や出土遺物から 11 世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 16 PL. 7)

位置 X 268・269、Y 106 ~ 108 グリッド 主軸方向 N-101°-E 規模 短軸 3.26 m 長軸 4.30 m 壁現高 30.5cm。面積 (13.8) m² 床面 平坦な床面。中央部に焼土、炭化物、焼けた石材が分布する範囲があり、別の遺構との重複や鍛冶遺構の可能性を探ったが、これを示しうる遺構、遺物の検出には至らなかった。北東部は攪乱によって壊されている。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-126°-E 全長 116cm 最大幅 85cm 焚口部幅 32.0cm。重複 なし。出土遺物 土師器 37 点、須恵器 11 点、酸化焰焼成須恵器 105 点、鉄器 2 点、石製品 1 点、縄文土器 3 点、灰釉陶器 3 点、緑釉陶器 1 点。うち 7 点を図示。時期 覆土や出土遺物から 10 世紀後半と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 16 PL. 7)

位置 X 270・271、Y 103 ~ 105 グリッド 主軸方向 N-102°-E 規模 短軸 (2.6) m 長軸 4.08 m 壁現高 17.5cm 面積 (11.9) m² 床面 平坦な床面。南西部及び北東部は攪乱によって壊されている。竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-112°-E 全長 94cm 最大幅 80cm 焚口部幅 34cm。重複 H-4、H-6と重複。本遺構が先行する。出土遺物 土師器 37 点、須恵器 7 点、酸化焰焼成須恵器 84 点、瓦 1 点、鉄器 4 点、石製品 2 点、灰釉陶器 7 点。うち 8 点を図示。時期 覆土や出土遺物から 10 世紀後半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig. 16 PL. 7)

位置 X 271、Y 104・105 グリッド 主軸方向 N-100°-E 規模 短軸 (1.08) m 長軸 2.92 m 壁現高 14.5cm

面積 3.2㎡ 床面 平坦な床面。西側の大半は攪乱によって壊されている。竈 東壁中央やや南寄りに位置するが、一部攪乱により壊されている。天井部の構築材として使用された凝灰岩が出土した。 主軸方向 N-108°-E。全長126cm 最大幅42cm 焚口部幅27cm。重複 H-3、D-1と重複。H-3→本遺構→D-1。 出土遺物 土師器3点、須恵器1点、酸化焰焼成須恵器13点、瓦2点。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig. 16)

位置 X 270、Y 108 グリッド 主軸方向 - 竈 竈の一部を検出した。W-1号溝跡によって大半は壊されている。主軸方向 N-101°-E。全長112cm 最大幅55cm、焚口部幅18cm。重複 W-1と重複。本遺構が先行する。 出土遺物 土師器6点、須恵器2点、酸化焰焼成須恵器20点、瓦1点、陶器1点、灰釉陶器4点。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig. 17 PL. 8)

位置 X 271・272、Y 103・104 グリッド 主軸方向 N-98°-E 規模 短軸 (2.64) m 長軸 3.1 m 壁現高 27.5 cm 面積 (7.2) ㎡ 床面 平坦な床面。北西部の攪乱や他の遺構と重複するため全容は不明。 竈 南東隅に2基検出された。当初作られたものは東向きに設置され、その後やや向きを南に移し新設されたものと思われる。(旧) 主軸方向 N-162°-E。全長130cm 最大幅60cm 焚口部幅32cm。(新) 主軸方向 N-109°-E。全長104cm 最大幅60cm 焚口部幅20cm。重複 H-3、H-11と重複。H-3→本遺構→H-11。 出土遺物 土師器38点、須恵器14点、酸化焰焼成須恵器105点、瓦2点、灰釉陶器2点。うち6点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig. 17 PL. 8)

位置 X 272～274、Y 105・106 グリッド 主軸方向 N-97°-E 規模 短軸 3.12 m 長軸 4.28 m 壁現高 6.5cm。面積 (11.3) ㎡ 床面 平坦な床面。北側が一部攪乱によって壊されている。 竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-109°-E。全長1.35 m、最大幅0.5 m、焚口部幅28cm。 重複 H-8、H-9、H-10、D-2と重複。新旧関係は、D-2より古く、H-8、H-9、H-10より新しい。 出土遺物 土師器35点、須恵器1点、酸化焰焼成須恵器24点、灰釉陶器4点。うち2点を図示。 時期 覆土や出土遺物から10世紀と考えられる。

H-8号住居跡 (Fig. 17 PL. 8)

位置 X 273、Y 106・107 グリッド 主軸方向 N-6°-E 規模 短軸 (1.37) m 長軸 (3.08) m 壁現高 22.0cm 面積 (4.2) ㎡ 床面 北側はH-7によって、東側が攪乱によって壊されているので確認できるのは西側だけである。 竈 不明。 重複 H-7、H-10と重複。遺構の状況や出土遺物から、本遺構→H-10→H-7と推察できる。 出土遺物 土師器16点、須恵器2点、酸化焰焼成須恵器9点、灰釉陶器1点。うち1点を図示。 時期 覆土や出土遺物から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。

H-9号住居跡 (Fig. 17 PL. 8)

位置 X 272、Y 105・106 グリッド 主軸方向 N-22°-E 規模 短軸 (1.42) m 長軸 3.12 m 壁現高 28.0cm 面積 (3.6) ㎡ 床面 平坦な床面。東側大半はH-7と重複する。 竈 不明。 重複 H-7、D-2、D-3と重複。本遺構が最も古い。 出土遺物 土師器17点、須恵器2点、酸化焰焼成須恵器8点、縄文土器1点、灰釉陶器1点。 時期 覆土や出土遺物から10世紀と考えられる。

H-10号住居跡 (Fig. 17 PL. 8)

位置 X 273・274、Y 106グリッド 主軸方向 N-95°-E 規模 短軸 (1.76) m 長軸 (2.48) m 壁現高 20cm
面積 (3.9) m² 床面 西側はH-7、南側は攪乱によって壊され東側は調査区外のため、検出された部分は非常に限定的である。竈 不明。重複 H-7、H-8と重複。遺構の状況や出土遺物から、H-8→本遺構→H-7と推察できる。出土遺物 土師器 18点、酸化焰焼成須恵器 3点、灰釉陶器 1点。時期 覆土や出土遺物から10世紀と考えられる。

H-11号住居跡 (Fig. 17 PL. 9)

位置 X 271・272、Y 103・104グリッド 主軸方向 N-10°-W 規模 短軸 1.92 m 長軸 2.54 m 壁現高 7.0cm。
面積 (3.8) m² 床面 平坦な床面。北西部は大きく攪乱により壊されている。竈 不明。重複 H-6と重複。本遺構が新しい。出土遺物 酸化焰焼成須恵器 4点。時期 覆土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H-12号住居跡 (Fig. 18 PL. 9)

位置 X 268・269、Y 103・104グリッド 主軸方向 N-91°-E 規模 短軸 3.52 m 長軸 (3.7) m 壁現高 19.5 cm
面積 (10.7) m² 床面 平坦な床面。南東部は攪乱により壊されている。竈 南東隅に位置する。煙道が南東方向に伸び、比較的良好に残存する。主軸方向 N-128°-E。全長 123cm、最大幅 91cm、焚口部幅 40cm。
重複 なし。出土遺物 土師器 84点、須恵器 13点、酸化焰焼成須恵器 12点、瓦 6点、鉄器 1点、灰釉陶器 2点。うち2点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-13号住居跡 (Fig. 18 PL. 9)

位置 X 266～268、Y 106・107グリッド 主軸方向 N-100°-E 規模 短軸 3.64 m 長軸 4.51 m 壁現高 (5.5) cm
面積 16.1m² 床面 平坦な床面。竈 南東隅に位置するが残存状況は悪い。主軸方向 N-144°-E。全長 70cm、最大幅 80cm、焚口部幅 38cm。重複 なし。出土遺物 土師器 59点、須恵器 8点、酸化焰焼成須恵器 19点、縄文土器 8点、灰釉陶器 3点。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-14号住居跡 (Fig. 18 PL. 9)

位置 X 266・267、Y 104・105グリッド 主軸方向 N-102°-E 規模 短軸 2.95 m 長軸 3.42 m 壁現高 11.0cm
面積 10.4m² 床面 平坦な床面。竈 東壁中央に位置する。主軸方向 N-120°-E。全長 84cm、最大幅 72cm、焚口部幅 24cm。重複 なし。出土遺物 土師器 46点、須恵器 10点、酸化焰焼成須恵器 33点、灰釉陶器 3点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-15号住居跡 (Fig. 19 PL. 9)

位置 X 265・266 Y 106・107グリッド 主軸方向 N-106°-E 規模 短軸 3.58 m 長軸 3.88 m 壁現高 27.5cm
面積 (13.9) m² 床面 平坦な床面。竈 南東隅に位置する。煙道は南東方向に伸びる。残存状況は比較的良好で、煙道部は焼土が良く残っている。主軸方向 N-141°-E。全長 165cm、最大幅 58cm、焚口部幅 38cm。重複 H-17と重複。本遺構が先行する。出土遺物 土師器 74点、須恵器 12点、酸化焰焼成須恵器 36点、瓦 2点、砥石 1点、土製品 1点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀と考えられる。

H-16号住居跡 (Fig. 19 PL. 9・10)

位置 X 265・266、Y 104～106グリッド 主軸方向 N-106°-E 規模 短軸 2.92 m 長軸 4.18 m 壁現高 29cm

面積 (10.7)m² 床面 平坦な床面。西側の一部が攪乱される。竈 南東隅に位置する。主軸方向 N-113°-E。全長(126)cm、最大幅56cm、焚口部幅46cm。重複 H-22と重複。本遺構が新しい。出土遺物 土師器108点、須恵器25点、酸化焰焼成須恵器21点、瓦3点、鉄器1点、石製品2点、灰釉陶器2点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-17号住居跡 (Fig. 19 PL. 10)

位置 X 265、Y 106・107グリッド 主軸方向 N-105°-E 規模 短軸2.48m 長軸3.18m 壁現高 cm 面積7.7m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-119°-E。全長118cm、最大幅83cm、焚口部幅40cm。重複 H-15と重複。本遺構が新しい。出土遺物 土師器38点、須恵器2点、酸化焰焼成須恵器26点、石製品1点、縄文土器1点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀と考えられる。

H-18号住居跡 (Fig. 20 PL. 10)

位置 X 263・264、Y 105・106グリッド 主軸方向 N-124°-E 規模 短軸2.0m 長軸3.12m 壁現高12cm 面積(5.9)m² 床面 南側は木の根によって攪乱されており、明瞭な床面は確認できない。竈 東壁南側に位置する。主軸方向 N-134°-E。全長86cm、最大幅76cm、焚口部幅32cm。重複 H-19、H-21と重複。新旧関係はH-21→H-19→本遺構。出土遺物 土師器18点、須恵器2点、酸化焰焼成須恵器3点、瓦3点、石製品1点、灰釉陶器2点。うち1点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半と考えられる。

H-19号住居跡 (Fig. 20 PL. 10)

位置 X 264、Y 105・106グリッド 主軸方向 N-98°-E 規模 短軸2.82m 長軸3.0m 壁現高28.5cm 面積(8.3)m² 床面 平坦な床面。竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-110°-E。全長93cm、最大幅100cm、焚口部幅58cm。重複 H-18、H-21と重複。新旧関係はH21→本遺構→H-18。出土遺物 土師器20点、須恵器11点、酸化焰焼成須恵器24点、灰釉陶器1点。うち3点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-20号住居跡 (Fig. 20 PL. 10)

位置 X 265、Y 103・104グリッド 主軸方向 N-99°-E 規模 短軸3.16m 長軸3.18m 壁現高34cm 面積10.3m² 床面 平坦な床面。竈 南東隅に位置する。煙道部が比較的的良好に残存する。主軸方向 N-121°-E。全長134cm、最大幅65cm、焚口部幅32cm。重複 なし。出土遺物 土師器91点、須恵器25点、酸化焰焼成須恵器33点、鉄器2点、灰釉陶器3点、土製品1点。うち3点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。

H-21号住居跡 (Fig. 21 PL. 11)

位置 X 264・265、Y 104・105グリッド 主軸方向 N-95°-E 規模 短軸2.34m 長軸2.50m 壁現高28.5cm 面積(6.5)m² 床面 平坦な床面。竈 南東隅に位置する。主軸方向 N-101°-E。全長88cm、最大幅63cm、焚口部幅46cm。重複 H-18、H-19、H-22と重複。本遺構が最も古い。出土遺物 土師器16点、須恵器3点、酸化焰焼成須恵器17点、陶器2点、灰釉陶器5点。うち4点を図示。時期 覆土や出土遺物から10世紀前半と考えられる。

H-22号住居跡 (Fig. 21 PL. 11)

位置 X 264・265、Y 104・105 グリッド 主軸方向 N-99°-E 規模 短軸 2.93 m 長軸 3.64 m 壁現高 49.0cm
面積 10.6㎡ 床面 平坦な床面。 竈 東壁南寄りに位置する。主軸方向 N-103°-E。 全長 120cm、最大幅
100cm、 焚口部幅 66cm。 重複 H-16、H-21と重複。H-21→本遺構→H-16 出土遺物 土師器 102 点、須
恵器 37 点、酸化焰焼成須恵器 51 点、瓦 4 点、灰釉陶器 5 点、緑釉陶器 1 点。うち 5 点を図示。 時期 覆土や出
土遺物から 10 世紀前半と考えられる。

(2) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig. 21・22 PL. 11)

位置 X 263 ~ 273、Y 107 ~ 109 グリッド 主軸方向 N-99°-E 規模 延長 38.06m 最大幅 上幅 4.36m 下
幅 0.82m 深さ 1.31m 形状等 V字形 重複 なし。 出土遺物 土師器 53 点、須恵器 13 点、酸化焰須恵器 5 点、
瓦 2 点、陶器 3 点、中世陶器 1 点、石製品 1 点、縄文土器 3 点、灰釉陶器 10 点、古銭 1 点。 時期 中世蒼海城
関連の堀跡と考えられる。

(3) 土坑

D-1号土坑 (Fig. 22 PL. 12)

位置 X 271、Y 105 グリッド 形状 円形 規模 長軸 0.72m 短軸 0.70m 深さ 0.33m 出土遺物 土師器 1 点。

D-2号土坑 (Fig. 22 PL. 12)

位置 X 272・273、Y 106 グリッド 形状 円形 規模 長軸 1.27m 短軸 1.12m 深さ 0.395m 出土遺物 土師器
2 点。

D-3号土坑 (Fig. 22 PL. 12)

位置 X 272、Y 106 グリッド 形状 円形 規模 長軸 1.27m 短軸 1.24m 深さ 0.51m 出土遺物 酸化焰焼成
須恵器 5 点、瓦 2 点。

D-4号土坑 (Fig. 22)

位置 X 271、Y 105 グリッド 形状 円形 規模 長軸 1.16m 短軸 1.08m 深さ 0.545m 出土遺物 土師器 1 点、
須恵器 2 点。

D-5号土坑 (Fig. 22)

位置 X 271、Y 105 グリッド 形状 円形 規模 長軸 1.00m 短軸 (0.50) m 深さ 0.21m 出土遺物 なし。

D-6号土坑 (Fig. 22 PL. 12)

位置 X 266、Y 104 グリッド 形状 円形 規模 長軸 0.98m 短軸 0.82m 深さ 0.125m 出土遺物 酸化焰焼成
須恵器 2 点。

D-7号土坑 (Fig. 22 PL. 12)

位置 X 267・268、Y 105 グリッド 形状 長方形 規模 長軸 1.86m 短軸 0.84m 深さ 0.155m 出土遺物 土師
器 2 点、須恵器 1 点。

D-8号土坑 (Fig. 22 PL. 12)

位置 X 264、Y 103 グリッド 形状 円形 規模 長軸 1.00m 短軸 0.84m 深さ 0.12m 出土遺物 なし。

D-9号土坑 (Fig. 22)

位置 X 265、Y 106 グリッド 形状 円形 規模 長軸 0.68m 短軸 0.58m 深さ 0.18m 出土遺物 なし。

(4) グリッド等出土物

土師器 108 点、須恵器 22 点、酸化焰焼成須恵器 109 点、瓦 1 点、鉄器 3 点、石製品 2 点、縄文土器 9 点、灰釉陶器 7 点、緑釉陶器 2 点。うち 3 点を図示。

元総社蒼海遺跡群 (98)

(1) 掘立柱建物跡

B-1号掘立柱建物跡 (Fig. 23)

位置 X 252 ~ 254、Y 212 グリッド 主軸方向 N-71°-E 規模 東西方向に伸びる長方形で東西 7.52m、南北 2.50m。面積 (18.8) m² 柱穴 円形及び方形。直径 (0.38) m、深さ (0.46) m 出土遺物 陶器 1 点。

B-2号掘立柱建物跡 (Fig. 23)

位置 X 252 ~ 254、Y 212 グリッド 主軸方向 N-87°-W 規模 東西方向に伸びる長方形で東西 5.50m、南北 1.72m。面積 (9.46) m² 柱穴 円形及び方形。直径 (0.32) m、深さ (0.32) m 出土遺物 なし。

(2) 土坑・井戸跡・ピット

D-1号土坑 (Fig. 24)

位置 X 254・255、Y 211 グリッド 形状 長方形 規模 長軸 1.13m 短軸 0.75m 深さ 0.42m 出土遺物 なし。

D-2号土坑 (Fig. 24)

位置 X 253、Y 213 グリッド 形状 長方形 規模 長軸 1.21m 短軸 0.46m 深さ 0.385m 出土遺物 瓦 1 点、中世遺物 1 点。

D-3号土坑 (Fig. 24)

位置 X 248、Y 211 グリッド 形状 円形 規模 長軸 0.60m 短軸 0.52m 深さ 0.335m 出土遺物 土師器 1 点。

D-4号土坑 (Fig. 24)

位置 X 250、Y 213 グリッド 形状 長方形 規模 長軸 1.52m 短軸 0.61m 深さ 0.43m 出土遺物 土師器 3 点、酸化焰焼成須恵器 5 点。

I-1号井戸 (Fig. 23 PL. 5)

位置 X 252、Y 212 グリッド 形状 円形 規模 長軸 0.87m 短軸 0.85m 深さ 0.925m 出土遺物 酸化焰焼成須恵器 6 点、陶器 3 点。

1-2号井戸 (Fig. 23 PL. 5・6)

位置 X 252・253、Y 211 グリッド 形状 円形 規模 長軸 4.00m 短軸 2.15m 深さ 1.465m 出土遺物 土師器 32 点、須恵器 4 点、酸化焰焼成須恵器 14 点、瓦 2 点、陶器 8 点、石製品 4 点、縄文土器 1 点、中世遺物 9 点。うち2点を図示。

なお、ピットについてはTab. 5土坑・井戸跡・ピット計測一覧表を参照。P-1出土遺物については6点を図示。

(3) グリッド等出土遺物

土師器 27 点、須恵器 5 点、陶器 2 点。

グリッド・表採出土遺物

土師器 17 点、新瓦 1 点、石製品 5 点、中世遺物 4 点、不明 1 点。

Tab. 2 竪穴住居跡・竪穴状遺構計測一覧表

元総社蒼海遺跡群 (85)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (㎡)	主軸方向	竈		主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁現高 (cm)			位置	周溝	土師器	須恵器	その他
H-1	X259・260 Y104	1.07	1.98	24.5	(1.8)	N-62°-E	南壁				
H-2	欠番										
H-3	欠番										
H-4	欠番										
H-5	X258 Y105	-	-	-	-	N-134°-E	カマドのみ				
H-6	X260・261 Y103	3.12	3.36	17	(9.9)	N-3°-E	-			カワラケ	
H-7	X259・260 Y105・106	2.64	(3.32)	18	(8.3)	N-103°-E	東壁中央やや北寄り				
H-8	X260・261 Y103・104	(1.66)	3.4	16.5	(5.8)	N-110°-E	東壁			カワラケ	
H-9	X260・261 Y105・106	(2.5)	(3.06)	19	(4.7)	N-105°-E	東壁				
H-10	欠番										
H-11	X257・258 Y105・106	(2.14)	(2.2)	11	(4.6)	N-106°-E	東壁				
H-12	X262 Y103・104	2.79	2.95	36	(7.2)	N-10°-E	-			坏	
H-13	X262 Y104・105	(2.75)	2.95	32	(8.0)	N-71°-W	西壁北寄り			坏	

元総社蒼海遺跡群 (89)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (㎡)	主軸方向	竈		主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁現高 (cm)			位置	周溝	土師器	須恵器	その他
T-1	X135・136 Y239	(1.20)	1.84	28.5	(2.0)	N-70°-W	-				

元総社蒼海遺跡群 (90)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (㎡)	主軸方向	竈		主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁現高 (cm)			位置	周溝	土師器	須恵器	その他
T-1	X 57・58 Y227	2.58	3.28	11.5	8.5	N-145°-E	-				

元総社蒼海遺跡群 (97)

遺構名	位置	規模 (m)			面積 (㎡)	主軸方向	竈		主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁現高 (cm)			位置	周溝	土師器	須恵器	その他
H-1	X271・272 Y108・109	2.90	3.34	24.5	9.7	N-113°-E	東壁南寄り		土釜	高台椀	
H-2	X268・269 Y106～108	3.26	4.30	30.5	13.8	N-101°-E	東壁南寄り			カワラケ、羽釜	灰釉陶器(細口瓶) 灰釉陶器(高台椀)
H-3	X270・271 Y103～105	(2.6)	4.08	17.5	(11.9)	N-102°-E	東壁中央			カワラケ、 坏、高台椀、羽釜	
H-4	X271 Y104・105	(1.08)	2.92	14.5	(3.2)	N-100°-E	東壁中央やや南寄り				
H-5	X270 Y108	-	-	-	-	N-101°-E	カマドのみ				
H-6	X271・272 Y103・104	(2.64)	3.1	27.5	(6.9) 新 (7.2) 旧	N-98°-E	南東隅2箇所		甕	カワラケ、 高台椀	灰釉陶器(高台椀)

遺構名	位 置	規 模 (m)			面積 (㎡)	主軸方向	竈 位 置	周溝	主な出土遺物		
		短軸	長軸	壁現高 (cm)					土師器	須恵器	その他
H - 7	X272 ~ 274 Y105・106	3.12	4.28	6.5	(11.3)	N - 97° - E	東壁南寄り		甍	羽釜	
H - 8	X273 Y106・107	(1.37)	(3.08)	22.0	(4.2)	N - 6° - E	-			坏	
H - 9	X272 Y105・106	(1.42)	3.12	28.0	(3.6)	N - 22° - E	-				
H - 10	X273・274 Y106	(1.76)	(2.48)	20	(3.9)	N - 95° - E	-				
H - 11	X271・272 Y103・104	1.92	2.54	7.0	(3.8)	N - 10° - W	-				
H - 12	X268・269 Y103・104	3.52	3.7	19.5	(10.7)	N - 91° - E	南東隅			坏、羽釜	
H - 13	X266 ~ 268 Y106・107	3.64	4.51	55	16.1	N - 100° - E	南東隅				
H - 14	X266・267 Y104・105	2.95	3.42	11.0	10.4	N - 102° - E	東壁中央				
H - 15	X265・266 Y106・107	3.58	3.88	27.5	(13.9)	N - 106° - E	南東隅			坏	
H - 16	X265・266 Y104 ~ 106	2.92	4.18	29	(10.7)	N - 106° - E	南東隅			椀	
H - 17	X265 Y106・107	2.48	3.18	-	7.7	N - 105° - E	東壁南寄り			羽釜	
H - 18	X263・264 Y105・106	2.0	3.12	12	5.9	N - 124° - E	南東隅			高坏	
H - 19	X264 Y105・106	2.82	3.0	28.5	8.3	N - 98° - E	東壁南寄り			高台椀	
H - 20	X265 Y103・104	3.16	3.18	34	10.3	N - 99° - E	南東隅			坏、椀、 カワラケ	紡錘車
H - 21	X264・265 Y104・105	2.34	2.50	28.5	(6.5)	N - 95° - E	南東隅			高台椀	灰釉陶器(高台椀)
H - 22	X264・265 Y104・105	2.93	3.64	49.0	10.6	N - 99° - E	東壁南寄り		甍	カワラケ、 羽釜、坏、円盤	

Tab. 3 掘立柱建物跡計測一覧表

元総社蒼海遺跡群 (98)

遺構名	位 置		長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	柱間距離 (cm)		備考	
B - 1	P 1	X252	Y212	50	46	42.5	方形	P1 - P2	250	
	P 2	X253	Y212	42	33	35.5	円形	P2 - P3	254	
	P 3	X254	Y212	42	30	60	円形	P3 - P4	244	
	P 4	X254	Y212	40	37	36	方形	P4 - P5	250	
	P 5	X254	Y212	24	20	49	円形	-		
B - 2	P 1	X252	Y211	25	25	9	円形	P1 - P2	180	
	P 2	X252	Y211	28	24	13	円形	P2 - P3	216	
	P 3	X252	Y211	30	28	28.5	円形	P3 - P4	150	
	P 4	X253	Y212	34	30	17	円形	P4 - P5	186	
	P 5	X253	Y212	44	36	39.5	円形	P5 - P6	166	
	P 6	X253	Y212	26	24	43.5	円形	P6 - P7	190	
	P 7	X253	Y212	48	33	38.5	方形	-		

Tab. 4 溝跡計測一覧表

元総社蒼海遺跡群 (85)

遺構名	位 置	長さ (m)	深 さ (cm)			主軸方向	断面形	備 考
			最大	最大	最大			
W-1	X255 ~ 257 Y105・106	8.88	51	102	60	N - 101° - E	V字形	
W-2	X255・256 Y103 ~ 105	8.64	13	74	20	N - 150° - E	U字形	
W-3	X256 ~ 262 Y102 ~ 107	28.44	70	173	7	N - 138° - E	V字形	鉄滓総量 3.1kg 出土
W-4	X254 Y102・103	2.95	10	29	12	N - 25° - E	U字形	
W-5	欠番							
W-6	X256 ~ 262 Y106	9.44	74	74	49	N - 98° - E	U字形	
W-7	X258 ~ 261 Y106・107	11.98	66	16	11	N - 108° - W	U字形	

元総社蒼海遺跡群 (89)

遺構名	位 置	長さ (m)	深 さ (cm)			主軸方向	断面形	備 考
			最大	最大	最大			
W-1	X136 Y239・240	(4.95)	(12.5)	(92)	(24)	N - 75° - W	U字形	
W-2	X132 ~ 134 Y239・240	(8.50)	23	(1.68)	(23)	N - 76° - W	U字形	

元総社蒼海遺跡群 (97)

遺構名	位 置	長さ (m)	深 さ (cm)			主軸方向	断面形	備 考
			最大	最大	最大			
W-1	X263 ~ 273 Y107 ~ 109	38.06	131	4.36	82	N - 99° - E	V字形	

Tab. 5 土坑・井戸跡・ピット 計測一覧表

元総社蒼海遺跡群 (85)

遺構名	位 置		長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	備 考
D-1	X256	Y105	0.59	0.5	14	円形	
D-2	X259・260	Y105・106	2.14	0.98	29	長方形	
D-3	X259	Y105・106	2.14	0.98	26	長方形	
D-4	X259	Y105	0.85	0.74	16	円形	

元総社蒼海遺跡群 (97)

遺構名	位 置		長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	備 考
D-1	X271	Y105	72	70	33	円形	
D-2	X272・273	Y106	127	112	39.5	円形	
D-3	X272	Y106	127	124	51	円形	
D-4	X271	Y105	116	108	54.5	円形	
D-5	X271	Y105	100	(50)	21	円形	
D-6	X266	Y104	98	82	12.5	円形	
D-7	X267・268	Y105	186	84	15.5	長方形	
D-8	X264	Y103	100	84	12	円形	
D-9	X265	Y106	68	58	18	円形	

元総社蒼海遺跡群 (98)

遺構名	位 置		長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	形 状	備考
D - 1	X254・255	Y211	113	75	42	長方形	
D - 2	X253	Y213	121	46	38.5	長方形	
D - 3	X248	Y211	60	52	33.5	凹形	
D - 4	X250	Y213	152	61	43	長方形	
I - 1	X252	Y212	87	85	(92.5)	凹形	
I - 2	X252・253	Y211	400	215	(146.5)	凹形	
P - 1	X252	Y212	78	53	42.0	方形	
P - 2	X255	Y212	30	28	20	凹形	
P - 3	X255	Y212	42	35	44	方形	
P - 4	X255	Y211	34	33	20	方形	
P - 5	X254	Y212	32	31	38	凹形	
P - 6	X254	Y212	42	30	47.5	凹形	
P - 7	X254	Y212	38	27	37	凹形	
P - 8	X254	Y212	34	33	26	凹形	
P - 9	X254	Y212	28	20	15.5	凹形	
P - 10	X254	Y212	32	30	25	凹形	
P - 11	X253	Y212	24	22	33.5	方形	
P - 12	X254	Y211	41	34	17.5	方形	
P - 13	X253	Y212	31	28	25.5	方形	
P - 14	X253	Y212	28	23	33.5	凹形	
P - 15	X253	Y212	55	43	40.0	方形	
P - 16	X253	Y212	54	53	42.5	凹形	
P - 17	X253	Y212	32	31	43.0	凹形	
P - 18	X252	Y212	38	32	32.0	方形	
P - 19	X252・253	Y212	34	30	38.0	方形	
P - 20	X252	Y212	31	28	36.5	方形	
P - 21	X252	Y212	33	29	38.5	方形	
P - 22	X252	Y212	24	22	29.5	凹形	
P - 23	X252	Y212	19	18	11.5	方形	
P - 24	X252	Y212	18	18	5.0	方形	
P - 25	X252	Y212	19	18	6.5	方形	
P - 26	X252	Y212	22	21	15	凹形	
P - 27	X252	Y212	18	16	11	凹形	
P - 28	X252	Y212	30	25	34.0	方形	
P - 29	X251	Y212	33	32	23.5	凹形	
P - 30	X248	Y212	38	30	23	方形	
P - 31	X252	Y212	20	16	12	方形	
P - 32	X253	Y212	50	42	44	凹形	
P - 33	X253	Y212	30	28	29	凹形	
P - 34	X254	Y212	36	34	28	凹形	
P - 35	X254	Y211	30	27	34.5	凹形	
P - 36	X254	Y211	63	54	19.5	凹形	
P - 37	X254	Y211	24	22	48	凹形	
P - 38	X254	Y212	37	27	40	凹形	
P - 39	X254	Y212	41	34	44	凹形	
P - 40	X254	Y212	23	18	31	凹形	

Tab. 6 元総社蒼海遺跡群 (85) 出土土器観察表

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
85-1	H-6 床直	酸化焰 カワラケ	①[8.0] ②1.6 ③5.8	①粗粒 ②良好 ③浅黄 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。非常に器高が浅い作り。	1,2	11C
85-2	H-8 床直	酸化焰 カワラケ	①9.7 ②2.0 ③6.2	①中粒 ②不良 ③にぶい黄褐 ④4/5	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	1	11C
85-3	H-12 覆土	酸化焰 坏	①[10.8] ②1.2 ③[6.4]	①- ②良好 ③にぶい黄褐 ④1/3	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。皿状を呈す。		11C
85-4	H-13 床直	酸化焰 坏	①[9.4] ②1.7 ③[4.9]	①- ②良好 ③浅黄橙 ④2/5	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。	6	11C
85-5	H-13 床直	酸化焰 坏	①[14.8] ②2.8 ③[6.2]	①- ②- ③にぶい黄褐 ④1/3	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	1,2,3,4	10C
85-6	W-2 覆土	酸化焰 高台碗	①[9.8] ②(3.5) ③-	①- ②良好 ③橙 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。高台欠損。内外面轆轤撫で。		10C
85-7	W-3 覆土	緑釉陶器 高台碗	①[11.2] ②(2.3) ③-	①- ②良好 ③灰オリーブ ④破片	轆轤整形。内外面轆轤撫で。全体的に施釉され、発色が良い。		中世
85-8	W-3 覆土	緑釉陶器 高台碗	①- ②(1.1) ③[6.2]	①- ②良好 ③灰オリーブ ④破片	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。全体的に施釉され、発色が良い。		中世
85-9	W-3 床直	須恵器 短頸壺	①[13.6] ②(5.1) ③-	①- ②良好 ③灰 ④破片	轆轤整形。口縁部短く直立する。肩部ほぼ水平に横に広がりを持つ。口縁部の内面は横撫で。肩部の内面は青海波文あり。	52	
85-10	W-3 床直	須恵器 甕	①[23.6] ②(7.9) ③-	①- ②良好 ③褐灰 ④口縁破片	外面横撫で。内面撫で調整。口縁部やや外傾し開く。	77,81	
85-11	W-3 覆土	土師器 坏	①- ②- ③-	①- ②- ③明赤褐 ④破片	丸底を呈す。口唇部短く外傾し、開く。内面撫で調整後、放射状に磨き痕あり。外面篋調整後、撫で。		8C
85-12	W-6 覆土	須恵器 壺	①9.8 ②3.0 ③-	①粗粒 ②良好 ③灰 ④底部破片	外面撫で調整。轆轤整形。内面は青海波文あり。		
85-13	X258 Y104 覆土	土師器 小甕	①10.0 ②7.4 ③2.1	①- ②- ③橙 ④ほぼ完形	体部が丸みを帯びる。肩部弱く内傾し、口縁はS字を呈する。脚部欠損。内面撫で。外面撫で調整後、肩部櫛描き文あり。		
85-14	X258 Y104 覆土	土師器 甕	①[13.6] ②(4.7) ③-	①- ②良好 ③浅黄橙 ④口縁破片	口唇部が外向きに折り返される。外面撫で。内面横撫で。		
85-15	X262 Y105 覆土	酸化焰 高台碗	①[10.7] ②5.4 ③[4.8]	①- ②良好 ③橙 ④3/4	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。高台破損。		10C

Tab. 7 元総社蒼海遺跡群 (89) 出土土器観察表

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
89-1	W-2 覆土	酸化焰 羽釜	①[22.8] ②(5.9) ③-	①- ②良好 ③浅黄 ④破片	轆轤整形。内外面とも轆轤撫で。		10C
89-2	W-2 覆土	灰釉陶器 細口瓶	①- ②(10.0) ③-	①- ②良好 ③灰白 ④破片	轆轤整形。内外面轆轤撫で。頸部やや細身で口唇部にかけ弱く外反し開く。口縁部の内面及び肩部外面に施釉。	1, 覆土	10C
89-3	表採	酸化焰 土釜	①[28.0] ②(10.1) ③-	①- ②良好 ③灰黄褐 ④破片	轆轤整形。内外面とも轆轤撫で。体部やや直立ぎみに立ち上がり、口縁部やや内湾ぎみに立ち上がる。		11C

Tab. 8 元総社蒼海遺跡群 (97) 出土土器観察表

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
97-1	H-1 床直	須恵器 高台椀	①12.1 ②4.8 ③6.3	①中粒 ②良好 ③灰白 ④ほぼ完形	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。後付け高台。	1	11C
97-2	H-1 床直	土師器 土釜	①[28.0] ②(16.5) ③-	①中粒 ②良好 ③にぶい褐 ④1/10	轆轤整形。外面篋調整。内面撫で調整。口縁部短く外反し開く。	8,16	11C
97-3	H-1 覆土	灰釉陶器 高台椀	①[12.4] ②4.2 ③[7.0]	①- ②良好 ③灰白 ④破片	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。削り出し高台。		10C
97-4	H-2 床直	酸化焰 カワラケ	①9.0 ②1.9 ③5.8	①中粒 ②良好 ③明赤褐 ④ほぼ完形	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	7	10C
97-5	H-2 床直	酸化焰 カワラケ	①9.8 ②2.4 ③4.6	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	9	10C
97-6	H-2 床直	酸化焰 カワラケ	①9.4 ②2.2 ③5.1	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④2/3	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	21	10C
97-7	H-2 床直	土師質須恵 羽釜	①9.4 ②2.2 ③5.1	①中粒 ②良好 ③黄灰 ④口縁部1/8	轆轤整形。内外面轆轤撫で。	2	10C
97-8	H-2 床直	灰釉陶器 細口瓶	①[19.0] ②(17.5) ③-	①細粒 ②良好 ③オリープ灰 ④1/6	轆轤整形。内外面轆轤撫で。頸部内面全体的に施釉。頸部外面及び肩部にかけ施釉。	10	10C
97-9	H-2 覆土	青磁	①- ②(2.4) ③-	①- ②良好 ③- ④破片	轆轤整形。内外面全体に施釉。発色は良好でない。		中世
97-10	H-2 覆土	青磁	①- ②- ③-	①- ②- ③- ④破片	轆轤整形。内外面全体に施釉。発色は良好でない。		中世
97-11	H-3 床直	酸化焰 カワラケ	①9.2 ②1.6 ③4.6	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	4	11C
97-12	H-3 床直	酸化焰 カワラケ	①9.2 ②2.3 ③4.2	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④ほぼ完形	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。底径が小さい。内外面轆轤撫で。	6	11C
97-13	H-3 床直	酸化焰 カワラケ	①8.8 ②2.3 ③4.4	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④完形	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	3	11C
97-14	H-3 床直	土師質須恵 坏	①[9.6] ②2.6 ③6.1	①中粒 ②良好 ③にぶい黄褐 ④2/3	轆轤整形。底部回転篋切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。	12,19	10C
97-15	H-3 床直	土師質須恵 坏	①[10.2] ②3.9 ③-	①中粒 ②良好 ③浅黄 ④1/3	轆轤整形。底部回転篋切り後未調整。内外面轆轤撫で。	36	10C
97-16	H-3 床直	酸化焰 高台椀	①12.7 ②5.0 ③6.9	①- ②良好 ③浅黄橙 ④4/5	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。体部の内外面に油煙が多く付着する。	27	10C
97-17	H-3 床直	土師質須恵 羽釜	①[26.0] ②(11.8) ③-	①中粒 ②良好 ③灰褐 ④1/10	轆轤整形。内外面とも輪積み痕あり。内外面轆轤撫で。	10,17	10C
97-18	H-3 床直	土師質須恵 高台椀	①[14.4] ②(6.2) ③7.0	①中粒 ②良好 ③にぶい褐 ④1/3	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。	31,26	10C
97-19	H-6 床直	酸化焰 カワラケ	①9.0 ②2.2 ③5.2	①中粒 ②良好 ③にぶい黄褐 ④ほぼ完形	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	9	11C
97-20	H-6 床直	土師質須恵 高台椀	①- ②(3.8) ③9.0	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④脚部のみ	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。高台後付け。内外面轆轤撫で。高台やや八の字を呈す。	5	10C
97-21	H-6 床直	灰釉陶器 高台椀	①- ②(5.0) ③[8.6]	①中粒 ②極良 ③灰白 ④1/8	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で。高台後付け。内外面轆轤撫で。	29	10C
97-22	H-6 床直	土師器 甕	①[28.0] ②(22.3) ③-	①中粒 ②良好 ③橙 ④1/6	轆轤整形。内外面撫で。体部緩く丸みを帯び、口縁部短く外反し、開く。	17	10C
97-23	H-6 床直	酸化焰 カワラケ	①9.2 ②1.9 ③5.2	①中粒 ②良好 ③灰黄 ④4/5	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	3,4,6	11C
97-24	H-6 床直	灰釉陶器 高台椀	①- ②(2.1) ③[5.2]	①- ②良好 ③灰白 ④破片	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。底部内面にベンガラと思われる赤褐色の付着痕あり。	1	10C
97-25	H-7 床直	土師器 甕	①[27.0] ②(11.5) ③-	①粗粒 ②良好 ③にぶい黄褐 ④1/10	外面縦方向篋削り後、撫で調整。内面撫で調整。口縁部強く外傾し開く。	1,2,3,4,5,6	10C
97-26	H-7 床直	酸化焰 羽釜	①- ②(6.1) ③-	①- ②良好 ③- ④破片	轆轤整形。内外面撫で調整。羽部に二箇所穿孔あり。	7	10C
97-27	H-8 床直	須恵器 坏	①[13.0] ②3.8 ③-	①中粒 ②良好 ③灰白 ④1/4	轆轤整形。底部回転糸切り後、未調整。内外面轆轤撫で。	1	10C
97-28	H-12 床直	土師質須恵 椀	①[14.8] ②5.0 ③-	①中粒 ②良好 ③にぶい黄褐 ④1/3	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。削り出し高台。内外面轆轤撫で。	3	10C

番号	出土遺構層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
97-29	H-12 床直	酸化焰 羽釜	①[22.4] ②(8.2) ③-	①- ②良好 ③橙 ④破片	轆轤整形。内外面轆轤撫で調整。	5	10C
97-30	H-14 床直	土師質須恵 羽釜	①[19.0] ②(6.7) ③-	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④1/10	轆轤整形。内外面轆轤撫で。	3	10C
97-31	H-15 覆土	酸化焰 坏	①- ②(1.5) ③[7.0]	①- ②良好 ③にぶい黄橙 ④破片	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。体部の下位に小孔が穿つ。用途不明。		10C
97-32	H-16 床直	土師質須恵 椀	①16.0 ②4.8 ③-	①中粒 ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	18,19	10C
97-33	H-17 床直	酸化焰 羽釜	①[20.2] ②(19.2) ③-	①- ②良好 ③にぶい黄橙 ④3/5	轆轤整形。内外面轆轤撫で。輪積み痕あり。	覆土, 3,10,13	10C
97-34	H-18 床直	須恵器 高坏	①- ②(3.8) ③-	①- ②良好 ③灰 ④破片	轆轤整形。脚部の上半分のみ残存。	1	
97-35	H-19 床直	土師質須恵 高台椀	①[12.4] ②5.1 ③6.2	①中粒 ②良好 ③灰黄 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。後付け高台。内外面轆轤撫で。口唇部外反し開く。	4	10C
97-36	H-19 床直	須恵器 坏	①10.1 ②4.1 ③5.0	①中粒 ②良好 ③灰 ④ほぼ完形	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。口唇部短く外反し開く。	10	10C
97-37	H-19 床直	土師質須恵 高台椀	①12.4 ②5.2 ③-	①中粒 ②良好 ③明黄褐 ④4/5	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。後付け高台。	1	10C
97-38	H-20 床直	土師質須恵 坏	①10.0 ②2.7 ③5.2	①中粒 ②良好 ③にぶい橙 ④4/5	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。	13,14	10C
97-39	H-20 床直	土師質須恵 カワラケ	①9.8 ②2.7 ③4.8	①中粒 ②良好 ③灰褐 ④3/4	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。	5	10C
97-40	H-20 床直	土師質須恵 椀	①[14.0] ②3.6 ③-	①中粒 ②良好 ③橙 ④1/2	轆轤整形。底部撫で調整。糸切り痕不明。内外面轆轤撫で。	4	10C
97-41	H-20 床直	紡錘車	最大長 6.8cm 最大幅 6.8cm 最大厚 1.3cm 重さ 70.0g	①- ②良好 ③- ④完形	高台を紡錘車として転用。轆轤整形。回転糸切り後、撫で調整。	1	10C 中
97-42	H-21 床直	土師質須恵 高台椀	①14.5 ②(7.5) ③-	①中粒 ②良好 ③にぶい黄褐 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。高台欠損。	3,5	10C
97-43	H-21 床直	土師質須恵 高台椀	①12.6 ②(5.1) ③-	①中粒 ②良好 ③黄橙 ④2/3	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。高台欠損。	1	10C
97-44	H-21 床直	灰釉陶器 高台椀	①[14.4] ②4.8 ③7.8	①中粒 ②極良 ③灰黄 ④1/3	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。体部の内面から口唇部にかけて施釉。	7	10C
97-45	H-21 床直	須恵器 高台椀	①[10.4] ②4.2 ③5.4	①中粒 ②良好 ③灰 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後撫で調整。内外面轆轤撫で。削り出し高台。	2	9C 末
97-46	H-22 床直	酸化焰 カワラケ	①[9.0] ②2.1 ③-	①中粒 ②良好 ③浅黄 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後、撫で調整。内外面轆轤撫で。	25	10C
97-47	H-22 床直	酸化焰 羽釜	①[10.2] ②(6.0) ③-	①- ②良好 ③にぶい橙 ④1/4	小型の羽釜。轆轤整形。内外面ともに轆轤撫で。	2, 覆土	10C
97-48	H-22 床直	酸化焰 羽釜	①[19.8] ②(14.1) ③-	①- ②良好 ③にぶい橙 ④破片	轆轤整形。内面撫で。体部外面篋削り。口縁部横撫で。	28	10C
97-49	H-22 床直	土師器 甕	①[27.2] ②(26.6) ③-	①- ②良好 ③橙 ④1/6	外面縦方向篋削り後、撫で調整。口縁部横撫で。内面撫で。	1,8,13,14	10C
97-50	H-22 床直	酸化焰 坏	①[14.0] ②3.7 ③[6.2]	①- ②良好 ③にぶい黄橙 ④1/3	轆轤整形。底部回転篋削り後、撫で調整。内外面轆轤撫で。口縁部やや外反し、開く。	19, 覆土	10C
97-51	H-22 床直	酸化焰 円盤	①8.2 ②8.0 ③1.1	①- ②良好 ③- ④完形	高台を転用。底部回転糸切り後撫で調整。	20	
97-52	X264 Y103 覆土	土師器 坏	①[12.2] ②(4.6) ③[4.1]	①- ②良好 ③橙 ④1/3	丸底を呈し、内面全面黒色を呈す。内外面撫で調整。		8C
97-53	X264 Y104 覆土	土師質須恵 坏	①10.5 ②3.8 ③5.1	①中粒 ②良好 ③灰褐 ④1/2	轆轤整形。底部回転糸切り後未調整。内外面轆轤撫で。口唇部短く外反し開く。		10C
97-54	X267 Y104 覆土	灰釉陶器 壺	①- ②(4.3) ③[14.0]	①- ②良好 ③灰白 ④破片	轆轤整形。内外面轆轤撫で。外面体部の一部及び高台の外面に施釉あり。		10C
97-55	X267 Y105 覆土	酸化焰 羽釜	①[21.4] ②(15.0) ③-	①中粒 ②良好 ③浅黄 ④1/8	轆轤整形。内外面轆轤撫で。口縁部弱く内傾し、立ち上がる。		10C

Tab. 9 元総社蒼海遺跡群 (98) 出土土器観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	①口径 ②器高 ③底径	①胎土 ②焼成 ③色調 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
98-1	P-1 床直	土師器 坏	①[16.0] ②6.3 ③-	①- ②良好 ③橙 ④4/5	丸底を呈す。外面篋削り後撫で調整。内面撫で調整後全体的に磨き痕あり。口唇部短く外傾し開く。	1.6. 覆土	8C
98-2	P-1 床直	土師器 坏	①12.6 ②5.2 ③-	①- ②- ③橙 ④2/3	丸底を呈す。外面篋削り後撫で調整。口唇部短く内湾し立ち上がる。内面撫で調整後放射状の暗文あり。	2.4,6. 覆土	8C
98-3	P-1 床直	土師器 椀	①[15.8] ②(6.5) ③-	①- ②良好 ③にぶい橙 ④1/6	全体的に丸みを帯び、口縁部はやや内傾する。内面は全体的に黒色を呈し、放射状の磨き痕が認められる。外面篋調整後、撫で。	2.6	8C
98-4	P-1 覆土	土師器 坏	①- ②- ③-	①- ②良好 ③橙 ④破片	内面撫で後、磨き痕あり。外面撫で調整。		
98-5	P-1 覆土	土師器 坏	①- ②- ③-	①- ②- ③橙 ④破片	内面撫で後、磨き痕あり。外面撫で調整。		
98-6	P-1 覆土	土師器 坏	①- ②- ③-	①- ②良好 ③橙 ④破片	内面撫で後、磨き痕あり。外面撫で調整。		
98-7	I-2 覆土	すり鉢	①- ②(3.8) ③-	①- ②良好 ③にぶい褐 ④破片	轆轤整形。内面の溝は荒い。		中世
98-8	I-2 覆土	灯明皿	①- ②- ③-	①- ②良好 ③にぶい赤褐 ④1/6	轆轤整形。内外面轆轤撫で。		中世
98-9	X248 Y215 覆土	高炉	①- ②- ③-	①- ②- ③にぶい橙 ④-	上位に向かって外傾し、開く。体部に四ヶ所の透かし孔が認められる。内外面轆轤撫で。		

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。
 ②口径、器高の単位はcmである。現存値を()、復元値を[]で示した。
 ③胎土は、細粒(0.9mm以下)、中粒(1.0~1.9mm以下)、粗粒(2.0mm以上)とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
 ④焼成は、極良、良好、不良の三段階とした。

Tab. 10 石器・石製品観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	石材	遺存度	登録番号	備考
			(cm)	(cm)	(cm)	(g)				
97-石-1	H-15 覆土	砥石	(8.2)	5.2	4.4	260.0	凝灰岩	2/3		四面使用。
98-石-2	I-2	板碑	6.3	11.8	1.25	149.5	緑泥片岩			

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。
 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 11 鉄器・鉄製品観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重さ	遺存度	登録番号	備考
			(cm)	(cm)	(cm)	(g)			
97-鉄-1	H-1	釘	(8.6)	(0.6)	(0.6)	12.6	一部欠損		
97-鉄-2	H-3	轡	(15.3)	(3.0)	(0.7)	44.5	ほぼ完形		
97-鉄-3	H-12	釘	(5.6)	(0.6)	(0.3)	6.3	破片		
97-鉄-4	H-20	鎌	(5.7)	(6.1)	(0.2)	43.3	破片		
97-鉄-5	X265 Y104 覆土	不明	(11.2)	(5.5)	(1.0)	99.3	-		

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。
 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 12 土製品観察表

番号	出土遺構 層位	器種名	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存度	登録番号	備考
			(cm)	(cm)	(cm)	(g)			
85-土-1	W-3 覆土	羽口	(5.7)	(4.5)	(1.4)	43.4	破片	5	
85-土-2	W-3 覆土	羽口	(5.1)	(6.5)	(2.1)	87.3	破片	6	
85-土-3	W-3 覆土	羽口	(5.6)	(4.5)	(2.1)	44.6	破片	7	

注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位から検出、「覆土」：床面より10cmを超える層位から出土の2段階に分けた。
 ②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を()で示した。

Tab. 13 瓦観察表

番号	出土遺構	器種名	①長さ (cm) ②厚さ (cm)	①胎土 ③色調	②焼成 ④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	登録番号	備考
85-瓦-1	表採	軒丸瓦	① (6.4) ② (2.3)	① - ③ 灰	② 良好 ④ 破片	復弁七葉の文様を持つ。山王廃寺跡からの出土例有り。		

Tab. 14 銭貨一覧表

番号	位置	名称	材質	年代	備考
98-銭-1	表採	天保通宝	銅	江戸時代	錆がかなり進行している

Ⅵ ま と め

本年度発掘調査を実施した元総社蒼海遺跡群（85）・（88）～（90）・（96）～（98）は、土地区画整理事業区域内の主に東側と南西部に所在する。土地区画整理事業に伴ってはじまった発掘調査も本年度で16年目を迎えるに至った。調査対象は主として道路部分であることから、狭小な面積の調査区が大変を占めるようになった。

今回調査した7箇所の遺跡についても、主要幹線道路部分の元総社蒼海遺跡群（85）及び（97）以外は小さな調査区である。また、調査区は従前の建築物移転後になされることから、少なからず後世の削平が及んでおり、残存状況の良好でない箇所も見受けられた。特に元総社蒼海遺跡群（96）については、調査面積が非常に狭小であったこともあり、遺構は検出されなかった。

遺構・遺物の検出成果としては、古墳時代から中世にかけての集落跡や畠跡、また蒼海城関連遺構などが挙げられる。住居跡は前述した元総社蒼海遺跡群（85）、（97）で検出されたのみである。出土遺物では、羽釜や土釜、酸化焰焼成の小型坏、陶器類といった比較的時期の新しいものが多く見られた。

1 集落跡について

（1）元総社蒼海遺跡群（85）、（97）

この2遺跡は主要幹線道路部分にあたり、本年度調査した遺跡の中では広い面積を持つものである。また、遺跡番号は異なっているが両遺跡は隣接しており、一体として見ることもできる。住居跡が検出されているのもこの2遺跡からのみであった。

遺跡地は、西側を流れる牛池側の左岸に位置する。平成25年度に発掘調査を実施した元総社蒼海遺跡群（53）は、丁度本遺跡の対岸になる。元総社蒼海遺跡群（53）では18軒の住居跡が検出されており、そのうち8軒が10世紀代の住居跡で時期別で最も多く、この時期の活発な人々の営みが推察できた。

はじめに元総社蒼海遺跡群（85）であるが、本遺跡からは住居跡9軒、溝跡6条、土坑4基が検出された。検出された住居跡は、残存状況はあまり良好でなく床面まで浅いものが多く、中には床面と思われる堅緻面しか確認できないものもあった。隣接する元総社蒼海遺跡群（97）では、住居跡22軒、溝跡1条、土坑9基が検出された。後世の攪乱を受けて遺構が壊されている箇所も見受けられたが、（85）に比べると削平の影響はやや少なめで、残存状況の良い住居跡も確認できた。竈が確認できた遺構については、大半が東壁の南寄り、若しくは南東隅付近に設置されていた。竈の焚口部から細めに煙道が伸び良く焼けているのが目立った。また、構築材については凝灰岩を用いているものが大半で、瓦や土器などが再利用された痕跡は見当たらない。出土遺物は両遺跡とも全体として多くなく、10世紀代の羽釜や土釜、轆轤整形の高台碗や小型坏が主体であった。酸化焰焼成の須恵器が中心で、住居跡の中には小型坏、羽釜、土釜といった土器と一緒に出土した事案もあり、当時の生活を垣間見たようである。また、出土数は少ないが灰釉陶器片や緑釉陶器片も見つかっている。反対に8世紀代や9世紀代の特徴を持った坏などは殆ど皆無に近い状況である。さらに本遺跡地東に隣接する平成26年度調査の元総社蒼海遺跡群（61）でも10世紀代の住居跡が見つかっていることから、この一帯は10世紀から11世紀前半にかけての集落跡と考えられる。

時期	7世紀	8世紀	9世紀	10世紀	11世紀
軒数	1	2	1	18	9

(2) 元総社蒼海遺跡群 (90)、(98)

元総社蒼海遺跡群 (90) については、西に隣接する元総社蒼海遺跡群 (8) の調査成果から集落を構成する遺構の検出が想定されたが、見つかった遺構は堅穴状遺構が1軒のみである。出土遺物も非常に少なく遺構の時期判定が難しいが、覆土の状況から中世の遺構と推察できる。本遺跡周辺は、過去の調査成果から上野国分僧寺、尼寺創建の8世紀中葉から検出される住居跡が減少し、9世紀中葉に増加する傾向が認められている。前述した元総社蒼海遺跡群(8)では貴重な緑釉陶器片が多く出土していることから、周辺における今後の発掘調査において集落の解明に期待するところである。

続いて元総社蒼海遺跡群 (98) であるが、本遺跡からは大小様々なピット40基、掘立柱建物跡と思われる柱列、井戸跡2基、土坑4基が検出された。過年度の周辺遺跡発掘調査成果から蒼海城関連の堀跡検出が想定されたが、本遺跡では確認できなかった。

検出した柱穴は、円形のものや方形のもの大きく2種類に大別できる。円形のピットの中には暗文を持つ坏などが出土した事案もあり、古くは8世紀代のもので想定されるが、方形に近い形状のピット群は、陶磁器などの出土遺物から概ね中世に属するものと考えられる。また2基検出した井戸跡についてであるが、1号井戸跡は直径約85センチメートルの円形を呈す一般的な井戸跡である。これに対し2号井戸跡に関しては部分的な検出で遺構の北半分は調査区外であったが、長軸で約4メートル、短軸で約2メートルと大型の井戸跡となった。播鉢片や陶器片、板碑片など出土し時期としては中世、蒼海城関連の遺構と思われる。

2 蒼海城関連堀跡について

古くは縄文時代から平安時代にかけて連綿と人々の生活の営みがなされてきたこの地において、中世に入ると上野国府の地割を利用した蒼海城が築かれる。この蒼海城は、牛池川と染谷川に囲まれた直径1200mにも及ぶ広大な範囲を縄張りとする城である。

(1) 元総社蒼海遺跡群 (89)

本遺跡は、元総社蒼海遺跡群 (36) の4区に隣接する。この4区において蒼海城の堀跡と考えられる大溝が検出されている。この大溝は地表面から底部まで4mに達する大規模なもので、走行は概ね北東から南西である。調査区が狭小のため溝の南側のみを検出であった。今回調査した元総社蒼海遺跡群 (89) では、この大溝に連なる溝の南側肩部分が確認できた。出土遺物は灰釉陶器や羽釜、土釜などが少量見つかった。

(2) 元総社蒼海遺跡群 (97)

本遺跡で検出したW-1号溝跡が蒼海城関連の堀跡と考えられる。走行は概ね東西方向で、周辺の元総社蒼海遺跡群 (91) でもこれに連なる溝跡が確認されている。本遺構も調査区の南壁に沿って検出されたことから、溝跡北側半分の確認に留まり全容は把握できていない。しかしながら溝の北側肩部分から南壁まで約4mを測ることから比較的規模の大きい溝跡である。

土地区画整理事業区域内でのこれまでの発掘調査成果、また今後の発掘調査により蒼海城関連遺構の解明が進展することを期すものである。

3 畠跡について

元総社蒼海遺跡群 (88) においてHr-FA降下以降と考えられる畠跡を確認した。調査区内は後世のかく乱を大きく

受けており、耕作痕が検出できたのはごく一部であった。耕作痕の走行は北西から南東にかけての一方のみである。遺物の出土はほとんどない。同様の遺構は本遺跡に隣接する総社甲稲荷塚大道西IV遺跡でも検出されている。当該遺跡では3方向の耕作痕が見つかり時期差は確定できないものの、当時の生産域であったことが窺える。

本遺跡ではさらに上層でAs-B軽石降下以降の耕作痕もごく一部ではあるが検出できた。このように当遺跡周辺は生産の場として古より利用されてきたのではなかろうか。

4 鍛冶遺構について

今回調査を行った遺跡では鍛冶遺構の検出には至らなかったが、関連する遺物は出土している。牛池川を挟み西に位置する元総社蒼海遺跡群（53）、東に位置する元総社蒼海遺跡群（85）ともに刀子や釘などの鉄製品、鍛冶工房遺構に付随する椀型滓、鉄塊系遺物が見つかりしている。蒼海（53）では992g、蒼海（85）では3.1kgの鉄滓が出土した。上野国府が機能していた8・9世紀代の住居跡が少なく、10世紀代以降の住居跡が中心の両遺跡、また高温の火気を扱う鍛冶工房が一般的な集落からは距離を置くであろうことなどを考慮すると、両遺跡周辺が鉄器生産関連遺構の場であった可能性も考えられる。

5 おわりに

本遺跡地周辺は、縄文時代より現在に至るまで人々の生活が営まれてきた土地である。これまでも本遺跡地周辺の発掘調査は数多く行われており、これからも元総社蒼海土地地区画整理事業に伴い発掘調査は継続して行われるが、今後は、今までの個々の調査成果を結びつけ、面的な研究を推進することにより、国府域及びその周辺部の土地利用解明に繋がることを期するものである。

〈引用参考文献〉

『前橋市史』第1巻 前橋市史編さん委員会 1971年

『群馬県史』通史2 原始古代 群馬県史編さん委員会 1991年

山崎 一 『群馬県古城址の研究 上巻』1978年

前橋市埋蔵文化財発掘調査団編 『元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡』2003年

前橋市教育委員会編 『元総社蒼海遺跡群（36）』2011年

前橋市教育委員会編 『元総社蒼海遺跡群（40）（46）（49）（50）』2013年

前橋市教育委員会編 『元総社蒼海遺跡群（47）』2013年

前橋市教育委員会編 『元総社蒼海遺跡群（51）～（55）・（66）～（68）』2014年

前橋市教育委員会編 『元総社蒼海遺跡群（57）（58）（59）』2014年

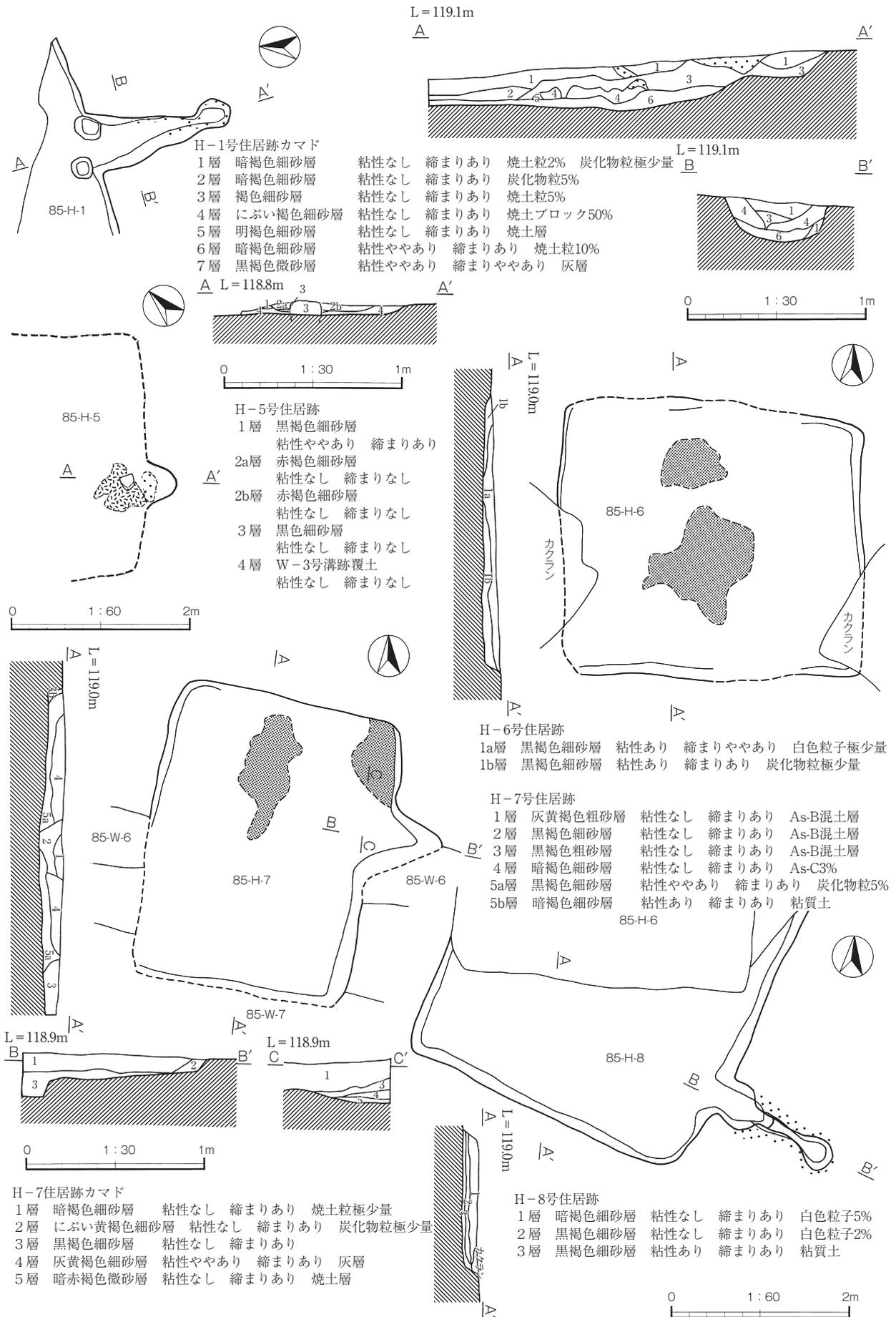
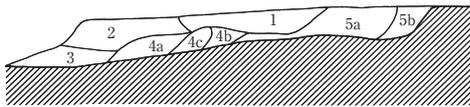


Fig.12 (85) H-1・5・6～8号住居跡

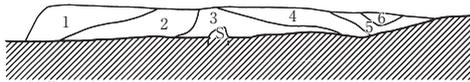
B L=119.1m



H-8号住居跡カマド

- 1層 赤褐色微砂層 粘性なし 締まりあり 焼土層
- 2層 暗褐色細砂層 粘性ややあり 締まりややあり 焼土粒5%
- 3層 灰黄褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 焼土ブロック30%
- 4a層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりなし 灰20%
- 4b層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 粘土ブロック少量
- 4c層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりややあり 灰少量
- 5a層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 焼土ブロック15%
- 5b層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりややあり 焼土粒極少量

B L=118.9m



H-9号住居跡カマド

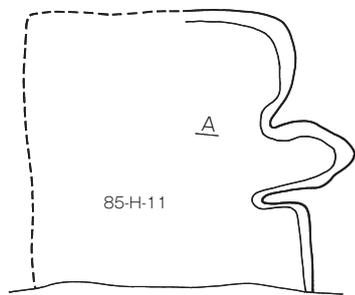
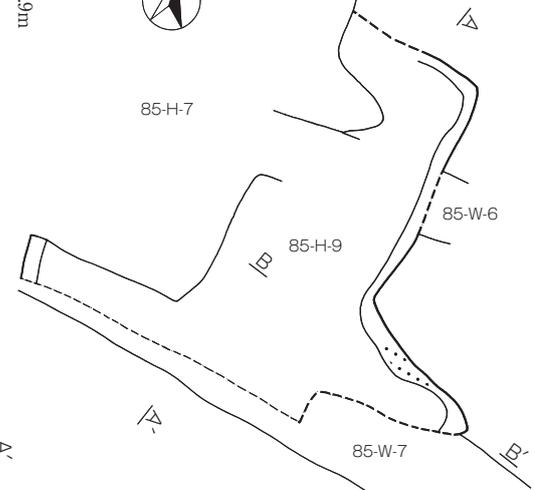
- 1層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり As-C極少量
- 2層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 炭化物粒少量
- 3層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 焼土粒20% 灰少量
- 4層 赤褐色微砂層 粘性なし 締まりあり 焼土層
- 5層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 焼土粒極少量
- 6層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 焼土粒35%

H-9号住居跡

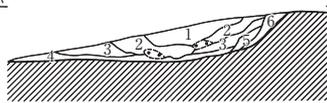
- 1層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり As-B混土層
- 2層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり As-B混土層



L=118.9m



L=118.9m



0 1:30 1m

H-11号住居跡カマド

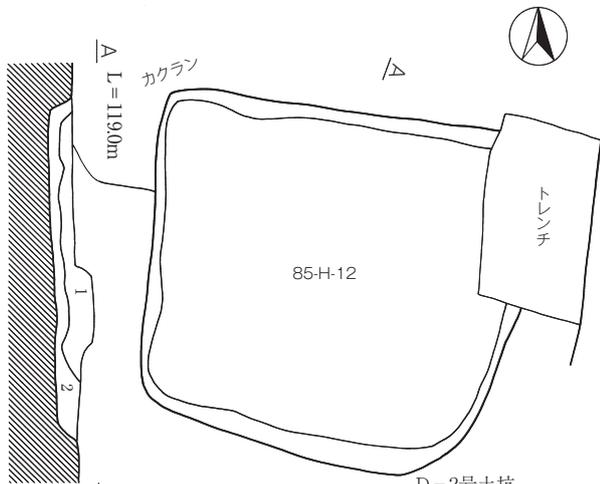
- 1層 にぶい黄褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 焼土粒2% 白色粒子5%
- 2層 褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 焼土ブロック10%
- 3層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 白色粒子2%
- 4層 暗褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 炭化物粒2%
- 5層 褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 黄褐色土ブロック
- 6層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり

H-12号住居跡

- 1層 灰黄褐色細砂層 粘性なし 締まりあり As-C極少量
- 2層 暗褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり As-C5%

H-13号住居跡

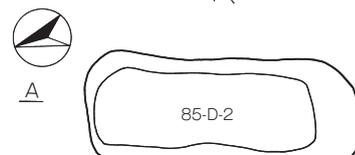
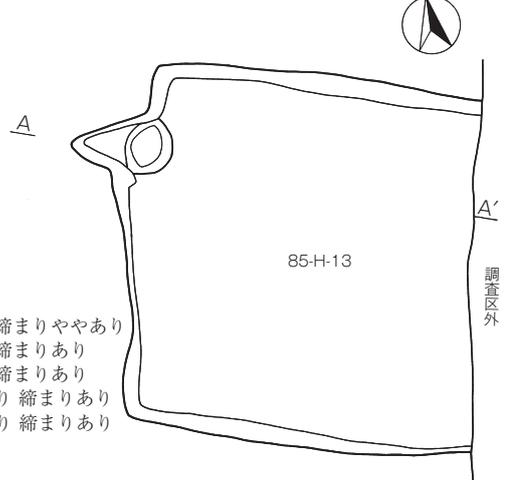
- 1層 褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 白色粒子5%
- 2層 褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 白色粒子3%
- 3層 暗褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 白色粒子1%
- 4層 にぶい黄褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 焼土ブロック5%
- 5層 暗褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 炭化物粒15%
- 6層 にぶい黄褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 焼土粒 炭化物粒5%
- 7層 褐色細砂層 粘性なし 締まりあり



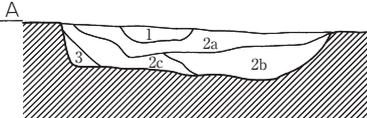
カクラン

L=119.0m

調査区外



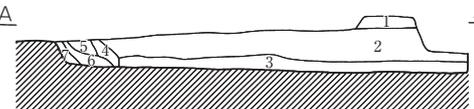
L=119.0m



D-2号土坑

- 1層 灰黄褐色細砂層 粘性なし 締まりややあり
- 2a層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりあり
- 2b層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりあり
- 2c層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり
- 3層 暗褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり

L=119.0m



0 1:60 2m

Fig.13 (85) H-8・9・11～13号住居跡、D-2号土坑

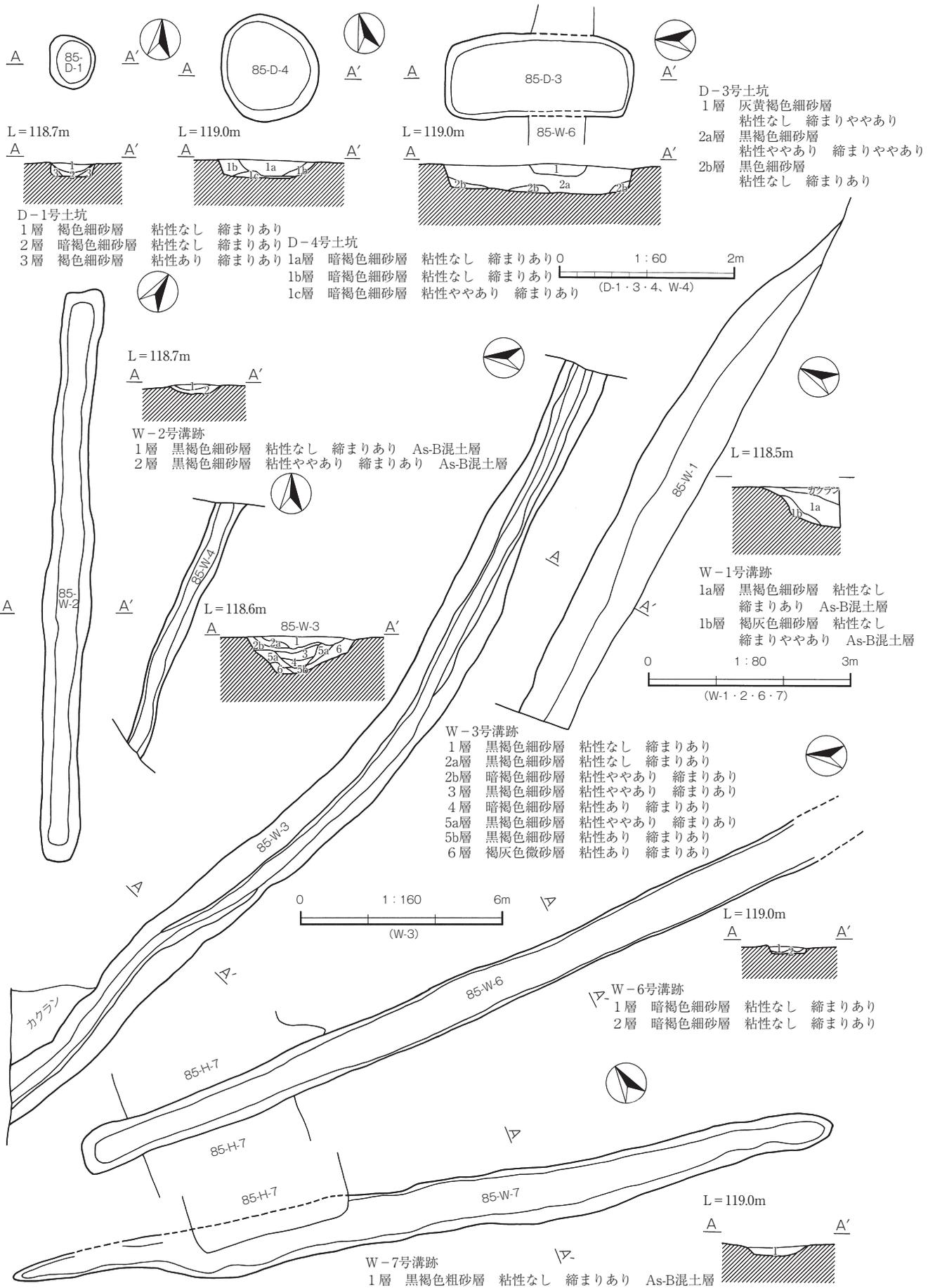


Fig.14 (85) D-1・3・4号土坑、W-1～4・6・7号溝跡

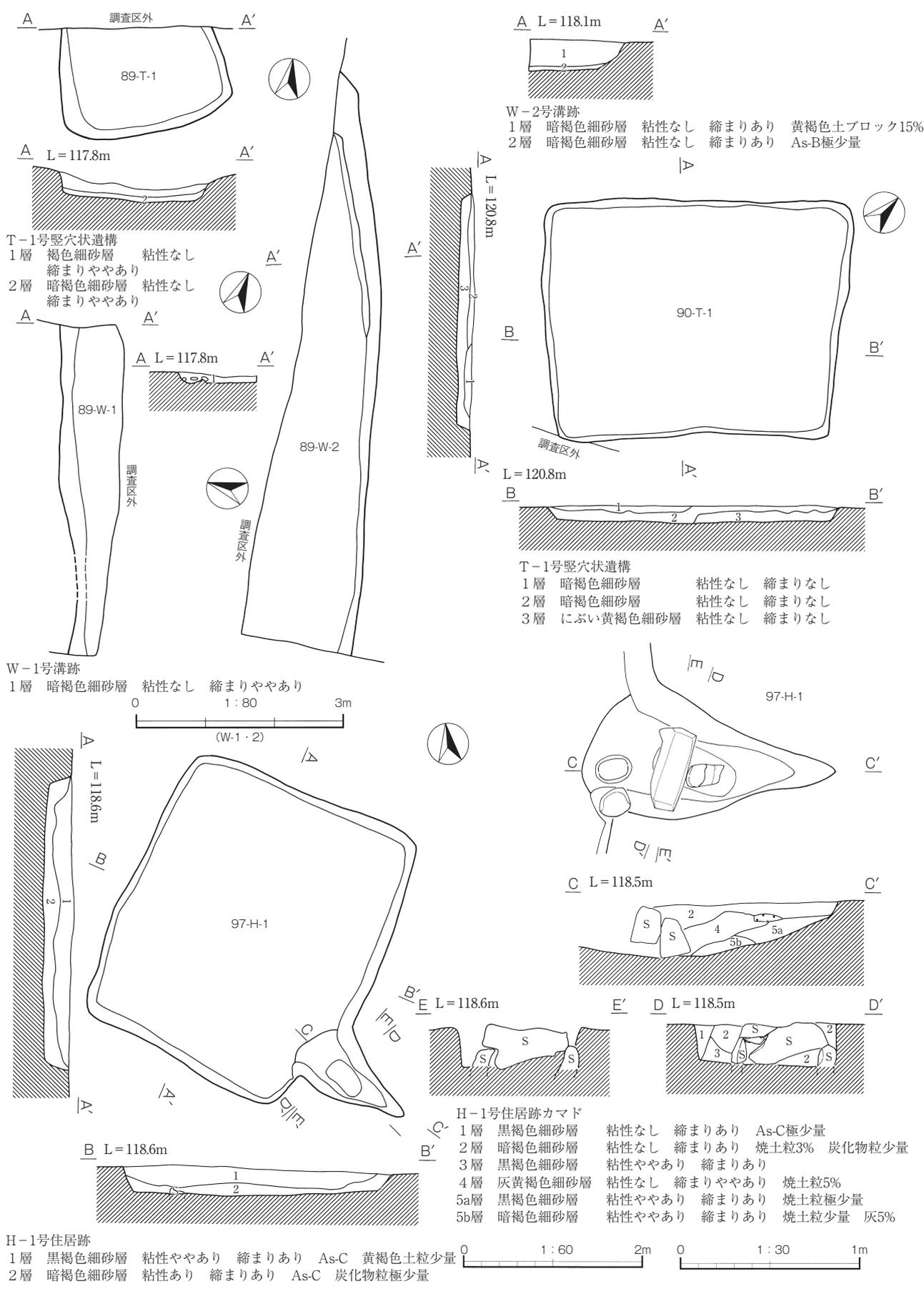


Fig.15 (89) T-1号竪穴状遺構、W-1・2号溝跡、(90) T-1号竪穴状遺構、(90) T-1号住居跡

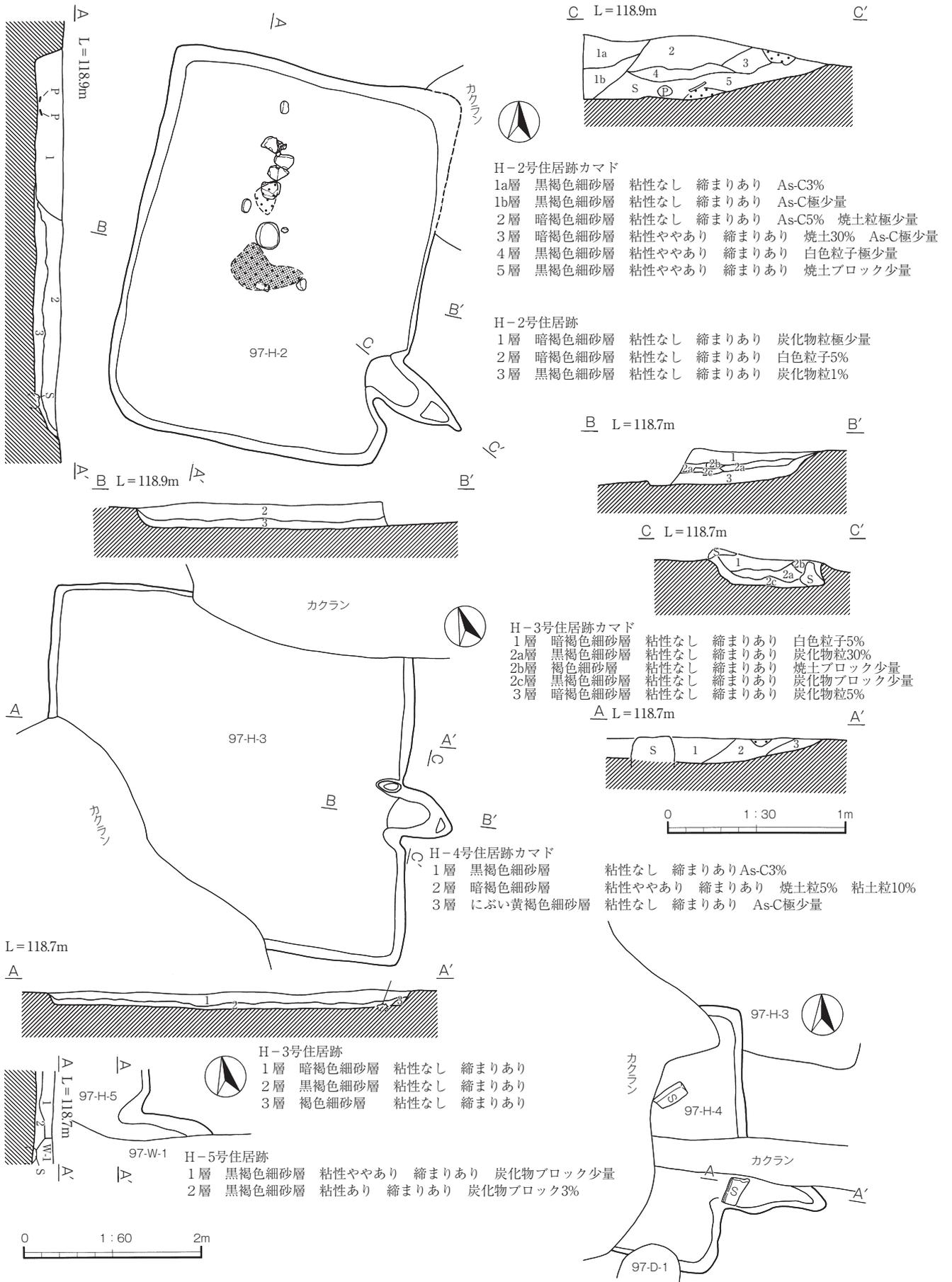


Fig.16 (97) H-2~5号住居跡

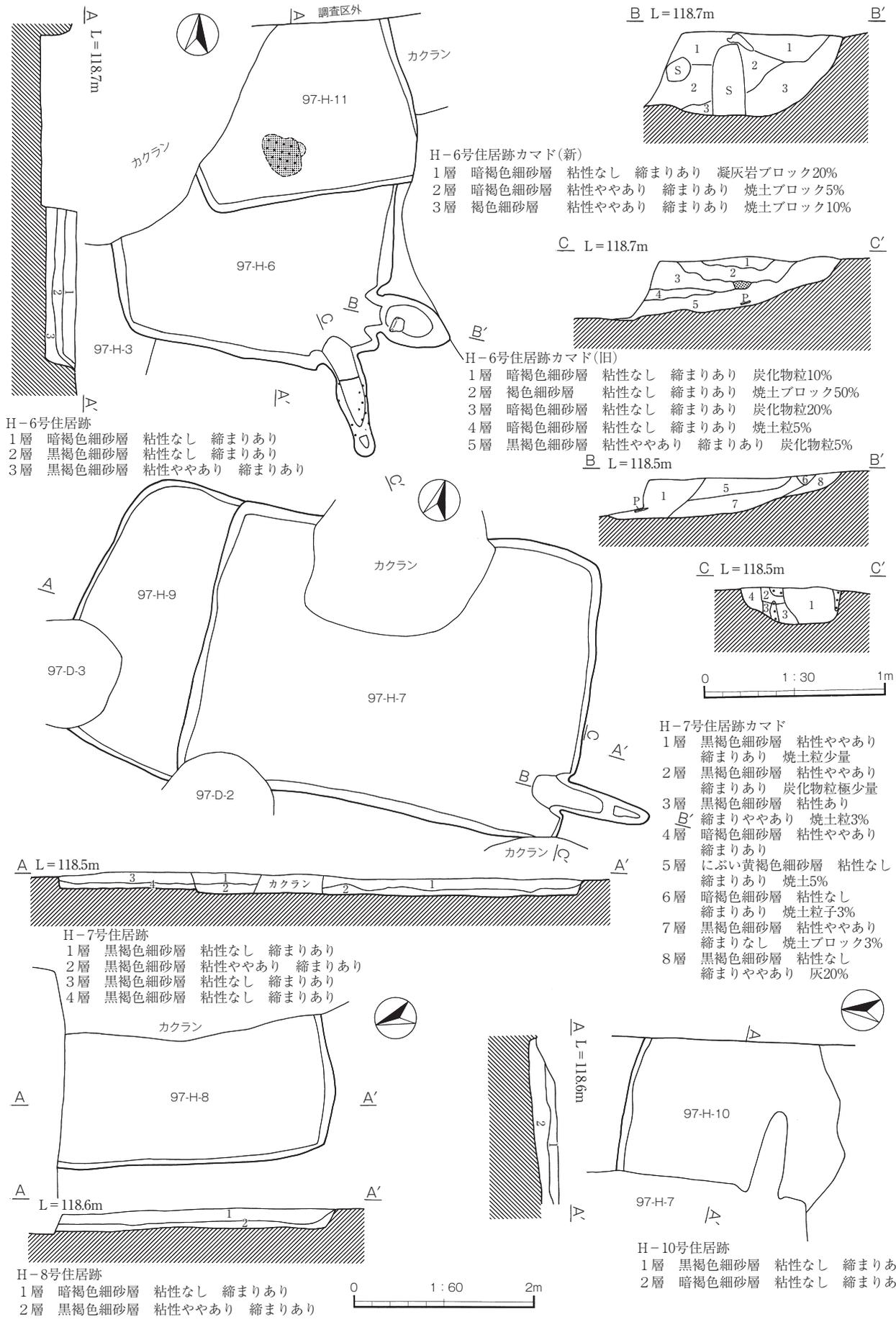


Fig.17 (97) H-6 ~ 11号住居跡

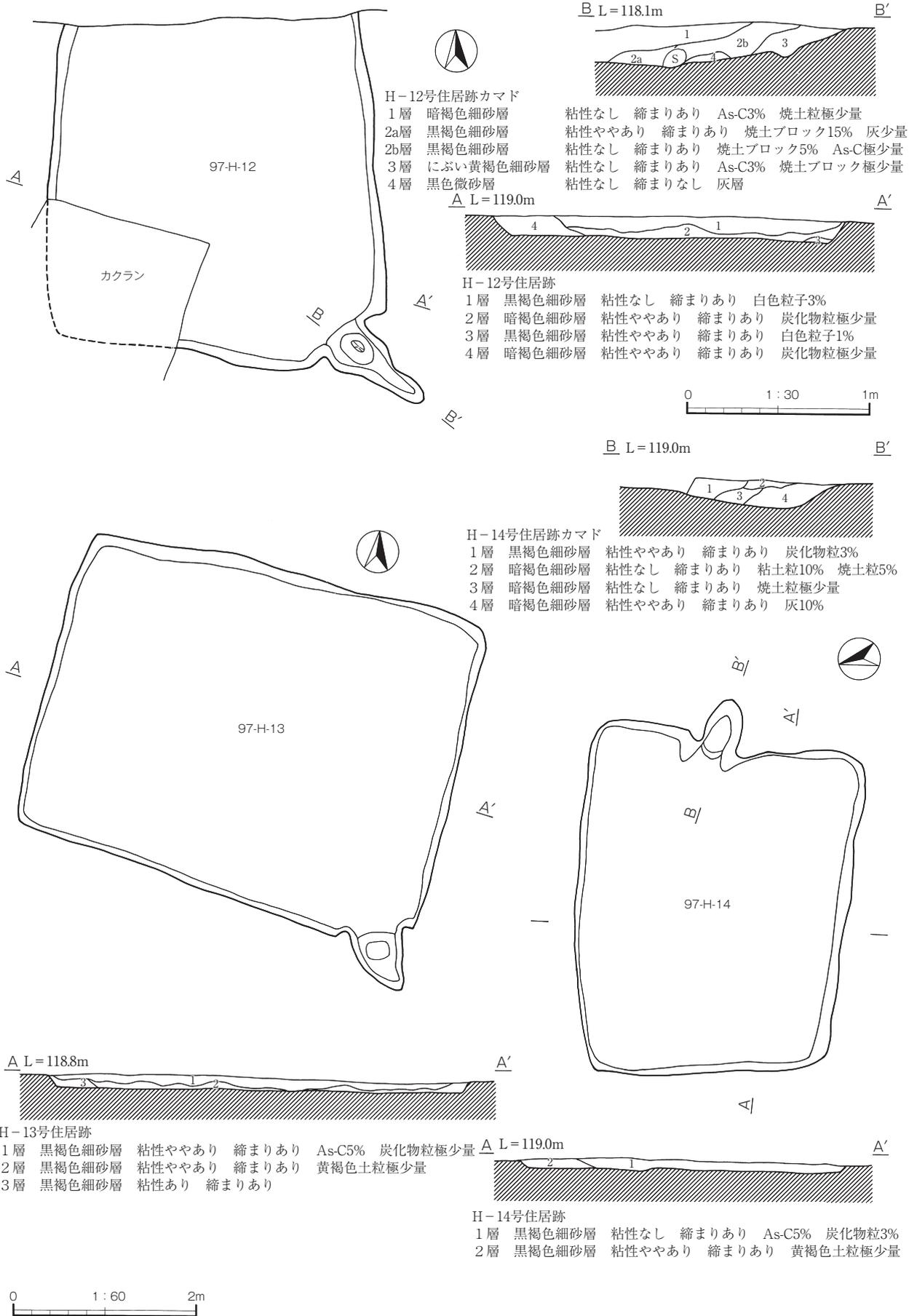


Fig.18 (97) H - 12 ~ 14号住居跡

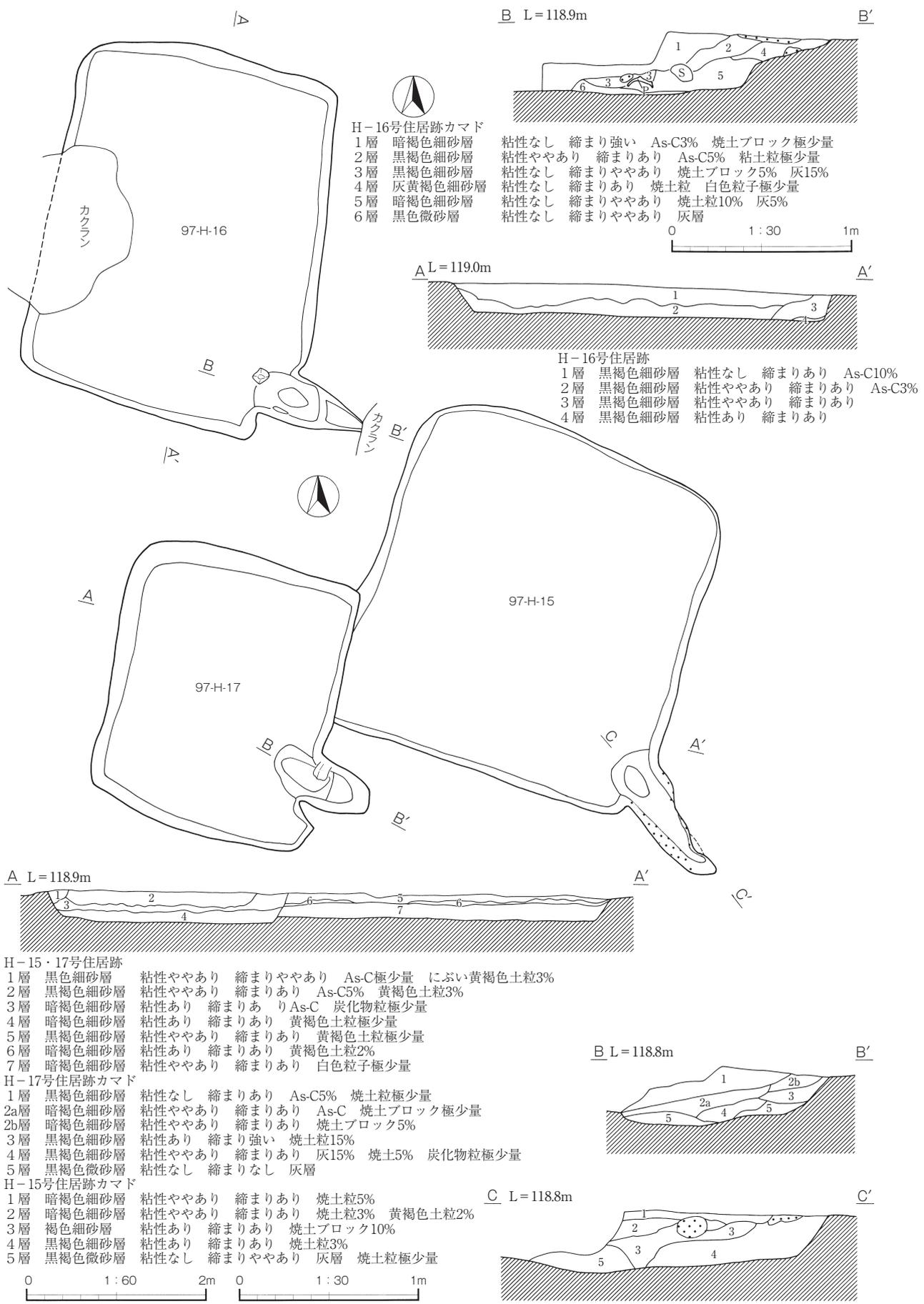


Fig.19 (97) H - 15 ~ 17号住居跡

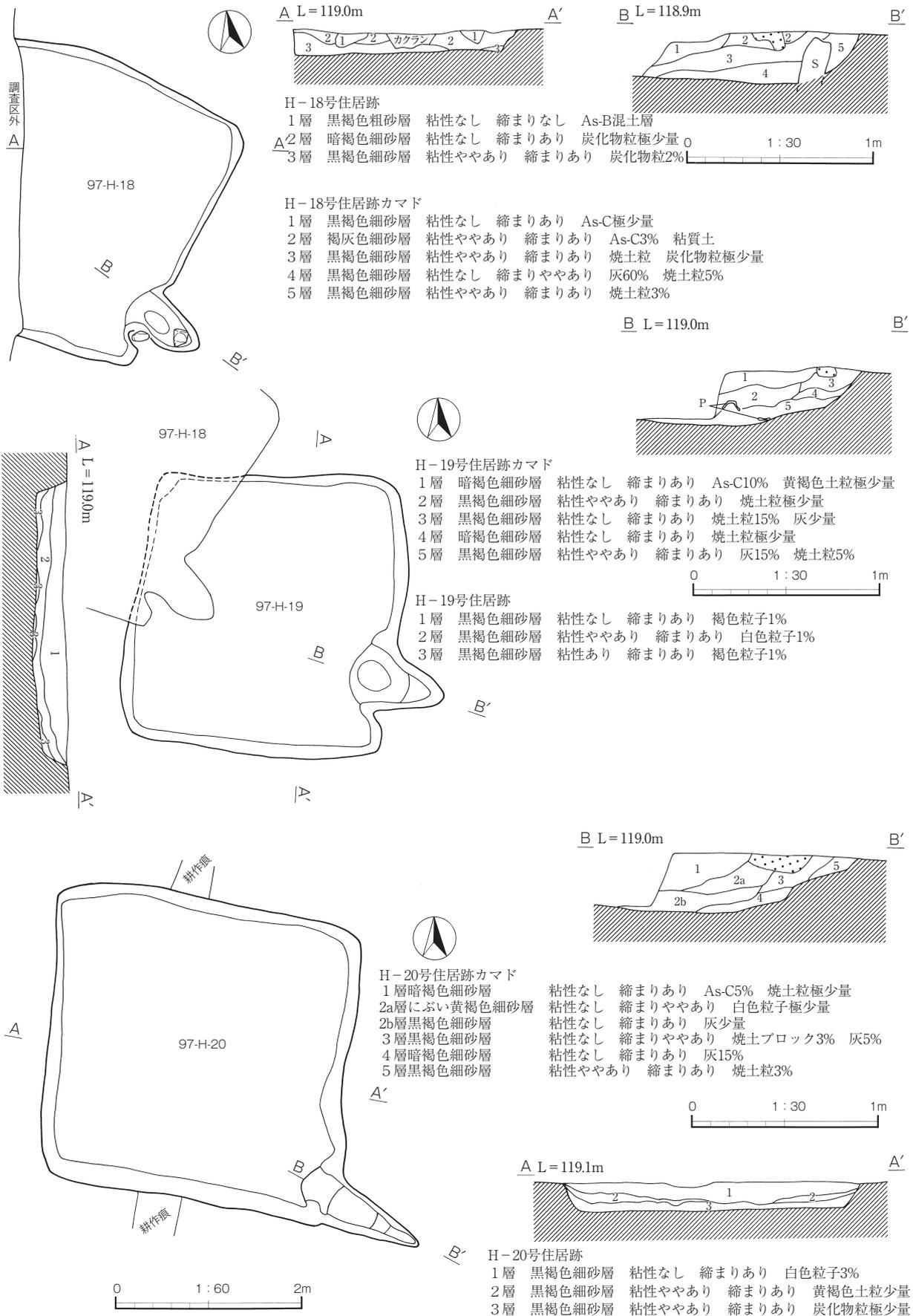
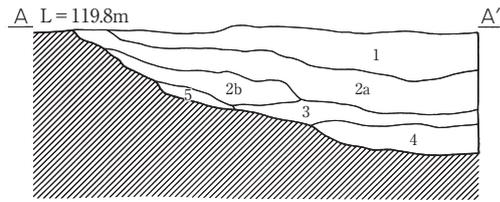
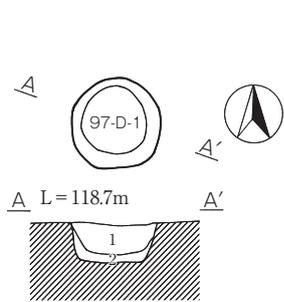


Fig.20 (97) H - 18 ~ 20号住居跡



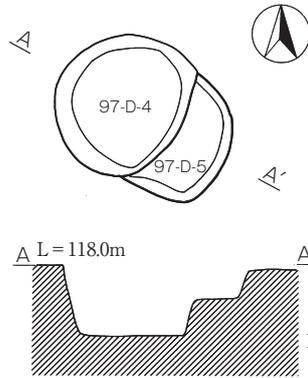
W-1号溝跡

- 1層 灰黄褐色細砂層 粘性なし 締まりあり As-B混土層 As-C極少量
- 2a層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりあり As-C極少量 黄褐色土粒3%
- 2b層 暗褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 白色粒子3%
- 3層 灰黄褐色細砂層 粘性あり 締まりあり 黄褐色土ブロック10%
- 4層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり 黄褐色土粒3%
- 5層 暗褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり



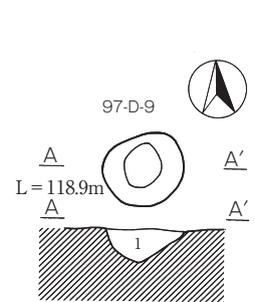
D-1号土坑

- 1層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりあり
- 2層 黒褐色細砂層 粘性あり 締まりあり



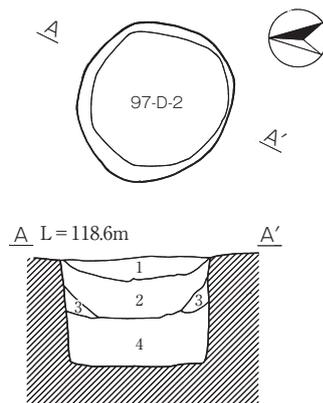
D-4号土坑

- 1層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 黄褐色土粒2%



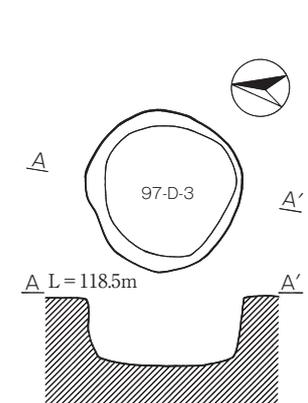
D-9号土坑

- 1層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりあり 黄褐色土粒2%



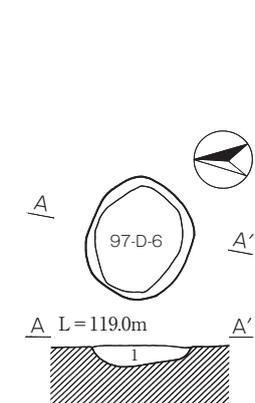
D-2号土坑

- 1層 黒褐色粗砂層 粘性なし 締まりあり As-B混土層
- 2層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり As-C3% 黄褐色土粒2%
- 3層 暗褐色細砂層 粘性あり 締まりあり
- 4層 にぶい黄褐色細砂層 粘性なし 締まりあり



D-3号土坑

- 1層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりややあり As-B混土層



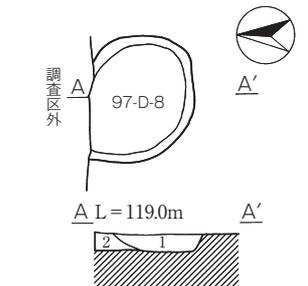
D-6号土坑

- 1層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりややあり As-B混土層



D-7号土坑

- 1層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりなし As-B混土層



D-8号土坑

- 1層 黒褐色細砂層 粘性なし 締まりあり
- 2層 黒褐色細砂層 粘性ややあり 締まりあり



Fig.22 (97) W-1号溝跡、D-1~9号土坑

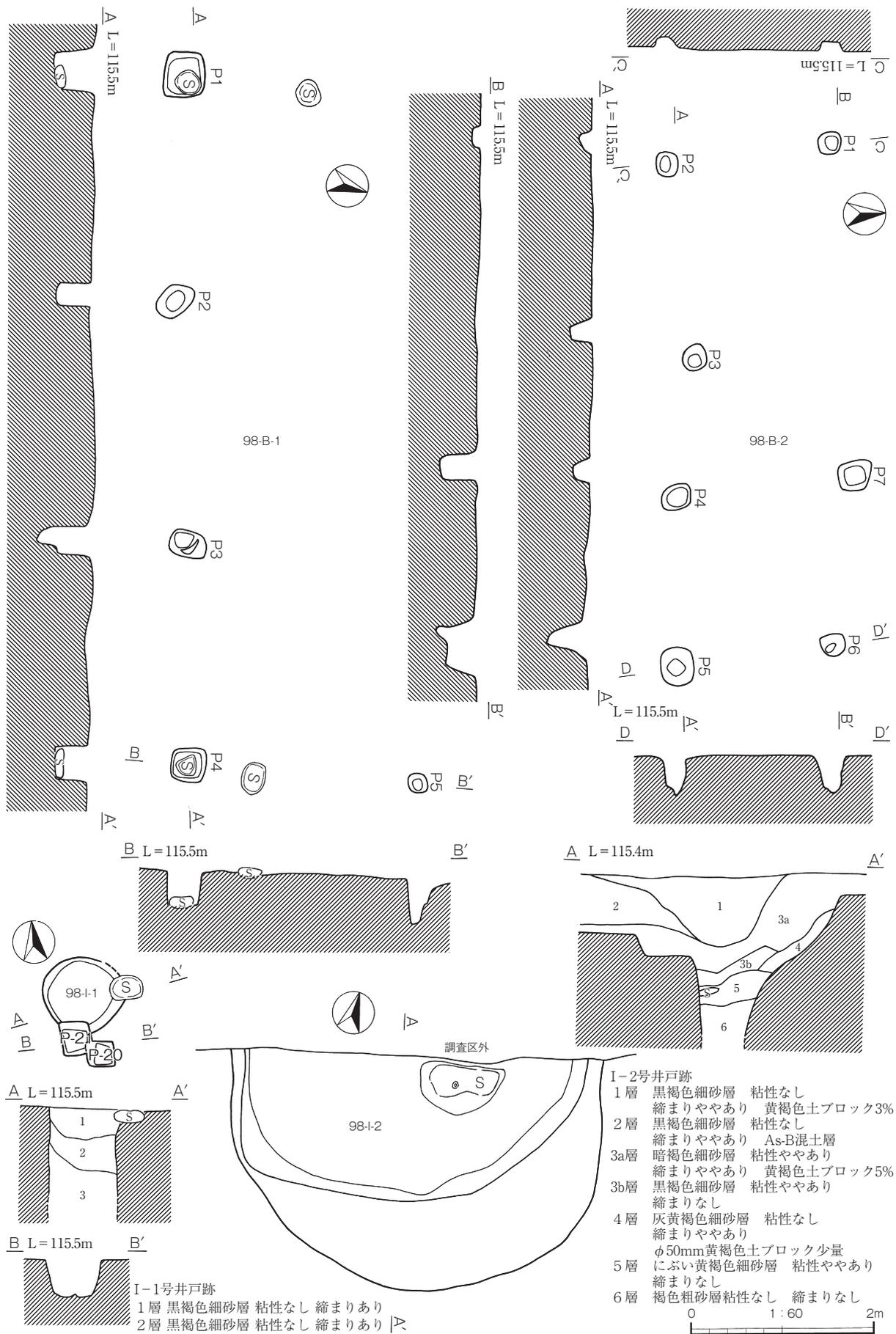


Fig.23 (98) B-1・2号堀立柱建物跡、I-1・2号井戸跡、P-20・21号ピット

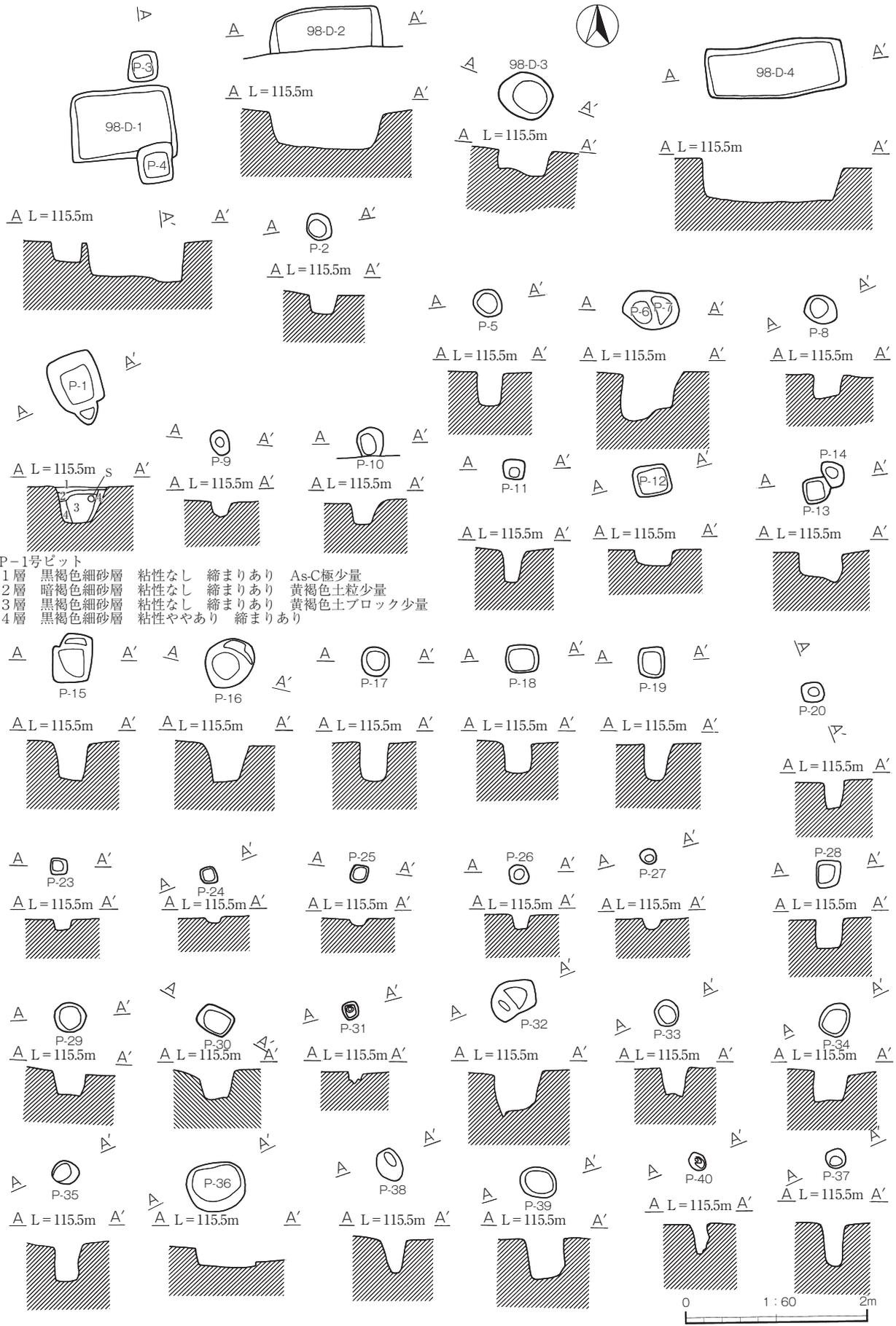


Fig.24 (98) D-1～4号土坑、P-1～19、22～40号ビット

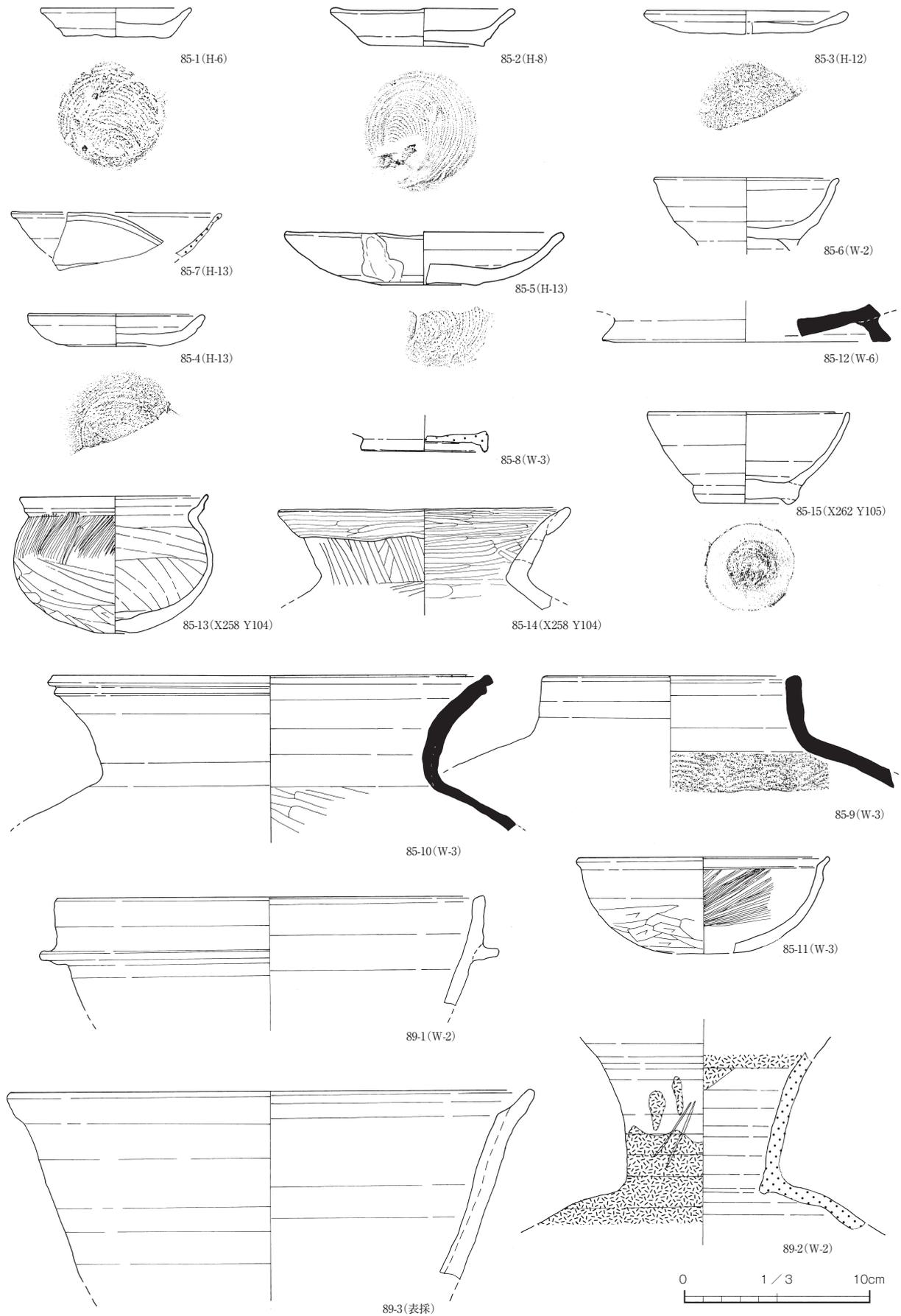


Fig.25 (85) H - 6・8・12・13号住居跡、W - 2・3・6号溝跡、グリッド出土遺物
 (89) W - 2号溝跡、表採出土遺物

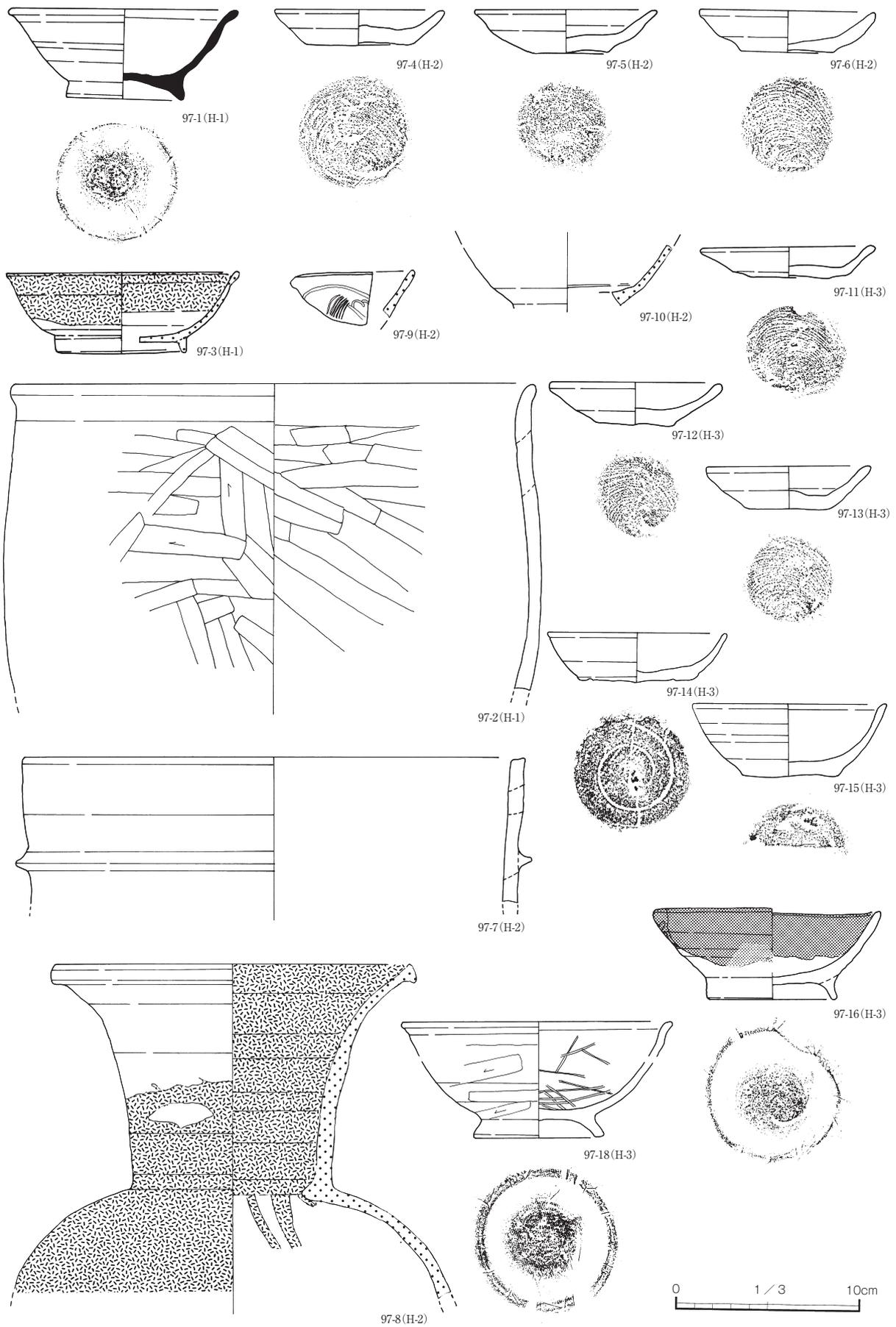


Fig.26 (97) H - 1 ~ 3号住居跡出土遺物

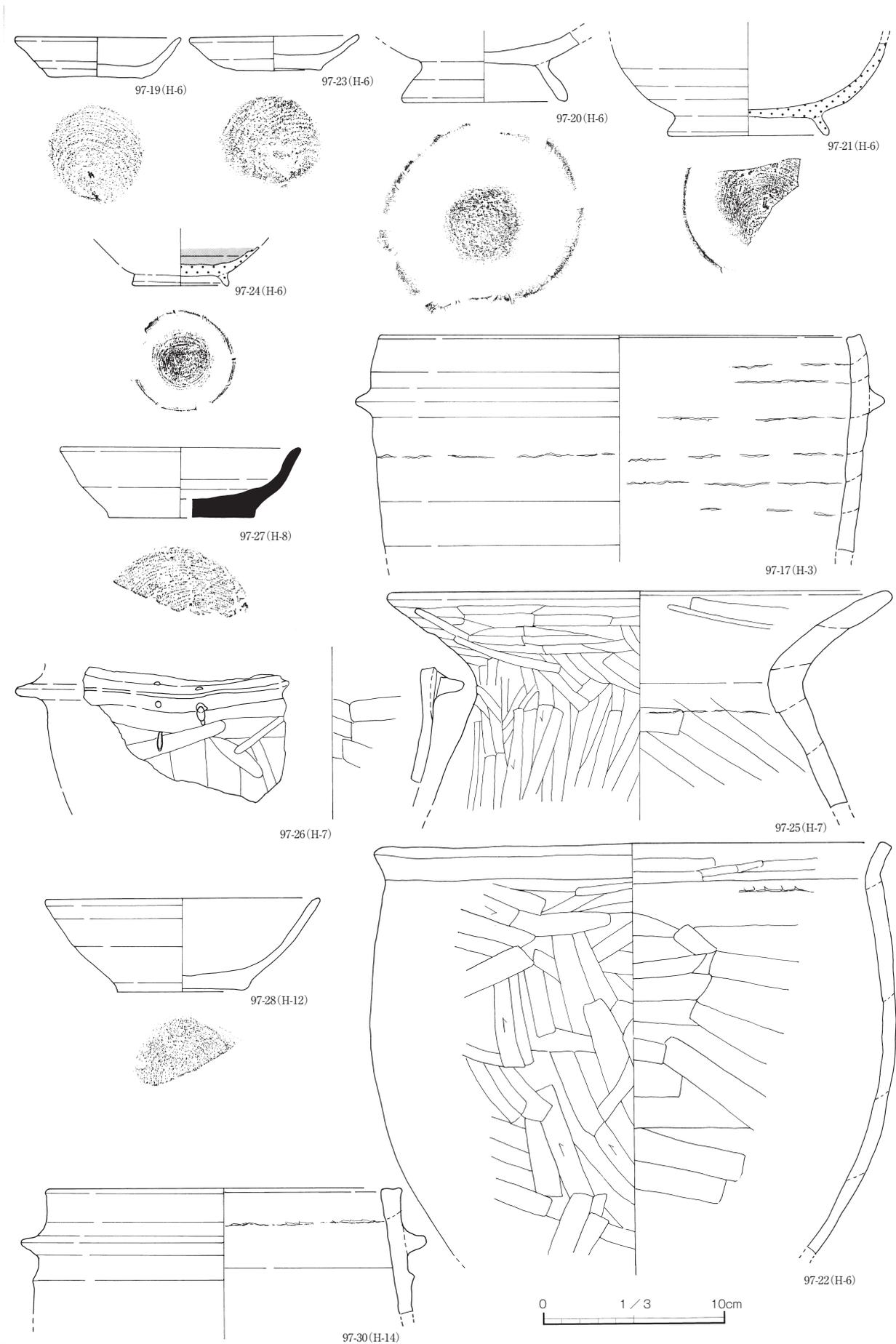


Fig.27 (97) H - 3・6 ~ 8・12・14号住居跡出土遺物

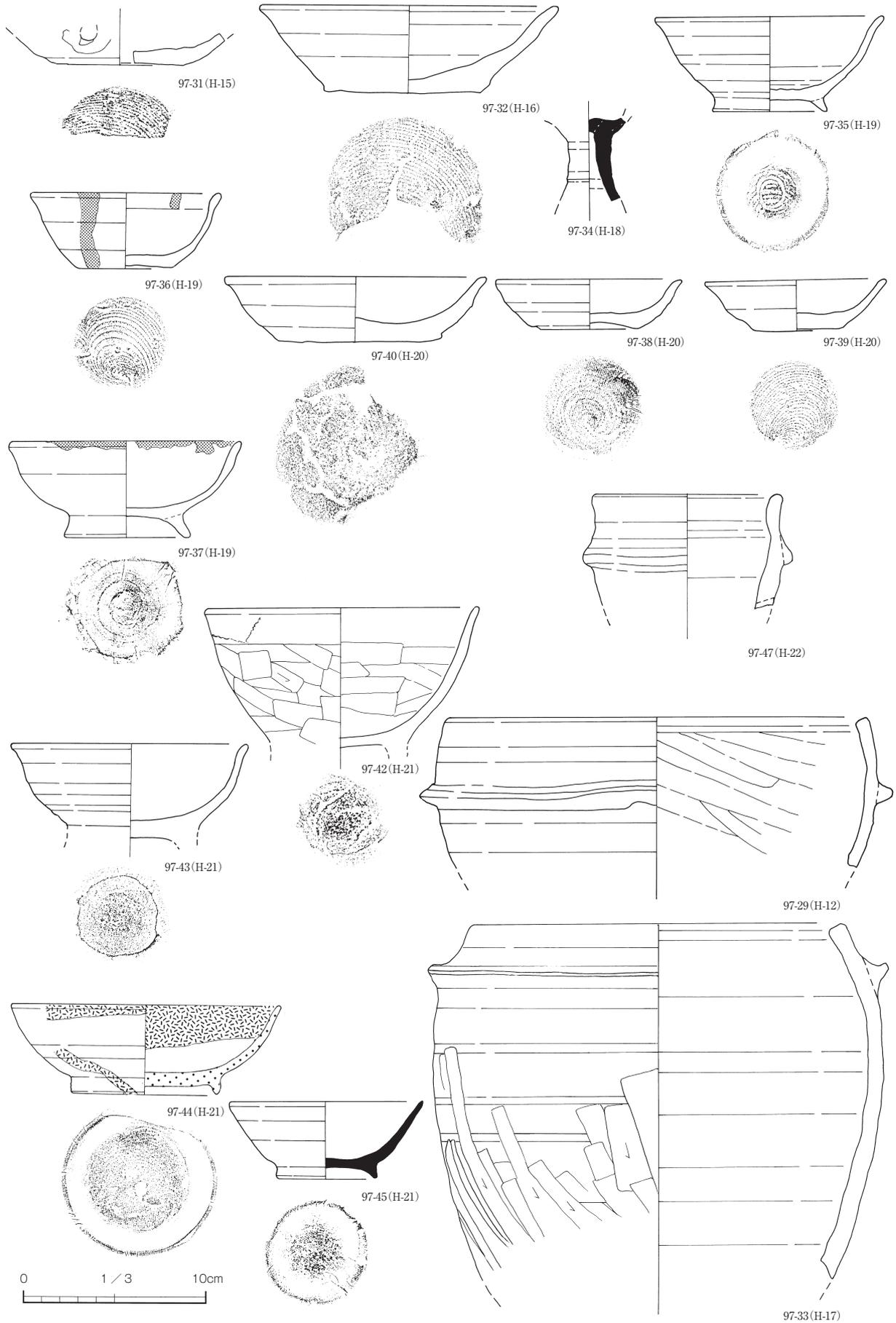


Fig.28 (97) H - 15 ~ 22 号住居跡出土遺物

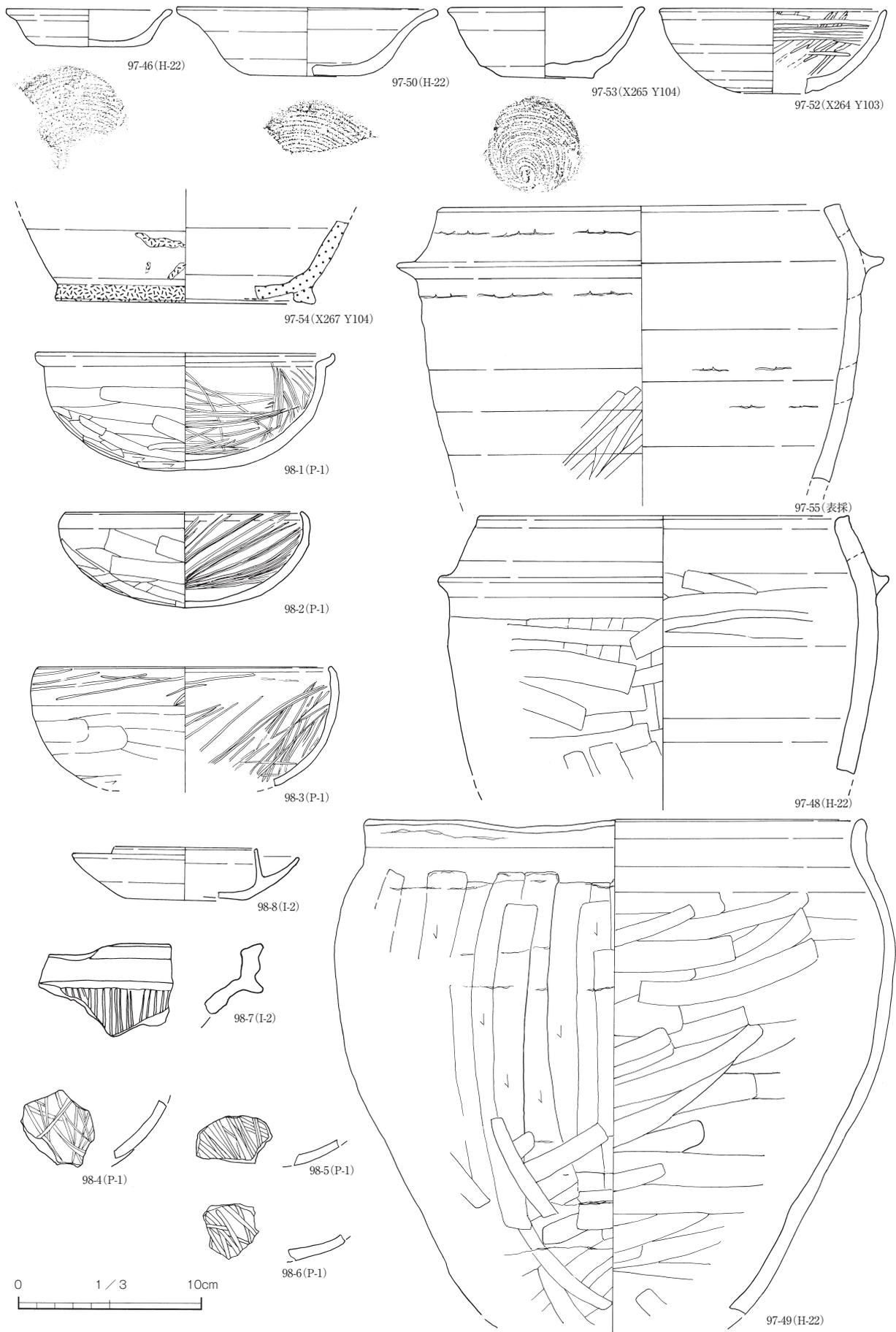


Fig.29 (97) H - 22 号住居跡、グリッド、表採出土遺物 (98) P - 1 号ピット、I - 2 号井戸跡出土遺物

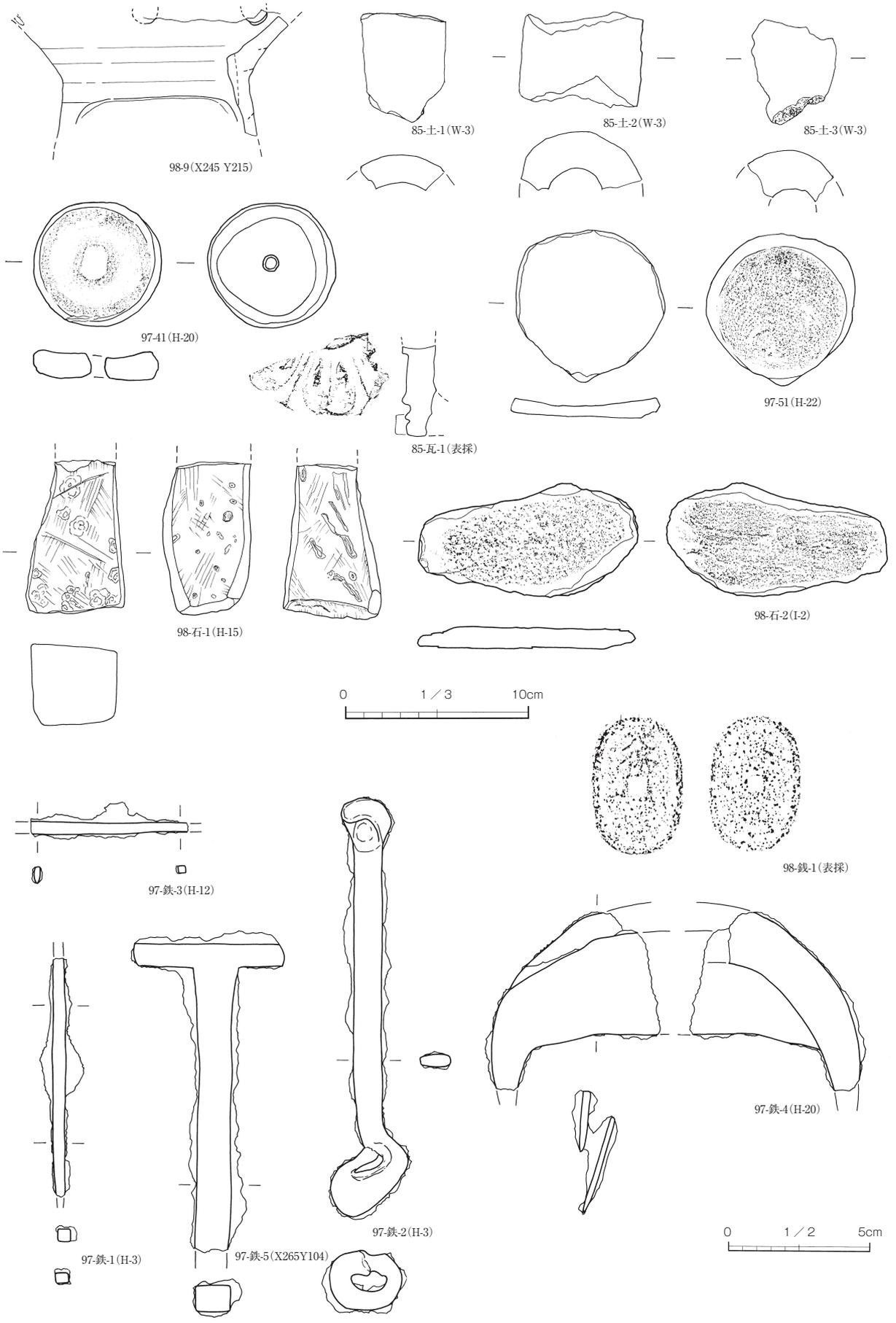
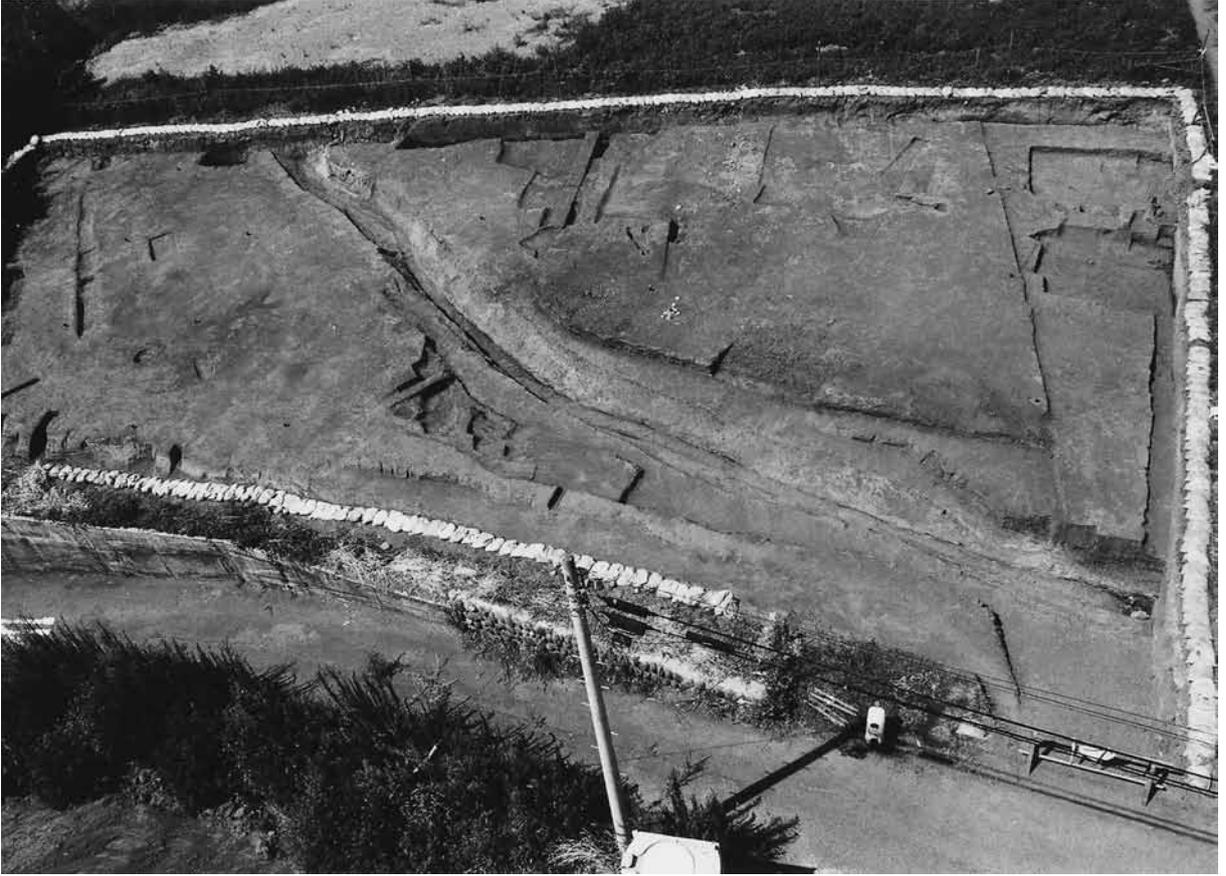
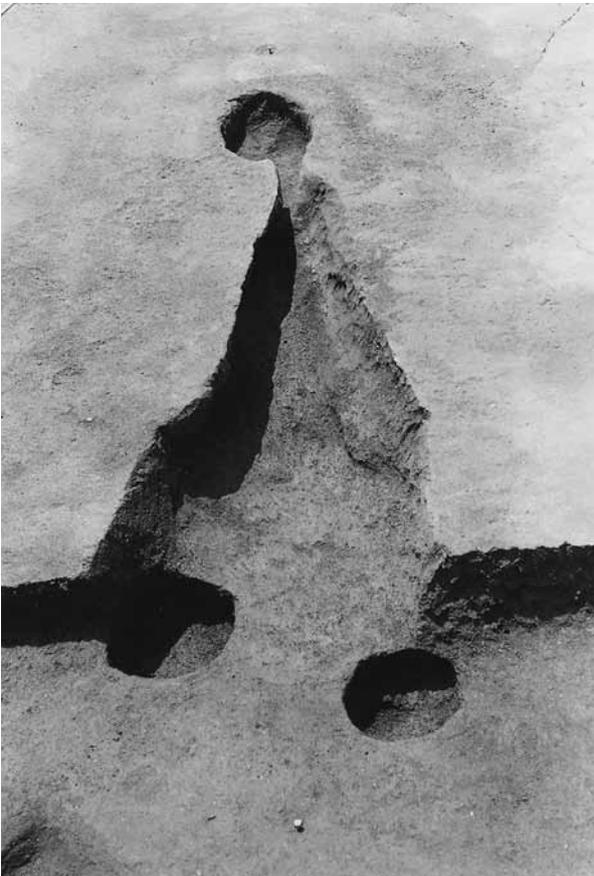


Fig.30 (98) グリッド出土遺物 (85) (97) (98) 土製品、石製品、古銭、瓦、鉄製品

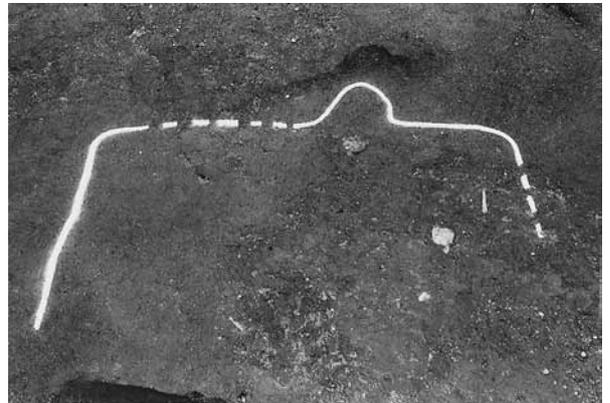
圖 版



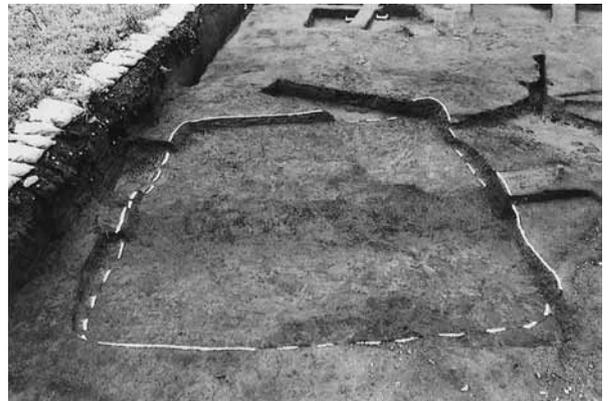
元総社蒼海遺跡群 (85) 調査区全景 上が北



(85) H-1号住居跡カマド全景 北から



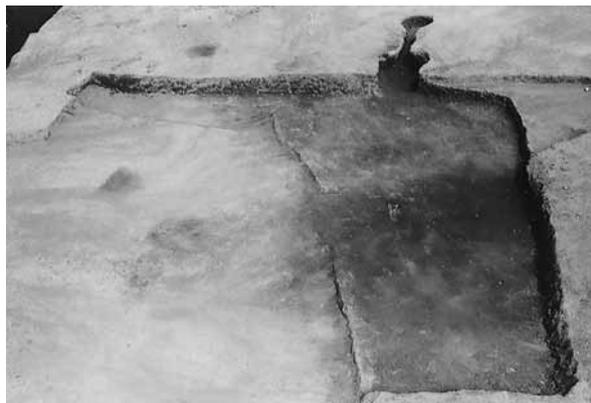
(85) H-5号住居跡全景 西から



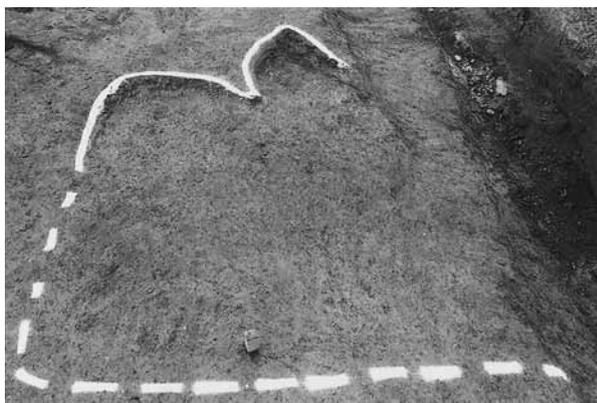
(85) H-6号住居跡全景 西から



(85) H-7号住居跡全景 西から



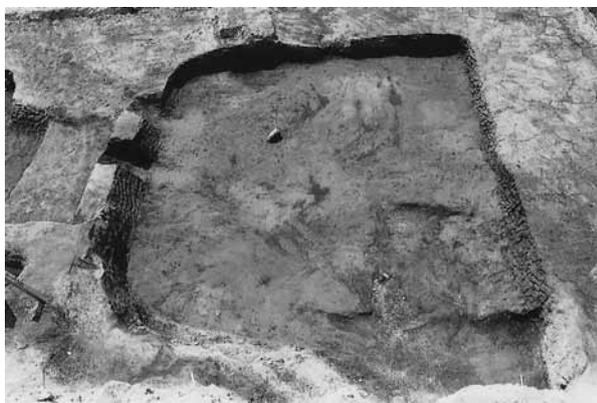
(85) H-8号住居跡全景 西から



(85) H-11号住居跡全景 西から



(85) H-13号住居跡全景 東から



(85) H-12号住居跡全景 東から



(85) W-3号溝跡セクション 西から



(85) W-1号溝跡全景 東から



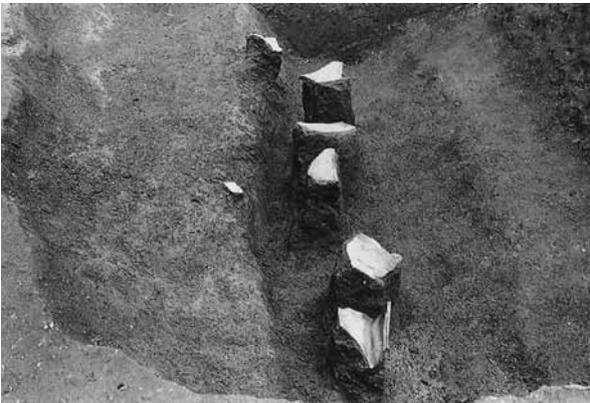
(85) W-3号溝跡全景 南東から



(85) W-3号溝跡断面 東から



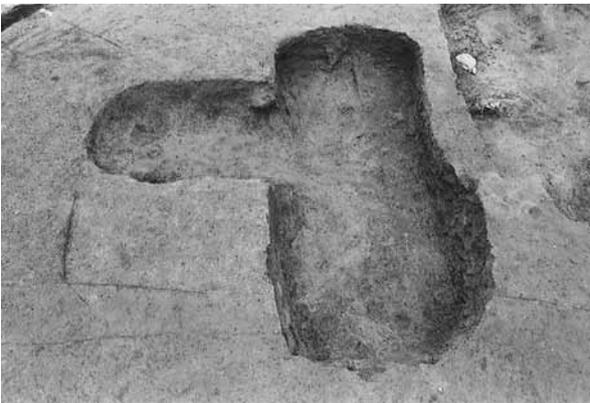
(85) W-3号溝跡断面 西から



(85) W-3号溝跡出土遺物



(85) D-3号土杭全景 北から



(85) D-2号土杭全景 南から



(88) Hr-FA下畠耕作痕断面 西から



(88) Hr-FA 下畠耕作痕 調査区西側 南から



(88) Hr-FA 下畠耕作痕 調査区東側 南から



元総社蒼海遺跡群 (89) 調査区全景 東から



元総社蒼海遺跡群 (89) 調査区全景 西から



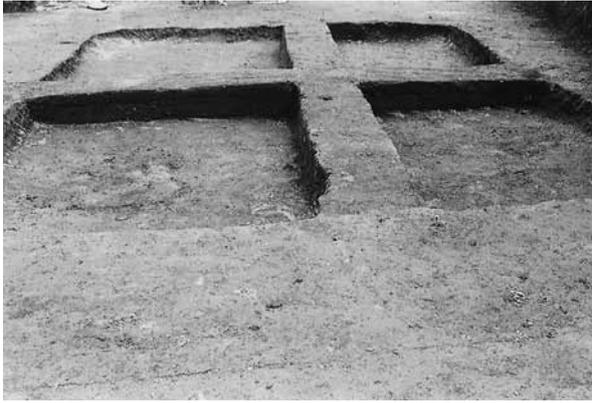
(89) W-2号溝跡全景 南から



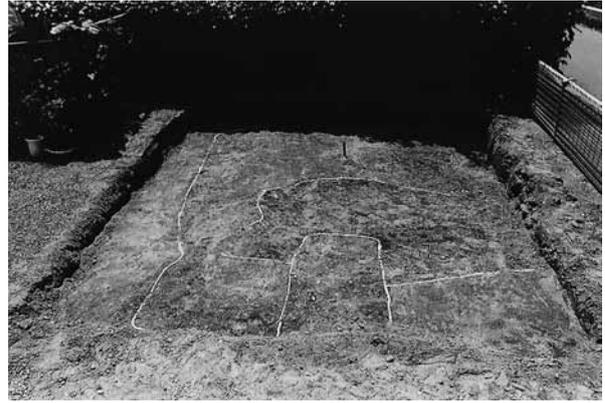
(89) W-2号溝跡出土遺物 南から



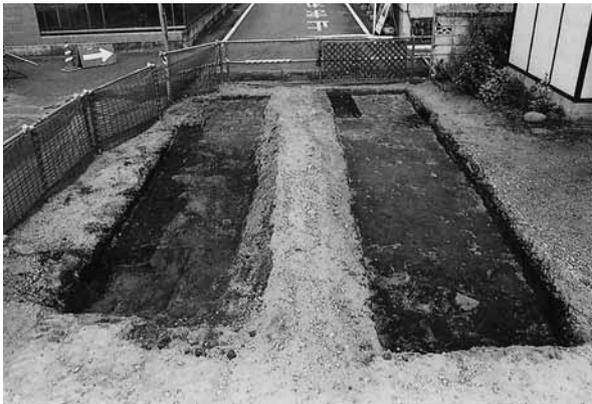
元総社蒼海遺跡群 (90) 調査区全景 西から



(90) T-1号竪穴状遺構 堀削状況 西から



元総社蒼海遺跡群 (96) 調査区西側全景 東から



元総社蒼海遺跡群 (96) 調査区東側全景 西から



元総社蒼海遺跡群 (98) 調査区全景 東から



(98) P-1出土遺物 南から



(98) P-1セクション 南から



(98) I-1号井戸跡全景 東から



(98) I-2号井戸跡全景 南から



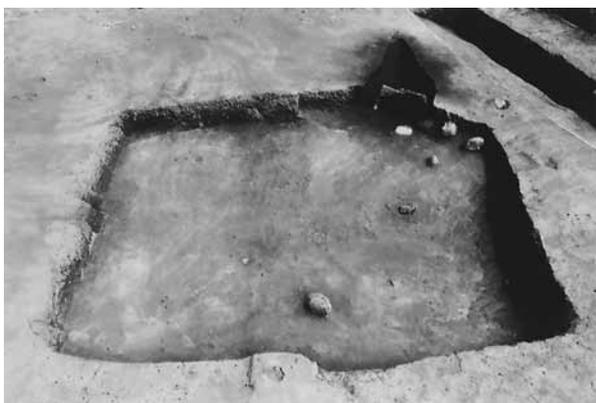
(98) I-2号井戸跡全景 西から



元総社蒼海遺跡群 (97) 遠景 南から



元総社蒼海遺跡群 (97) 調査区全景 西から



(97) H-1号住居跡全景 西から



(97) H-1号住居跡カマド全景 西から



(97) H-1号住居跡出土遺物 北から



(97) H-2号住居跡全景 西から



(97) H-2号住居跡全景出土遺物 東から



(97) H-2号住居跡出土遺物 北から



(97) H-3号住居跡全景 西から



(97) H-3号住居跡出土遺物 南から



(97) H-3号住居跡出土鉄製品 東から



(97) H-4号住居跡全景 西から



(97) H-6号住居跡全景 西から



(97) H-6号住居跡旧カマド全景 北から



(97) H-6号住居跡新カマド全景 西から



(97) H-7号住居跡全景 西から



(97) H-7号住居跡カマド全景 西から



(97) H-8号住居跡全景 西から



(97) H-9号住居跡、D-3号土杭(手前)全景 西から



(97) H-10号住居跡全景 西から



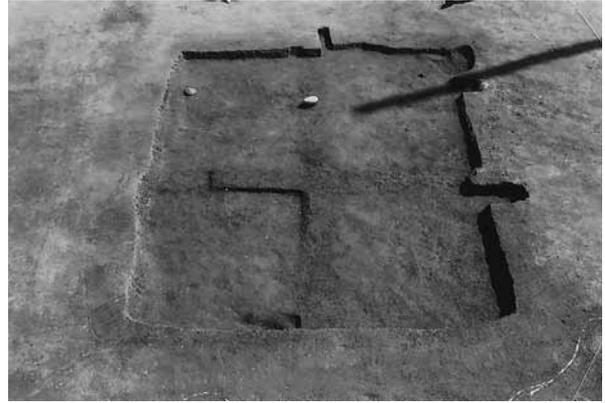
(97) H-11 号住居跡全景 西から



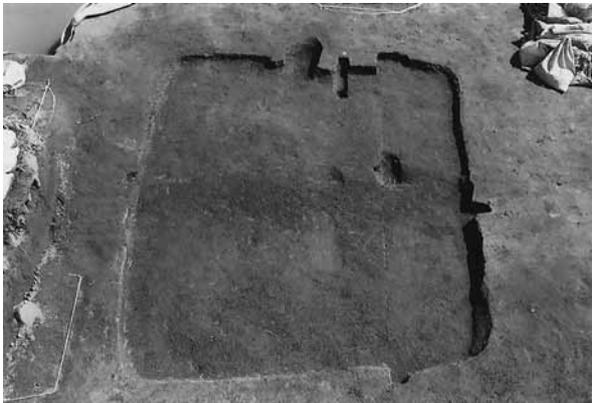
(97) H-12 号住居跡全景 西から



(97) H-12 号住居跡カマド全景 西から



(97) H-13 号住居跡全景 西から



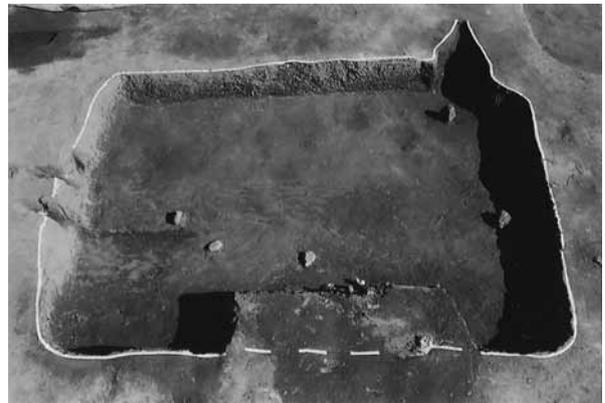
(97) H-14 号住居跡全景 西から



(97) H-15 号住居跡全景 西から



(97) H-15 号住居跡カマド全景 西から



(97) H-16 号住居跡全景 西から



(97) H-16号住居跡カマド全景 西から



(97) H-17号住居跡全景 西から



(97) H-18号住居跡全景 西から



(97) H-19号住居跡全景 西から



(97) H-19号住居跡カマド全景 西から



(97) H-19号住居跡出土遺物



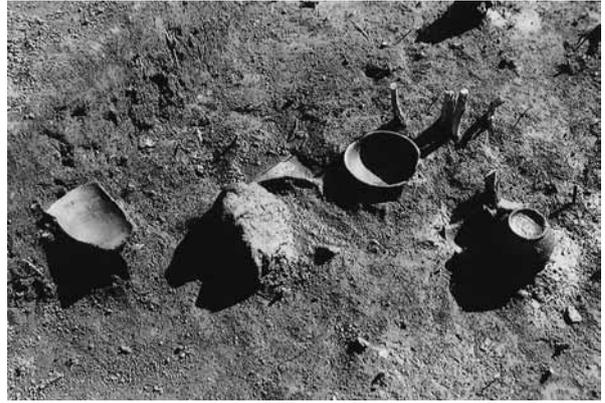
(97) H-19号住居跡出土遺物



(97) H-20号住居跡全景 西から



(97) H-21 号住居跡全景 西から



(97) H-21 号住居跡出土遺物



(97) H-22 号住居跡全景 西から



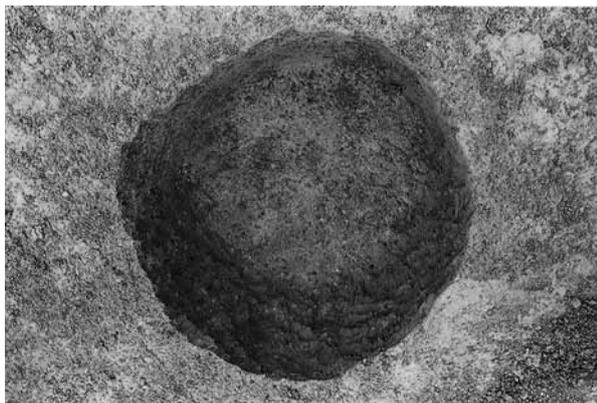
(97) H-22 号住居跡カマド全景 西から



(97) W-1 号溝跡東部分 東から



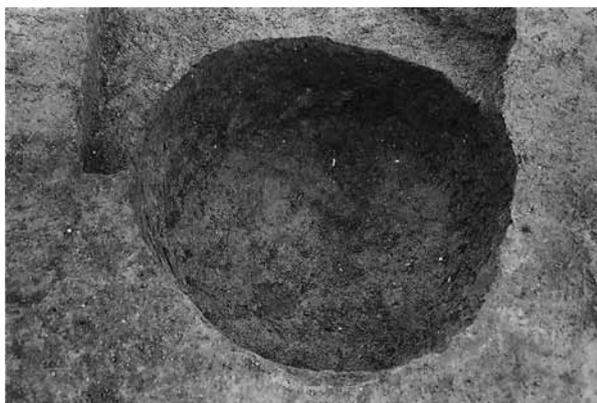
(97) W-1 号溝跡東部分 西から



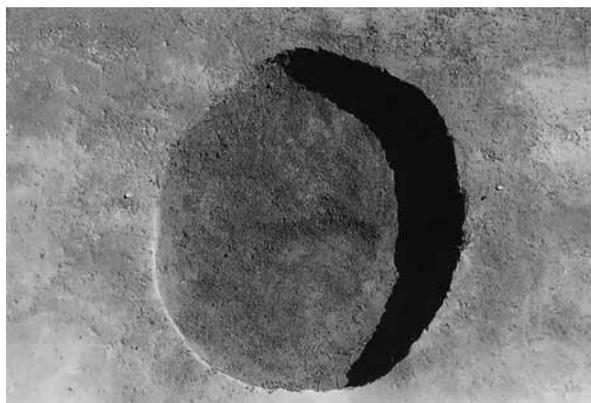
(97) D-1号土杭全景 北から



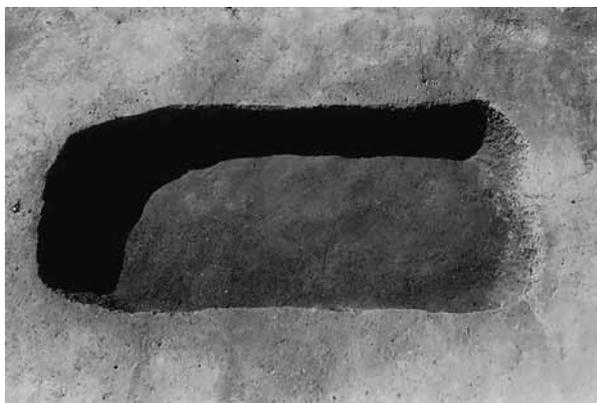
(97) D-2号土杭全景 西から



(97) D-3号土杭全景 西から



(97) D-6号土杭全景 西から



(97) D-7号土杭全景 東から



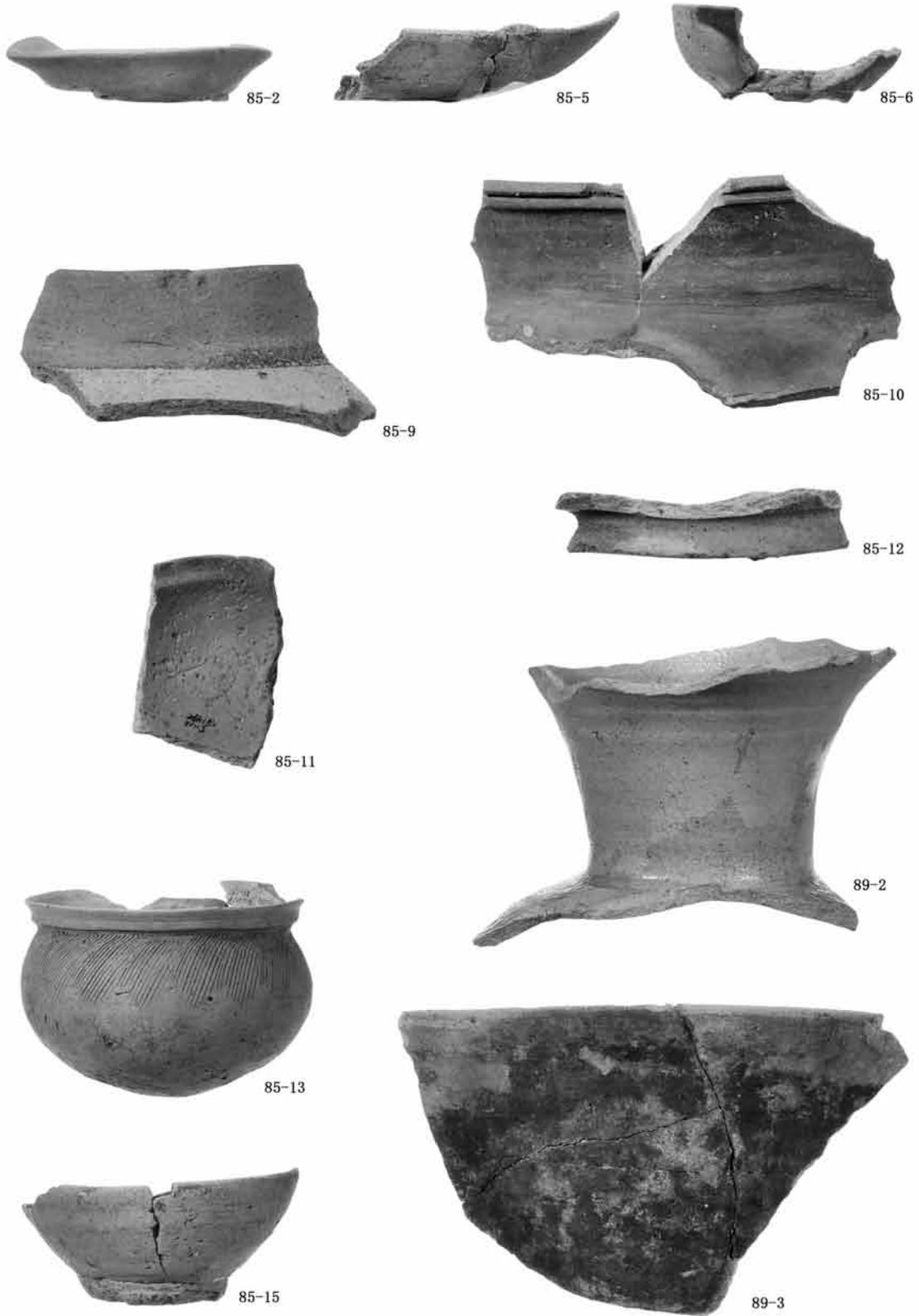
(97) D-8号土杭全景 西から



(97) H-15号住居跡 調査風景



元総社蒼海遺跡群 (97) 調査風景



出土遺物 (1)



97-1



97-4



97-5



97-6



97-13



97-8



97-16



97-18



97-22



97-20



97-25



97-30



97-26



97-34



97-31



97-35



97-33



97-32



97-36



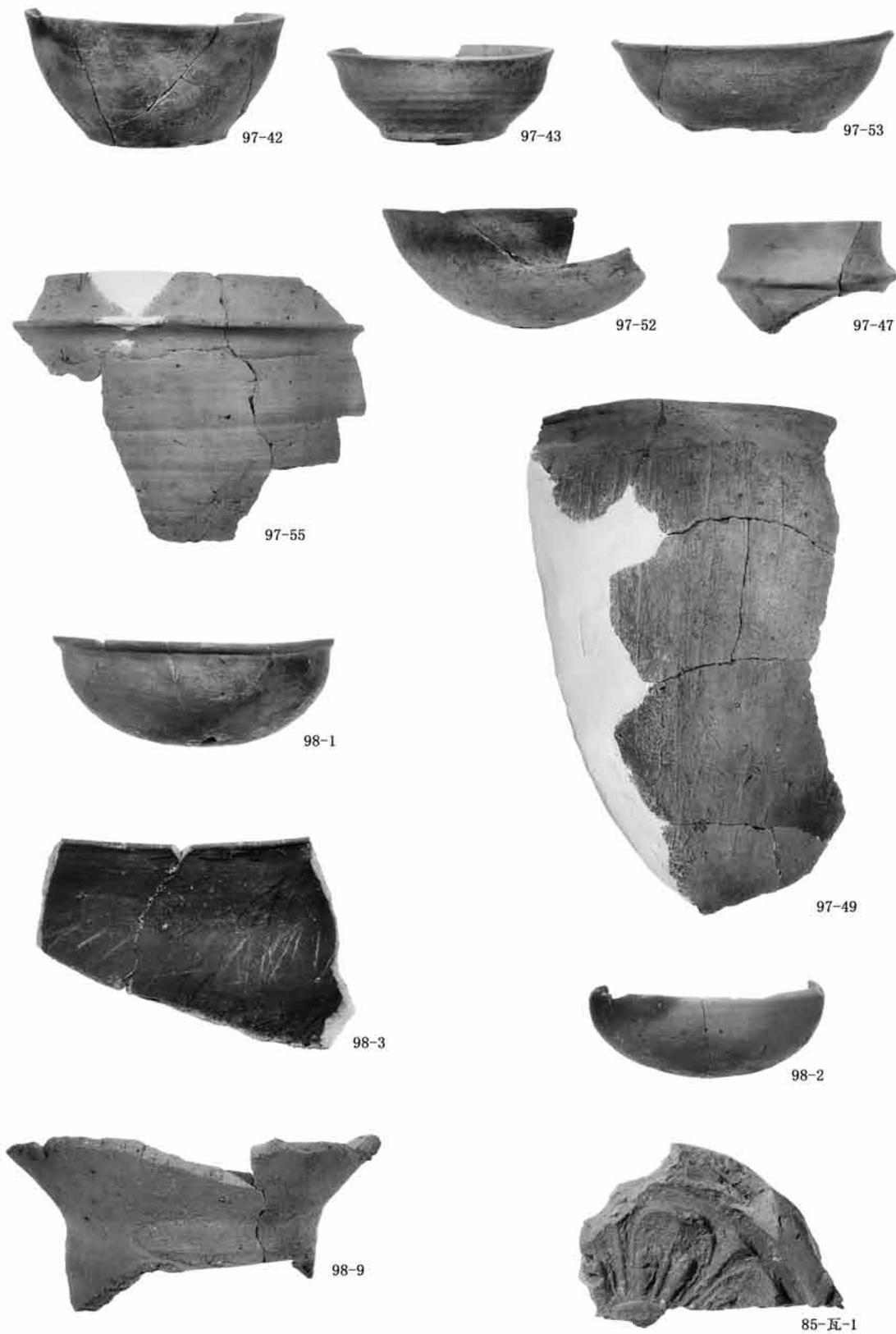
97-37



97-38



97-41





85-土-1



85-土-2



85-土-3



97-鉄-1



97-鉄-2



97-鉄-3



97-鉄-4



97-鉄-5

抄 録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン (85)、(88)、(89)、(90)、(96)、(97)、(98)
書名	元総社蒼海遺跡群 (85)、(88)、(89)、(90)、(96)、(97)、(98)
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小峰篤・渡辺亮介
編集機関	前橋市教育委員会
編集機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町三丁目11番4号
発行年月日	西暦2015年3月27日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (85)	マエバシ シ ソウジャマチ 前橋市総社町 ソウジャ 総社 3107	10201	26A182	36° 23'24"	139° 02'23"	20140602 { 20140805	483㎡	前橋都市計画 事業元総社蒼 海土地区画整 理事業
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (88)	マエバシ シ ソウジャマチ 前橋市総社町 ソウジャ 総社 3127	10201	26A185	36° 23'29"	139° 02'26"	20140520 { 20140522	50㎡	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (89)	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町 2178-1 他	10201	26A186	36° 23'07"	139° 02'04"	20140527 { 20140604	73㎡	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (90)	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町 1338-1	10201	26A187	36° 23'08"	139° 01'51"	20140523 { 20140529	69㎡	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (96)	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町 2099	10201	26A191	36° 23'12"	139° 02'23"	20140715 { 20140717	47㎡	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (97)	マエバシ シ ソウジャマチ 前橋市総社町 ソウジャ 総社 3111-1 他	10201	26A192	36° 23'24"	139° 02'25"	20140723 { 20141113	927㎡	
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (98)	マエバシ シ モトソウジャ 前橋市元総社 マチ 町 2095-1 他	10201	26A193	36° 23'10"	139° 02'22"	20140903 { 20140926	286㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群 (85)	集落跡	平安	竪穴住居跡 9 軒、 溝跡 6 条、土坑 4 基	酸化焰焼成小型坏、羽釜、 緑釉陶器	
元総社蒼海遺跡群 (88)	畠跡	古墳・中世	畠跡		
元総社蒼海遺跡群 (89)	集落跡	平安・中世	竪穴状遺構 1 軒、 溝跡 2 条	灰釉陶器、羽釜、土釜	
元総社蒼海遺跡群 (90)	集落跡	中世	竪穴状遺構 1 軒		
元総社蒼海遺跡群 (96)			遺構なし		
元総社蒼海遺跡群 (97)	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡 22 軒 溝跡 1 条、土坑 9 基	酸化焰焼成小型坏、羽釜、 土釜	
元総社蒼海遺跡群 (98)	集落跡	平安・中世	掘立柱建物跡 2 棟、 井戸跡 2 基、土坑 4 基、 ピット 40 基		

元総社蒼海遺跡群

(85) (88) (89) (90) (96) (97) (98)

2015年 3月23日 印刷
2015年 3月27日 発行

編集・発行 前橋市教育委員会 文化財保護課
前橋市総社町三丁目 11 番 4 号
印 刷 株式会社開文社印刷所
